於テハ樣式（其ノ二）ニ依ル報告中ニ　御眞影奉安狀況及授業繼續又ハ休止ノ狀況ヲ特記スルコト

◎燈火管制規則

（昭和十三年四月四日　內務、陸軍、海軍、遞信、鐵道省令第一號）
改正（昭和十七年六月二日同省令第一號）

第一條　燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ防空法第八條（同法第十條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル光ノ秘匿ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　燈火管制ハ第四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

2 警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

3 空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

4 燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル前二項ノ防空警報ハ訓練防空警報トス

第三條　警戒管制又ハ空襲管制中ノ光ノ秘匿ハ日沒ヨリ日出迄ノ間第一號表乃至第七號表ニ揭クル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第四條　第一號表ノ屋外燈（標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク）ニシテ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ指定スルモノハ其ノ定ムル期間日沒ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ

2 地方長官前項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ告示スベシ

第五條 左ノ各號ニ掲グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ

一 建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ内部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ

二 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ地方長官ノ指定スル光

第六條 左ニ掲グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

一 消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ

二 特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ

第七條 第一號表乃至第七號表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）ノ通知ニ依リ地方長官之ヲ定メ其ノ他ノ區域ハ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

2 前項ノ規定ニ依リ離キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第八條 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表中ノ許可又ハ指定ハ地方長官之ヲ爲スモノトス

第九條 第一號表、第二號表、第四號表乃至第七號表中遮蔽ト稱スルハ開口部其ノ他ニ覆ヲ施シ外部ニ對シ漏光ナカラシムルヲ謂フ

2 第一號表乃至第五號表中遮光ト稱スルハ光源ニ對シ直接覆ヲ施シ又ハ之ニ準ズル方法ヲ講ジ各表ニ掲グル條件ニ依リ光ヲ遮ルヲ謂フ

3 第四號表及第五號表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

4 第一號表、第三號表、第四號表、第五號表及第七號表中透視距離ト稱スルハ光源及其ノ反射光等一切ノ光ヲ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第十條 左ニ掲グル事項ニ關シテハ地方長官又ハ警察署長ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ但シ豫メ陸海軍司令官ト協定シタル事項ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

一 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表ニ依ル許可又ハ指定ヲ爲サントスルトキ

二 第四條第一項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メントスルトキ

三 第五條第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントスルトキ

四 空襲管制ノ場合ニ於テ第六條第二號ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキ

附　則

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表　一般屋外燈ノ光ノ秘匿ノ程度

<table>
<tr><th rowspan="2" colspan="2">種類</th><th colspan="2">警戒管制</th><th rowspan="2">空襲管制</th><th rowspan="2">遮光條件</th></tr>
<tr><th>乙</th><th>甲</th></tr>
<tr><td colspan="2">廣告、裝飾、看板燈類
廣告燈
看板燈
裝飾燈
其ノ他之ニ類スル燈火</td><td>消燈</td><td>消燈</td><td>消燈</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">標識燈類
火災報知機標識燈
非常報知機標識燈
避難所標識燈
救護所標識燈
警察消防官署標識燈
消火栓標識燈
其ノ他之ニ類スル燈火
（例各種機器作動表示燈、防空ノ實施及訓練上必要ナル各種標識燈等）</td><td>減光
透視距離五〇〇米以下トスルコト</td><td>減光且遮光
透視距離五〇〇米以下トスルコト</td><td>減光且遮光
透視距離五〇〇米以下トスルコト</td><td>地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト</td></tr>
<tr><td rowspan="2">街路燈類</td><td>街路燈（橋梁表示燈ヲ除ク）
其ノ他之ニ類スル燈火
（例 街路照明ヲ兼ヌル電車柱燈、電柱街燈、街路投光器ヲ使用スル街路照明燈等）
註 鐵道內ノ燈火及街路ノ一部ヲ成ス廣場ノ照明燈ヲ含ム</td><td>減光且遮光
街路面一〇〇平方米ニ付一・五燭光以內、一燈一六燭光以下トスルコト</td><td>消燈
但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ街路面ニ於ケル最大照度ヲ〇・一五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得</td><td rowspan="2">消燈</td><td rowspan="3">光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線カ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト</td></tr>
<tr><td>地下道照明燈其ノ他ニシテ地表ニ放光スル燈火</td><td>減光且遮光
八燭光以下トスルコト</td><td>消燈隱蔽
但シ必要ニ應ジ透視距離五〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得</td></tr>
<tr><td colspan="2">門軒燈類
門燈
軒燈
其ノ他之ニ類スル燈火
（例 標札照明燈、玄關「テレス」燈等）</td><td>消燈
但シ必要ニ應ジ街路燈類ニ代用スルモノハ該燈類ニ關スル制限內ニ於テ殘置スルコトヲ得</td><td>消燈
但シ必要ニ應ジ街路燈類ニ代用スルモノハ許可ヲ受ケ該燈類ニ關スル制限內ニ於テ殘置スルコトヲ得</td><td>消燈</td></tr>
</table>

第二號表　一般屋内燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類	店先燈類	普通屋内燈類	屋外作業燈類	特別屋外燈類
種類	店先裝飾燈 店先吊下燈 店先陳列棚照明燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註 店先トハ店舗面ノ外部ヲ謂フ	店先燈類以外ノ屋内燈	作業ニ必要ナル屋外燈火 註 側壁ナキ建物内ノ作業ニ必要ナル燈火ヲ含ム 露店燈	公園燈 庭園燈 社寺屋外燈 廣場照明燈 各種運動競技操業場屋外照明燈 其ノ他他ノ種類ニ屬セザル屋外燈火(例露營燈、墓地燈、屋上燈、祭禮用燈火等) 註 側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム
警戒管制 乙	消燈	隱蔽 減光且遮光 (イ)室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以内、一燈五〇燭光以下トスルコト (ロ)室ノ廣サ三平方米ニ付一燭光以内、一燈一燭光以下トシ光源ト開口部トノ距離ヲ一、八米以上トスルコト 漏光制限	減光且遮光 作業面一〇〇平方米ニ付三燭光以内、一燈一六燭光以下トスルコト 露店燈：減光且遮光 一店一燈トシ八燭光以下トスルコト	消燈 但シ公園燈、社寺屋外燈、廣場照明燈ニ限リ交通治安維持ノ必要アル場合面積一〇〇平方米ニ付〇・二燭光以内、一燈八燭光以下ニ減光シ且遮光シ各燈ノ間隔ヲ八〇米以上トシテ殘置スコトヲ得
警戒管制 甲	消燈	隱蔽 減光且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付〇・五燭光以内一燈二燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽 但シ迅速ニ消燈シ得ル設備ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ作業面ニ於ケル最大照度〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈
空襲管制	消燈	消燈 隱蔽	消燈 隱蔽	消燈
遮光條件		乙ノ(イ)及甲ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト 乙ノ(ロ)ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ノ外側ニ於テ水平以上	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	

第三號表　一般交通關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類			警戒管制			空襲管制	遮光條件
			乙	甲			
交通信號燈類	交通整理信號燈 交通整理手提信號燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ値		減光シ且遮光シ合計二燈以下トスル各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ三「ルクス」以下トスルコト	減光シ且遮光シ合計二燈以下トスル各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ三・七「ルクス」以下トスルコト	消燈	地表上三〇米以上ノ何レモノ點ニ於テ反射又ハ其ノ一切ノ光ヲ認メザルコトヲ得
交通標識燈類	安全地帶標識燈 停留所標識燈 障碍注意燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ値	減光シ且遮光シ一箇所一燈トシ五燭光以下トスルコト	減光シ且遮光シ透視距離五〇〇米以下トスルコト	減光シ且遮光シ各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ三・七「ルクス」以下トスルコト	消燈	光源ヨリ直接ニ射ルコトヲ得ザルモノ 乙　光源ヨリ直接ニ射ルコトヲ得ザル場合 甲　地表上三〇米以上ノ何レモノ點ニ於テ反射又ハ其ノ一切ノ光ヲ認メザルコトヲ得ザル場合

許可ヲ受ケ漏光面ヲ透過スル光東ヲ一平方米ニ付三「ルーメン」以下トスルコト

ニ向ハザルコト

自動車燈類				
前照燈 側燈 註　案内燈ヲ含ム	減光シ合計二燈以下トスル各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ三「ルクス」以下トスルコト	減光シ且遮光シ合計二燈以下トスル各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ三・七「ルクス」以下トスルコト	平常ノ値	自動車水平ノ上方ニ向ハザルコト
尾燈 車輛番號照明燈 停止燈	平常ノ値	減光シ各一燈トシ透視距離三〇〇米以下トスルコト	平常ノ値	光源ヨリ直接ニ射ルコトヲ得ザルモノ 乙　光源ヨリ直接ニ射ルコトヲ得ザル場合 甲　地表上三〇米以上ノ何レモノ點ニ於テ反射又ハ其ノ一切ノ光ヲ認メザルコトヲ得ザル場合
方向指示器燈 計器燈	平常ノ値	減光シ透視距離三〇〇米以下トスルコト	平常ノ値	光源ヨリ直接ニ射ルコトヲ得ザルモノ 乙　光源ヨリ直接ニ射ルコトヲ得ザル場合 甲　地表上三〇米以上ノ何レモノ點ニ於テ反射又ハ其ノ一切ノ光ヲ認メザルコトヲ得ザル場合
方向幕照明燈 室内燈ニ限リ各燈毎ニ遮光スル型車札照明燈	個レ乗合自動車室内燈ニ限リ各燈毎ニ遮光スルコト	消燈		開口部ニ向ハザルコト

室内燈 乘合自動車標示燈 其ノ他ノ燈火	消 但シ室内燈ハ一燈ニ限リ減光シテ殘ル二燈ハ自動車ニ下シ且遮光シテ得ル光ハ三〇燭光以下トスル	
普通車輛燈類 自轉車燈 手車燈 人力車燈 荷車燈 牛馬車燈 乘合馬車燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ燈 減 光度ハ一〇燭光以下トシ遮光ニ依リ有效ナル點光ハ減光ノ程度ニ準ス 電燈ニ代ル燈火ハ之ニ準ス	消燈
携帶燈類 個人携帶燈 其ノ他之ニ類スル燈火		燈器其表面ノ水平光源ノ上方三〇〇米以上ノ地點ニ於テ何レモ認メ得ザルコト

第四號表　鐵道軌道關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類		信號合圖燈類	
警戒管制	乙	平常ノ燈 場内信號機燈 出發信號機燈 閉塞信號機燈 拖網信號機燈 遠方信號機燈 其ノ他之ニ類スル燈火	誘導信號機燈 入換信號機燈 臨時信號機燈 （徐行警告標燈ヲ含ム） 合圖ニ用フル諸燈火 其ノ他之ニ類スル燈火
	甲	減 光度ハ一〇燭光以下トシ且遮光ニ依リ有效ナル點光ハ減光ノ程度ニ準ス 電燈ニ代ル燈火ハ之ニ準ス 道路ニ於テハ一〇米以下 軌道ニ於テハ一〇米以下 鐵道ニ於テハ一〇米以下 道路ニ於テハ一〇米以下 軌道ニ於テハ一〇米以下	減 光度ハ一〇燭光以下トシ且遮光ニ依リ有效ナル點光ハ減光ノ程度ニ準ス 電燈ニ代ル燈火ハ之ニ準ス 道路ニ於テハ一〇米以下 軌道ニ於テハ一〇米以下 鐵道ニ於テハ一〇米以下 道路ニ於テハ一〇米以下 軌道ニ於テハ一〇米以下
空襲管制		消燈 減光 確認ニ代ル燈火ハ且遮光ニ依リ有效ナル點光ハ減光ノ程度ニ準ス 道路ニ於テハ一〇米以下 鐵道ニ於テハ一〇米以下 道路ニ於テハ一〇米以下 軌道ニ於テハ一〇米以下	消燈 減光 確認ニ代ル燈火ハ且遮光ニ依リ有效ナル點光ハ減光ノ程度ニ準ス 道路ニ於テハ一〇米以下 鐵道ニ於テハ一〇米以下 道路ニ於テハ一〇米以下 軌道ニ於テハ一〇米以下
遮光條件		地表ニ於テ上方三〇〇米以上ノ點ニ於テ何レモ認メ得ザルコト	光源ノ射光ハ地表ニ於テ上方三〇〇米以上ノ點ニ於テ何レモ認メ得ザルコト

地上標識燈類

手信號ニ用フル燈火 信號燈類似ノ各種反應器 道路ヲ表示スル燈火 其ノ他之ニ類スル燈火	轉轍器及轍叉等ノ標識 車止標識燈 列車火ノ車輪ノ停止位置ヲ表示スル諸標燈 徐行ヲ容標燈 其ノ他之ニ類スル燈火	接近表示燈	信號機附隨ノ識別燈 其ノ他ノ各種標識類似燈
平常ノ値			
減 光確ト米 以認且 下距遠 ト離光 ス一 ル〇 コ〇	減 光確ト米 以認且 下距遠 ト離光 ス三 ル〇 コ〇	減 以確光 下認且 ト距遠 ス離光 ル五 コ〇 ト米	減 光確ト米 以認且 下距遠 ト離光 ス三 ル〇 コ〇
減消 燈光確ト〇 且認ス〇 遠距ル米 光離コ以 ト下一	減消 燈光確ト〇 且認ス〇 遠距ル米 光離コ以 ト下三	減 光確ス〇 且認ル米 遠距コ以 光離ト下 ト五	減消 燈光確ト〇 且認ス〇 遠距ル米 光離コ以 ト下一
地上ノ光源ト米 光点ヲ以表 ル光ヲ以上 コ認ハ上 ト等リ三 メ一其ノ 得切モ何 ザノ反光レ〇			

車輛標識燈類

前部標識燈 註 前照燈及トロリー燈ヲ含ム	後部標識燈	自動開閉式尾表示燈
減光 一燈トシ五燭 以下トスルコト 減光且遠光 一燈トシ二〇燭 以下トスルコト	平常ノ値	平常ノ値
減 光確ト米 以認且 下距遠 ト離光 ス三 ル〇 コ〇	減 光確ト米 以認且 下距遠 ト離光 ス三 ル〇 コ〇	減 光確ト米 以認且 下距遠 ト離光 ス三 ル〇 コ〇
減 光確ト〇 且認ス〇 遠距ル米 光離コ以 ト下三	減 光確ト〇 且認ス〇 遠距ル米 光離コ以 ト下三	減 光確ト〇 且認ス〇 遠距ル米 光離コ以 ト下三
地上ノ光源ト米 光点ヲ以表 ル光ヲ以上 コ認ハ上 ト等リ三 メ一其ノ 得切モ何 ザノ反光レ〇	物ノ 場及 合空 場戒 空管 場合制 ノ甲 乙	

車輛燈類	車內照明燈	減光且遮光 (イ)室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以內一燈五〇燭光以下トスルコト (ロ)室ノ廣サ三平方米ニ付五燭光以內一燈一〇燭光以下トスルコト	減光且遮光 (イ)室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以內一燈二燭光以下トスルコト (ロ)室ノ廣サ三平方米ニ付〇・三燭光以內一燈一燭光以下トスルコト
	行先表示燈 運行番號表示燈 計器燈 知ラセ燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト
車輛特殊火光類	蒸汽機關車煙突火粉 蒸汽機關車焚口火焰	平常ノ儘但シ發光量ノ減少ニ努ムルコト	發光量及發光時間ノ減少ニ努ムルコト 發光量及發光時間ノ減少ニ努メ且遮光スルコト
		隱蔽	消燈 隱蔽
		側方全部及上方開放部ノ二以上ヲ蔽フコト	(イ)ノ場合直接光源ヨリ射ス光ガ開口部ニ向ハザルコト (ロ)ノ場合特ニ指定スル窗間ノ隔リモ漏レ光セザルコト (イ)ニ同ジ其ノ他ハ

電氣機關車、電車、無軌條電車、鋼索車等ノ火花類	極力防止ニ努ムルコト	極力防止ニ努ムルコト	極力防止ニ努ムルコト
點檢燈類	點檢燈 車號燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註 合圖燈ヲ本類ノ目的ニ使用スル場合ヲ含ム	消燈 減光且遮光 一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度「ルクス」以下トスルコト	消燈 減光且遮光 一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度「ルクス」以下トスルコト
	巡檢燈	平常ノ儘	減光且遮光 二米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一「ルクス」以下トスルコト
	列車扱構內照明燈 其ノ他之ニ類スル燈火	減光且遮光 作業面一〇〇平米ニ付三燭光以內方	消燈但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・一「ルクス」以下五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得
		消燈	消燈 減光且遮光 一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ〇・五「ルクス」以下トスルコト
			燈器水平ノ上方ヲ全部遮蔽スルコトヲ得ザルコト

特殊照明燈類

入換作業用構内照明燈 註 操車場組成驛ニ限ル	一燈五〇燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・二三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得		
各種詰所屋外燈 車庫屋外燈 電車駐燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註 側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	減光 且遮光 地表面一〇〇平方米ニ付一・五燭光以内、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・一五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
乘降場屋外燈 洗滌臺屋外燈 給炭水屋外燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註 側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	減光 且遮光 地表面一〇〇平方米ニ付三燭光以内、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ被照面ニ於ケル最大照		

		度ヲ〇・二三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得		
屋内各種表示燈	平常ノ儘	減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト	消燈 遮蔽	
屋外各種表示燈 誘導燈 註 側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離五〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈ニ限リ透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	
出札口屋外燈 改集札口屋外燈 註 側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	減光 且遮光 窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈トシ五燭光以下トスルコト	減光 且遮光 窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈トシ一燭光以下トスルコト	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト

踏切燈類			
踏切警報器燈	平常ノ儘	減光且遮光透視距離三〇〇米以下トスルコト	減光且遮光視距離五〇〇米以下トスルコト
踏切表示燈 踏切注意標照明燈	減光且遮光踏切道面一〇〇平方米ニ付八燭光以内一燈一六燭光以下トスルコト	減光且遮光五燭光以下トスルコト	消燈但シ必要ニ應ジ踏切注意標照明燈ニ代用スル該燈ハ殘置スルコトヲ得
踏切照明燈	減光且遮光踏切道面一〇〇平方米ニ付八燭光以内一燈一六燭光以下トスルコト	減光且遮光視距離五〇〇米以下トスルコト	消燈但シ必要ニ應ジ踏切注意標照明燈ニ代用スル該燈ハ殘置スルコトヲ得
地下ニ敷設シタル鐵道軌道内燈、隧道内照明燈及其ノ他地表ニ放光シテ鐵道内燈類ニ類スル燈火	減光且遮光八燭光以下トスルコト	減光且遮光視距離五〇〇米以下トスルコト	消燈但シ必要ニ應ジ踏切注意標照明燈ニ代用スル該燈ハ殘置スルコトヲ得
地下ニ敷設シタル鐵道軌道内燈、隧道内照明燈及其ノ他地表ニ放光シテ鐵道内燈類ニ類スル燈火	消燈	消燈	以上ノ角ヲナスコト

第五號表　船舶關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

航路關係燈類			
種類	警戒管制	空襲管制	遮光條件
航海標識燈	別ニ指示スル所ニ依ル		
航路標識燈ニ類スル燈火	乙 減光且遮光確認距離一、〇〇〇米以下トスルコト	甲 減光且遮光確認距離一、〇〇〇米以下トスルコト	乙 光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト
橋梁表示燈	平常ノ儘	消燈	甲 地表上三〇〇米以上ノ場合ニハ何レモ其ノ光源ヨリ反射又ハ

船燈類

	海上衝突豫防法ニ規定スル船燈 註 湖沼ニ於ケル船舶ノ船燈ヲ含ム
	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最少限度ノ光力トシ且遮光スルコト 但シ増揭燈ハ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト
	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最少限度ノ光力トシ且遮光スルコト 但シ檣燈、増揭燈及埠頭繫留船ノ船燈ハ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト 港内碇泊船ハ確認距離五〇〇米以下ニ減光且遮光スルコト
	消燈 但シ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト
光箒一切ノ光ヲ認メ得ザルコト	確認距離ノ所要ヲ充足スル限度トシテ、上空ニ對シ遮光スルコト

船舶照明燈類

船室内照明燈	消燈 隱蔽且遮光 減光 室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以内、一燈五〇燭光以下トスルコト
一般船室外照明燈	減光且遮光 甲板面一〇〇平方米ニ付三燭光以内、一燈一六燭光以下トスルコト
起重機ヲ用フル荷役用船室外照明燈	減光且遮光 一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下トスルコト
探照燈、安全燈其ノ他ノ火光 註 靜ノ焚火等ヲ含ム	消燈 但シ船體又ハ人命ノ危急ノ場合短時間ニ限リ使用スルコトヲ得
消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・三ルクス以下ニ減光且遮光シテ残置スルコト、ヲ得	
消燈 隱蔽且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付〇・五燭光二燈以下トスルコト	消燈 隱蔽
光源ヨリ直接ニ射光ガ開口部ニ向ハザルコト	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下ヒ且水平面ニ向ヒ二〇度以上ノ角ヲナスコト

埠頭燈類

埠頭上屋倉庫屋外燈其ノ他之ニ類スル燈火 註 側壁ナキ建物內ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光面積一〇〇平方米ニ付三燭光以內一燈一六燭光以下トスルコト	消燈
埠頭起重機外燈	減光且遮光一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下トスルコト	消燈但シ迅速ニ置シスル上一ヲ於テ可ジタル遮光下ニ受ケモ處置ニ三最被ノハ照面許講ル減光ヲ得殘
屋內各種表示燈	平常ノ燈	消燈
屋外各種表示燈誘導燈 註 側壁ナキ建物內ノ燈火ヲ含ム	消燈但シ誘導燈及特ニ指定シタル透視距離五〇〇米以下ノハ殘光ヲ得ル減	消燈但シ誘導燈及特ニ指定シタル透視距離三〇〇米以下ノハ殘光ヲ得ル減
	減光透視距離三〇〇米以下トスルコト	消燈但シ限リ誘導透視距離三〇〇米以下ノ殘光ヲ得ル減
	隱蔽燈	消燈
		光源ノ遮光端ヲ下ニ引具ヘタル線ガ下方水平ニ向ヒ且二〇度以上ノ角ヲナス

埠頭標識燈類

出札口屋外燈改集札口屋外燈 註 側壁ナキ建物內ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈トシ五燭光以下トスルコト	減光且遮光窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈一燭光以下トスルコト
棧橋突端標識燈岩壁突端標識燈波除堤突端標識燈浮棧橋標識燈繫船信號燈稅關監視所標識燈其ノ他之ニ類スル燈火	減光且遮光一箇所一燈トシ五燭光以下トスルコト	減光且遮光確認距離五〇〇米以下トスルコト
	消燈隱蔽	消燈
		光源ノ遮光端ヲ下ニ引具ヘタル線ガ下方水平ニ向ヒ且二〇度以上ノ角ヲナス

備考 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ別ニ告示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シテハ燈火管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ燈火管制ノ乙ノ程度ニ依ル

甲ノ場合 地表上三〇〇米以上ノ空ニ向ハザルコト

乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的何レモ光源ヨリ又ハ其ノ反射光等一切ノ點ヲ認メザルコト

第六號表　航空關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類		管制		空襲管制	減光條件
航空標識燈類	航空燈臺	乙	主管官廳ニ於テ指示	主管官廳ニ於テ指示	
	獨立障碍物標示燈	甲	主要管廳ニ於テ指示	減光消燈	減光後ノ光度ハ必要最少限トス
飛行場	著陸場照明燈		消燈但シ離著時ハ一時點燈スルコトヲ得	減光消燈	
	場周燈		消燈但シ離著時ハ一時點燈スルコトヲ得	減光消燈	
	進入燈		消燈但シ離著時ハ一時點燈スルコトヲ得	減光消燈	
	接地燈				
	滑走路燈				
	停止燈				

場燈類			
風向燈			
風速燈			
各種信號燈			
障碍物標示燈			
雲高測定燈			
飛行場航空燈臺			
航空機	室內燈	消燈隱蔽	消燈隱蔽
	計器燈	平常ノ儘	平常ノ儘
	左(右)翼燈	平常ノ儘	平常ノ儘
	尾燈		
	機首燈	平常ノ儘	消燈但シ必要ニ應ジ點燈スルコトヲ得

第七號表　火焰其ノ他ノ光ノ秘匿ノ程度

燈類			
碇船燈	消燈 但シ地上（水上）屋外ニ於テハ必要ニ應ジ點燈スルコトヲ得	消燈 但シ地上（水上）屋外ニ於テハ必要ニ應ジ點燈スルコトヲ得	消燈
著船燈 照明燈 信號燈	消燈 但シ必要時ニハ點燈スルコトヲ得	消燈 但シ必要時ニハ點燈スルコトヲ得	消燈 但シ必要時ニハ點燈スルコトヲ得
其ノ他	消燈	消燈	消燈

種類				
火焰類	熔鑛爐火焰 平爐火焰 電氣爐火焰 鍛物爐火焰 轉爐大焰 加熱爐火焰 瓦斯發發製造爐火焰 窯業爐火焰 硝子製造爐火焰 亞鉛昇華爐火焰 炭素爐火焰 熔接火焰 鍛冶火焰 鍛延及壓延火焰 汽罐焚口火焰 煙突火焰 其ノ他之ニ類スル火焰	隱蔽 消光 漏光制限 漏光面ヲ透過スル光束ヲ一平方米ニ付一「ルーメン」以下トスルコト	隱蔽 消光 減光 漏光部ノ透視距離三〇〇米以下トスルコト	隱蔽 消光	
第一種制禁光 禁煙火、禁火、野火、篝火、狼火、「ボタ」山ヨリ發スル光 註　警報ニ使用スルモノヲ除ク	消光	消光	消光	

種類	第二禁制光	平常ノ儘	平常ノ儘
	炭火、マッチ、ライター、煙草等ヨリ發スル光 寫眞撮影用閃光		但シ炭火ハ透視距離三〇〇米以下ニ減光スルコト
			隱蔽消光

●訓練防空警報規則（昭和十三年四月五日 内務省令第十二號）

防空法第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ發スル訓練防空警報ハ防空警報ノ區分ニ準ジ訓練警戒警報、訓練警戒警報解除、訓練空襲警報及訓練空襲警報解除トス

訓練防空警報ヲ發スベキ者ハ防空訓練ノ都度內務大臣之ヲ指定ス

前項ノ指定ナキ場合ニ於テハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官又ハ其ノ指定スル者ノ發スル訓練防空警報ヲ以テ第一項ノ訓練防空警報トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●行政執行法（明治三十三年六月二日 法律第八十四號）（抄）

第五條　當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ强制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコト

二　强制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ强制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

2 前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

3 行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ强制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接强制ヲ爲スコトヲ得

第六條　第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徴收法ノ規定ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得

2 行政官廳ハ前項ノ徴收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

3 第一項ノ費用及過料ニ關スル繰替支辨、收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●行政執行法施行令（明治三十三年六月二日勅令第二百五十三號）（抄）

第四條　行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一　各省大臣　二十五圓
二　廳府縣長官　十　圓
三　其ノ他ノ行政官廳　二　圓

第五條　行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條　行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

2 過料ノ處分ハ其ノ金額及納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

第七條第一項　行政執行法條五條ノ費用ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出シ其ノ徵收金及過料ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ニ收入スヘシ

●警防團令（昭和十四年一月二十四日勅令第二十號）

第一條　警防團ハ防空、水火消防其ノ他ノ警防ニ從事ス

第二條　地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ハ職權又ハ市町村長ノ申請ニ依リ警防團ヲ設置スルモノトス

第三條　前條ノ警防團ニ非ザレバ警防團ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第四條　警防團ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依ル　但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村內ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得

第五條　警防團ハ團長、副團長、分團長、部長、班長及警防員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ分團長、部長又ハ班長ハ之ヲ置カザルコトヲ得

第六條　團長及副團長ハ地方長官、其ノ他ノ團員ハ警察署長之ヲ命免ス

第七條　團長ハ團員ヲ統率シ團務ヲ掌理ス

2 副團長ハ團長ヲ補佐シ團長事故アルトキハ之ヲ代理ス

3 分團長、部長及班長ハ上長ノ命ヲ承ケ團員ヲ指揮シテ業務ニ從事ス。

第八條　警防團ハ地方長官之ヲ監督ス

2 警察署長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ警防團ヲ指揮監督ス

第九條　警防團ハ警察部長（警視廳ニアリテハ警務部長但シ水火消防ニ關シテハ消防部長以下之ニ同ジ）又ハ警察署長ノ指揮ニ從ヒ行動スベシ但シ緊急已ムヲ得ザル場合ニ於テハ市町村長又ハ團長ノ指揮ニ從ヒ行動スルヲ妨ゲズ

2 市町村長ハ其ノ擔當スル防空業務ニ付警察署長ニ協議シ警防團ニ指示スルコトヲ得

第十條　警防團ハ警察部長又ハ警察署長ノ命ニ依リ其ノ區域外ノ警防ニ應援スベシ

第十一條　地方長官及警察署長ハ警防團ノ訓練ヲ行フベシ

第十二條　警視廳官制及特設消防署規程ニ依リ設置スル消防署ノ管轄區域ニ於テハ本令中水火消防ニ關スル警察署長ノ職務ハ消防署長之ヲ行フ

第十三條　警防團員ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第十四條　警防團員ノ定員及給與並ニ警防團ニ必要ナル設備資材ハ市町村會ニ諮問シ地方長官之ヲ定ム

2 前項ノ設備資材ハ市町村ニ於テ之ヲ備フベシ

第十五條　警防團ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第十六條　市町村長ハ地方長官又ハ警察署長ノ諮問ニ應ジ警防團ニ關シ意見ヲ答申スベシ

第十七條　町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

2 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

第十八條　內務大臣ノ指定スル市ニ於テハ警防團ノ外地方長官ノ認可ヲ受ケ市長ハ其ノ擔當スル防空業務ニシテ地方長官ノ指定スルモノニ從事セシムル團體ヲ設置スルコトヲ得

第十九條　第四條乃至第十一條及第十五條ノ規定ハ前條ノ團體ニ之ヲ準用ス但シ地方長官又ハ警察部長トアルハ市長、警察署長トアルハ市長ノ定ムル者トス

第二十條　地方長官警防業務ノ統制上必要アリト認ムルトキハ第十八條ノ團體ヲ指揮スルコトヲ得

2 警察署長職務執行上必要アリト認ムルトキハ第十八條ノ團體ニ對シ指示スルコトヲ得

第二十一條　第十八條ノ團體ノ名稱及組織並ニ團員ノ定員、服務方法、服務規律、懲戒、服裝及給與ニ關スル事項ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ市長之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ警防團及第十八條ノ團體ノ設置ニ必要ナル手續ニ關スル規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

消防組規則ハ之ヲ廢止ス

警防團操典

（昭和十四年六月六日　内務省訓令第六號）

第一章　總則

第一條　教練ノ目的ハ警防團員（以下單ニ團員ト稱ス）ヲ訓練シテ諸制式ニ習熟セシムルト共ニ堅固ナル警防精神ヲ涵養シ體力氣力ヲ鍛ヘ同時ニ紀律嚴正ナル警防力ヲ練成シ其ノ團體行動ヲ敏活適正ナラシメ以テ警防諸般ノ要求ニ適應セシムルニ在リ

第二條　警察署長、警防團員ノ教養ヲ掌ル部署ノ長及警防團長ハ操典ヲ遵守シテ能ク團員ヲ教育シ教練ノ目的ヲ達スベキ責任ヲ有ス

第三條　教練ハ順序ヲ逐ヒテ之ヲ行ヒ其ノ經過ヲ急遽ナラシムルベカラズ之ガ實施ニ方リテハ常ニ熱心懇切事ニ從ヒ且些末ノ事項ト雖モ苟モ紀律ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スベカラズ

第四條　教練ヲ行フニ際シテハ團員ニ其ノ目的及精神ヲ說明シ其ノ心得ベキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現サシムルコト緊要ナリ

第五條　教練ノ要旨ハ巧妙ニ在ラズシテ熟練ニ在リ熟練ハ教育ノ懇切ナルト復習ヲ厭ハザルトニ依リテ得ラルルモノナリ故ニ教練ハ絕エズ之ヲ行フヲ必要トス

第六條　指揮者其ノ他ノ幹部ハ常ニ指揮能力ノ練成ニ努メ特ニ其ノ態度及服裝ヲ正シクシ活潑嚴正ナル動作ノ模範ヲ示スコトニ努ムベシ

第七條　指揮者ノ意圖ハ號令又ハ命令ニ依リ告達ス

號令及命令ハ確固タル決意嚴正ナル態度ヲ以テ下スベシ

號令ハ明快ナル音調ヲ以テ發唱シ命令ハ簡明確切ナルヲ要ス

號令ヲ豫令及動令ニ分ツベキ場合ニ於テハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其ノ間ニ適當ナル時間ヲ存スベシ

第八條　警察官吏警防部隊（以下單ニ部隊ト稱ス）ヲ指揮スル場合ト雖モ拔刀セザルモノトス

第九條　指揮者及小隊長以上ノ幹部ハ部下ノ注意ヲ喚起スル爲特ニ必要アル場合ニ於テハ左ノ信號又ハ他ノ適當ナル方法ニ依ルコトヲ得

前進　右手ヲ高ク擧ゲ次デ之ヲ其ノ進ムベキ方向ニ伸バス

停止　右手ヲ高ク擧ゲ直ニ下ス

駈歩　前進ノ信號ヲ速迅ニ數回連續ス

第二章　各個教練

要則

第十條　各個教練ノ目的ハ團員ヲ訓練シテ諸制式ニ習熟セシムルト同時ニ警防精神ヲ鍛ヘ紀律ヲ練リ部隊教練ノ確乎タル基礎ヲ作ルニ在リ

第十一條　各個教練ニ於テ生ジタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難ク各個教練ノ不完全ハ部隊教練ニ於テ之ヲ補フコト亦難シ故ニ各個教練ハ綿密嚴格ニ之ヲ行ヒ必要アル場合ニ於テハ其ノ動作ヲ分チテ丁寧懇切ニ說明シ反覆練習スルコトヲ要ス

不動ノ姿勢

第十二條　不動ノ姿勢ハ教練ニ於ケル基本ノ姿勢ナリ警防精神內ニ充溢シ外嚴肅端正ナラザルベカラズ

第十三條　不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

氣ヲ著ケ

兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ齊シク外ニ向ケ兩膝ハ凝ラズシテ之ヲ伸バシ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ著ケ脊ヲ伸バシ且少シク前ニ傾ケ兩肩ヲ稍後ニ引キ一樣ニ之ヲ下ゲ兩臂ハ自然ニ垂レ兩掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク伸バシテ之ヲ竝ベ中指ヲ縫ネ袴ノ縫目ニ當テ頸及頭ヲ眞直ニ保チ口ヲ閉チ兩眼ハ正シク之ヲ開

キ前ノ方ヲ直視ス

第十四條　休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

休メ

先ヅ左足ヲ出シ兩後片足ヲ舊ノ所ニ置キ其ノ場ニ立チテ休憩ス休憩中ト雖モ濫ニ私語スルコトヲ得ズ

右(左)向、半右(左)向及後向

第十五條　右(左)向又ハ半右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向ケ——右(左)

又ハ

半右(左)向ケ——右(左)

左足尖ト右足トヲ少シク上ゲ左踵ニテ九十度又ハ四十五度右(左)ニ向キ右踵ヲ左踵ニ著ケテ同線上ニ揃フ

第十六條　後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻ハレ——右

右足ヲ其ノ方向ニ引キ足尖ヲ儘ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上ゲ兩踵ニテ後ニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ク

行進

第十七條　行進ハ勇往邁進ノ氣慨アルヲ要ス

第十八條　速歩ノ一歩ノ長サハ踵ヨリ踵マデ七十五糎ヲ、其ノ速度ハ一分時間ニ百十四歩ヲ基準トス

速歩行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前ヘ——進メ

動令ニテ左股ヲ少シク上ゲ脚ヲ前ニ出シ右足ヨリ七十五糎ノ所ニ足ヲ伸バシツツ踏ミ著ケ同時ニ概ネ膕ヲ伸バシ全ク體ノ重ミヲ之ニ移ス左足ヲ踏ミ著クルト同時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就キテ示セシ如ク右脚ヲ前ニ出シテ踏ミ著ケ行進ヲ續ケ頭ヲ眞直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振ル

第十九條　止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊——止レ

後ノ足ヲ一歩前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止ル

第二十條　行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向ケ前ヘ——進メ

右(左)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ內ニシテ踏ミ著ケ體ヲ右(左)方ニ向ケ右(左)足

ヨリ新方向ニ行進ス

第二十一條 行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜ニ右（左）ヘ——進メ

左（右）足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ半右（左）方ニ向ケ右（左）足ヨリ新方面ニ行進ス

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜ニ左（右）——ヘ進メ

斜行進ヲ爲スト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

第二十二條 行進間後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻レ右前ヘ——進メ

左足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ出シ兩足尖ニテ百八十度右方ニ旋回シ續キテ行進ス

第二十三條 速歩行進間行進ヲ容易ナラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調止メ

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トニ依リ姿勢ヲ崩スコトナク行進ス

再ビ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調取レ

第二十四條 足踏ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

足踏ミ——進メ

後ノ足ヲ一歩前ニ踏ミ出シ其ノ場ニ於テ進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交々兩足ヲ踏ミ著ケテ調子ヲ取ル

更ニ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前ヘ——進メ

左足ヨリ踏ミ出シ續キテ行進ス

第二十五條 駈歩ハ一歩ノ長サヲ踵ヨリ踵マデ約八十五糎トシ其ノ速度ハ一分時間ニ約百七十歩トス

駈歩行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩——進メ

豫令ニテ兩手ヲ握リ腰ノ高サニ上ゲ肘ヲ後ニス

動令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其ノ法兩脚ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上ゲ右足ヨリ約八十五糎ノ所ニ踏ミ著ケ次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ミヲ踏ミ著ケタル足ニ移シ兩肘ヲ自然ニ振リ續キテ行進ス

「分隊――止レ」ノ號令ニテ二歩前進シタル後後ノ足ヲ一歩前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ兩手ヲ下ス

駈歩行進ヨリ速歩行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速歩――進メ

二歩前進シタル後速歩ニ移リ兩手ヲ下シ續キテ行進ス

第二十六條　駈歩行進間ノ諸動作ハ速歩行進間ニ於ケル要領ニ準ジテ行フ但シ速歩ニ於ケルヨリモ二歩多ク前進シタル後動作スルモノトス

三章　部隊教練

要則

第二十七條　部隊教練ハ部隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ部隊長ノ意圖ニ從ヒ衆心一致能ク警防精神ヲ發揚シ團結ヲ保持シテ部隊行動ヲ爲シ得ル如ク練成スルヲ以テ主眼トス

第二十八條　部隊教練ハ之ヲ分チテ小隊教練、中隊教練及大隊教練トス

第二十九條　大(中)隊教練ニ在リテハ中(小)隊長ハ其ノ中(小)隊ノ爲スベキ動作ヲ小聲ニテ豫告スルモ妨ナシ又整頓、隊形變換等ニ在リテハ中(小)隊ノ動作ヲ監視スルモノトス

第三十條　部隊教練ヲ準備スル爲本章ノ規定ニ從ヒ分隊ヲ以テ教練ヲ行フベシ

第三十一條　本章ニ掲グル諸運動ハ專ラ正面ニ付規定ス背面向ニ於ケル運動ハ之ニ準ジテ行ヒ其ノ要領ヲ會得セシムルヲ以テ足レリトス

第一節　小隊教練

編成

第三十二條　小隊ハ概ネ身幹ノ順序ニ從ヒ前後二列ニ配列シテ横隊ヲ作ル其ノ前後ニ立チタル二人ヲ伍ト謂フ人員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍ト謂フ

後列員ハ前列員ノ背ヨリ胸マデニ八十五糎ノ距離ヲ取リテ正シク前列員ニ重ナリ同方面ニ位置ス

各列員ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リタルトキ輕ク左隣員ノ右肘ニ觸ルヲ度トス

小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊ノ正面トス

小隊ハ概ネ之ヲ三分隊ニ分チ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附ス

分隊ノ人員ハ概ネ十名トス但シ人員ノ都合ニ依リ增減スルコトヲ得

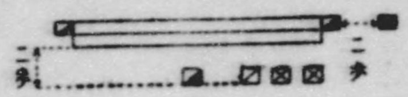
小隊ノ兩翼ニ各其ノ翼ノ分隊長ヲ置ク其ノ他ノ分隊長ハ分隊ノ概ネ中央ノ奇數伍ニ重ナリ後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス之ヲ押伍ト謂フ

隊形

第三十三條　小隊ノ隊形ハ横隊及側面縱隊トシ其ノ隊形第一圖ノ如シ

第一圖

1　横隊ノ隊形



凡例

■ 小隊長

◪ 分隊長

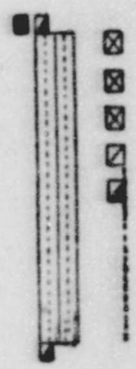
⊠ 分隊長ニ非ザル部(班)長

◪ 傳令

----- 押伍列

2　側面縱隊ノ隊形

記號ハ1ノ凡例ニ依ル



分隊長ニ非ザル部(班)長及傳令ハ押伍列右翼ニ在リテ奇數伍ニ重ナル如ク位置ス

横隊ハ主トシテ集合及短距離ノ運動ニ、側面縱隊ハ主トシテ運動ニ用フ

整頓

第三十四條　整頓完全ナルトキ各列員ハ整頓線上ニ正シキ姿勢ヲ取リ頭ヲ右(左)ニ

廻ストキ右（左）ノ眼ヲ以テ其ノ右（左）隣員ヲ見他ノ眼ヲ以テ全線ヲ視通スコトヲ得ルモノトス

列員整頓ニ就クトキハ足ノ位置ヲ正シクシ頭、肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正確ナル姿勢ヲ以テスルヲ必要トス

第三十五條　横隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

嚮導（何）歩前へ

兩翼分隊長ハ前進シ小隊長ハ其ノ位置ヲ正シタル後左ノ號令ヲ下ス

右（左）へ――準へ

直レ

「準へ」ノ動令ニテ小隊ハ前進シ最後ノ一歩ヲ縮メ少シク整頓線ノ後方ニ止リ次ニ頭ヲ右（左）ニ廻シ少歩ニテ靜ニ整頓線ニ就ク但シ右翼分隊長及前後列員ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リ後列及押伍列ニ在ル者ハ先ヅ正シク前方ノ列員ニ重ナリテ距離ヲ取リ次ニ右（左）ノ方ニ整頓ス整頓翼ノ分隊長ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲反對翼ノ分隊長ヲ目標トシ先ヅ己ニ近キ二三列員ノ位置ヲ正シ逐次ニ整頓ヲ正ス反對翼ノ分隊長ハ必要アル場合ニ於テハ己ニ近キ二三列員ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス

「直レ」ノ號令ニテ小隊ハ頭ヲ正面ニ復シ右翼分隊長及前後列員ハ左手ヲ下ス其ノ位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ「右（左）へ――準へ、直レ」ノ號令ヲ下ス

第三十六條　側面縱隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

準へ

直レ

「準へ」ノ號令ニテ小隊ノ先頭分隊長ハ動クコトナク小隊舊正面ノ方ニ在ル列員及後尾分隊長ハ正シク距離ヲ取リテ先頭分隊長ニ重ナリ其ノ他ノ列員及押伍列ニ在ル者ハ前方ノ者ニ重ナリ舊正面ノ方ニ整頓ス

「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス

右（左）向及後向

第三十七條　横隊右（左）向ヲ爲セバ偶數員（奇數員）ハ奇數員（偶數員）ノ右（左）ニ出デ伍ヲ組ミ四列員相竝ビ側面向ト爲ル

兩翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ各其ノ位置ニ在リテ右（左）向ヲ爲ス

側面向ニ在リテ左（右）向ヲ爲セバ伍ヲ解キ正面向ト爲リ右（左）ノ方ニ整頓ス

第三十八條　横隊後向ヲ爲セバ兩翼分隊長及缺伍ハ前列ニ就ク

行進

第三十九條　直行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル若シ左方ニ取ルトキハ特ニ之ヲ示スベシ

小隊長ハ號令ヲ下スニ先ダチ通常行進目標ヲ右（左）翼分隊長ニ示スモノトス

小隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準ヒテ行進シ嚮導ハ列員ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ與ヘラレタル目標ニ向ヒ又ハ正面ト直角ニ行進ス

行進中嚮導ヲ他翼ニ取ルヲ要スルトキハ「嚮導右（左）」ノ號令ヲ下スベシ

第四十條　行進間列員ノ守ルベキ要件左ノ如シ

歩長及速度ノ齊一ト間隔及距離ノ保持ニ注意スルコト

列員ハ常ニ頭ヲ正シク保チ嚮導ノ方ニ整頓スル爲頭ヲ廻スコトナク整頓スベキ方ニ在ル隣員並ニ前方ノ列員ニ注意スルコト

整頓翼ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ヲ支フルコト

整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又ハ間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ恢復スルコト

障碍物等ニ遭遇シ行進シ能ハザルトキハ直ニ左右ニ之ヲ避クルコトナク足踏ヲ爲シ隣員等ニ妨ナキニ至リ速ニ舊位置ニ復歸スベシ若シ歩ノ違ヒタルトキハ踏替ヲ爲シ速ニ整頓翼ノ方ナル隣員ノ歩ニ準フベシ踏替ヲ爲スニハ後ノ足ヲ前ノ足ニ引キ著ケ前ノ足ヨリ行進ス駈歩ニ在リテハ片足ニテ二歩行進ス足踏間ニ在リテハ駈歩間ノ方法ニ準ズ

第四十一條　行進間ノ右（左）向ハ第三十七條ノ規定ニ從ヒ後向ハ第三十八條ノ規定ニ從フ側面向ヨリ正面向ニ移リ續キテ行進スルトキ必要アル場合ニ於テハ嚮導ヲ示スベシ

第四十二條　側面向ノ行進ニ在リテハ各列員ハ常ニ舊正面ノ方ニ整頓シ嚮導ノ後方ニ在ル列員ハ其ノ進ミタル線ヲ踏ミテ行進シ他ノ列員ハ前方ノ列員ニ重ナリテ行進ス

第四十三條　側面縱隊ニテ行進シツツアル小隊ヲ止メ直ニ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左（右）向ケ——止レ

小隊ハ停止シ第三十七條第三項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ正面向トナル

第四十四條　斜行進ニ在リテハ各列員ノ位置正シキトキハ其ノ肩概ネ互ニ平行シ右（左）斜行進ニ在リテハ各列員ノ右（左）肩ハ概ネ其ノ右（左）隣員ノ左（右）肩ノ後ニ在ルモノトス

各列員ハ常ニ進行スル方ニ整頓ス

直行進ニ復シタルトキ必要アル場合ニ於テハ嚮導ヲ示スベシ

第四十五條　「歩調止メ」ノ號令アルトキ野外ニ在リテハ必ズシモ歩ヲ揃フルヲ要セズ

第四十六條　小隊ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

小隊――止レ

小隊ハ停止シ横隊ニ在リテハ各自擬導ノ方ニ整頓シ側面縱隊ニ在リテハ動クコトナシ

方向變換

第四十七條　方向ヲ換フルニハ停止間ニ在リテハ速歩ヲ用ヒ必要アル場合ニ於テハ駈歩ヲ用フ其ノ駈歩ヲ用フル場合ニ於テハ豫令ノ次ニ「駈歩」ノ號令ヲ加フ

行進間ニ於テハ常ニ駈歩ヲ用フ

第四十八條　横隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ニ方向ヲ換ヘ――進メ

停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル分隊長ハ右（左）向ヲ爲シ其ノ他ハ半右（左）向ヲ爲シ捷路ヲ經テ逐次新線ニ到リ停止シ其ノ右（左）隣員ニ整頓ス行進間ニ在リテハ方向ヲ換ヘツツ新方向ニ行進ス小隊長ハ方向ヲ換ヘ終ラントスルトキ必要アル場合ニ於テハ擬導ヲ示スベシ

行進間方向ヲ換ヘ直ニ停止スル必要アルトキハ「右(左)ニ方向ヲ換ヘ――止レ」ノ號令ヲ下ス軸翼ニ在ル分隊長ハ停止シテ方向ヲ換ヘ列員ハ新線ニ到リテ停止シ其ノ右（左）隣員ニ整頓ス

第四十九條　側面縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

伍々左（右）ヘ――進メ

先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ停止間ニ在リテハ前進ヲ起スト同時ニ以上ノ動作ヲ爲シ旋回軸ニ在ル列員ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニ在ル列員ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ右（左）ニ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス各伍ハ其ノ前ノ伍ト同所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

第五十條　少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標（方向）ヲ示スベシ

隊形變換

第五十一條　隊形ヲ換フルニハ既ニ揭グル諸制式ニ從ヒ實施スルノ外後二條ノ規定ニ依ル但シ第五十二條ノ場合ニ在リテハ第四十七條ノ規定ヲ適用ス

第五十二條　側面縱隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左（右）ヘ竝ビ――進メ

先頭ニ在ル分隊長ハ動カザルカ又ハ續キテ行進シ各列員ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ横隊ヲ作ル

側面行進間同方向ニ横隊ヲ作リ直ニ停止スル必要アルトキハ「左（右）ヘ竝ビ――止レ」ノ號令ヲ下ス先頭分隊長ハ直ニ停止シ各列員ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ横隊ヲ作

ル

第五十三條　行進中ノ横隊ヲ同方向ニ側面縱隊ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右（左）向ケ伍々左（右）へ――進メ

小隊ハ右（左）向ヲ爲シ第四十九條ノ規定ニ依リ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス

途　歩

第五十四條　途歩ハ長距離ノ行進又ハ不齊地等ノ行進ノ際側面縱隊ノ隊形ニ於テ之ヲ行フモノトス

途歩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

途歩

列員ハ正規ノ歩調ヲ取ルヲ要セズ且談話ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

途歩行進間押伍列員ハ列中ニ入ル

途歩行進間速歩（駈歩）ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速歩（駈歩）――進メ

解散及集合

第五十五條　小隊ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解レ

第五十六條　小隊ヲ集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

集レ

右翼分隊長ハ速ニ小隊長ノ前ニ來リ横隊ノ定位ニ就キ各列員ハ其ノ左ノ方ニ番號ノ順序ニ從ヒ二列トナリ整頓ス

第二節　中隊教練

編　成

第五十七條　中隊ハ概ネ之ヲ三小隊ニ分チ第一乃至第三ノ番號ヲ附ス

中隊内ニ於ケル小隊ノ人員ハ概ネ三十名トス但シ人員ノ都合ニ依リ增減スルコトヲ得

中隊内ニ於ケル編成要領ハ第三十二條ノ規定ニ從フ

隊　形

第五十八條　中隊ノ隊形ハ中隊縱隊、併立縱隊、側面縱隊及中隊横隊トス

第五十九條　中隊縱隊ノ隊形第二圖ノ如シ

中隊縱隊ノ隊形

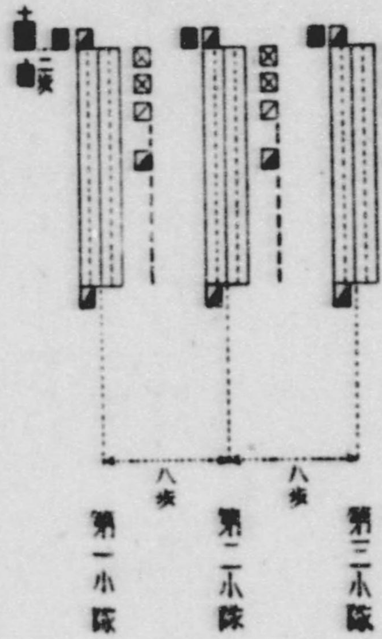
第二圖

小隊ハ其ノ順序ニ拘ラズ重疊スルコトヲ得ルト共ニ小隊間ノ距離ハ時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第六十條　併立縱隊ハ中隊縱隊ヲ側面ニ向ケタルモノニシテ其ノ隊形第三圖ノ如シ

併立縱隊ノ隊形

第三圖

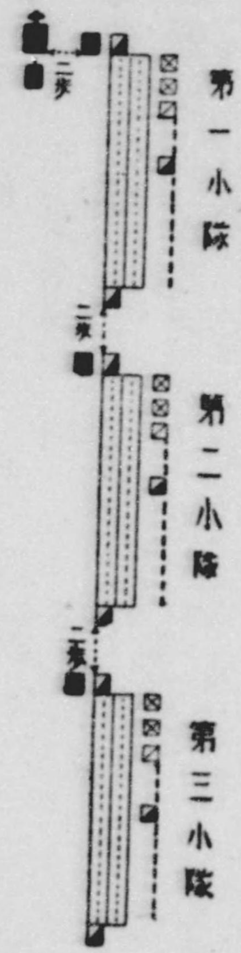


側面縱隊ハ側面ニ向キタル小隊ヲ重疊シタルモノニシテ通常四列トシ其ノ隊形第四圖ノ如シ

側面縱隊ノ隊形

記號ハ第二圖凡例ニ依ル

第四圖



兩隊形ニ於ケル押伍列ニ在ル者ハ各其ノ伍ニ列ビ小隊長ハ其ノ先頭分隊長ノ外側ニ接シテ位置ス

第六十一條 中隊横隊ハ小隊ヲ横ニ聯繫シタルモノニシテ各小隊ノ隊形ハ中隊縱隊ノ場合ニ準ズ其ノ隊形第五圖ノ如シ

中隊横隊ノ隊形

記號ハ第二圖凡例ニ依ル

第五圖

第六十二條 中隊長ハ時宜ニ依リ前三條ニ定ムル小隊長、分隊長及押伍列員ノ位置ヲ變更スルコトヲ得

整頓

第六十三條 中隊ヲ整頓セシムルニハ第三十四條乃至第三十六條ノ規定ニ從ヒ實施スルノ外後三條ノ規定ニ依ル

第六十四條 中隊縱隊ニ在ル中隊ニ在リテハ「嚮導（何）歩前ヘ」ノ號令ニテ先頭小隊ノ兩翼分隊長ノミ前進シ中隊長ハ其ノ位置ヲ正ス

「右（左）へ――準へ」ノ號令ニテ後方小隊ノ整頓翼ノ分隊長ハ列員ト共ニ前進シ正シク距離ヲ取リ前方小隊整頓翼ノ分隊長ニ重ナルモノトス

第六十五條　併立縱隊ニ在ル中隊ニ在リテハ通常基準小隊ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

準へ

直レ

「準へ」ノ號令ニテ基準小隊ハ第三十六條ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ其ノ他ノ小隊ハ基準小隊ノ方ニ整頓ス

「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス

第六十六條　中隊橫隊ニ在ル中隊ニ在リテハ「嚮導（何）步前へ」ノ號令ニテ各小隊兩翼分隊長ハ一齊ニ前進シ中隊長ハ其ノ位置ヲ正ス

右（左）向及後向

第六十七條　中隊縱隊ニ在ル中隊右（左）向ヲ爲セバ各小隊ハ第三十七條第一項及第二項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ第六十條第一項ニ定メタル位置ニ就キ併立縱隊トナル

第六十八條　併立縱隊ニ在ル中隊左（右）向ヲ爲セバ各小隊ハ第三十七條第三項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ第五十九條ニ定メタル位置ニ就キ中隊縱隊トナリ各自右（左）ノ方ニ整頓ス

第六十九條　中隊橫隊ニ在ル中隊右（左）向ヲ爲セバ各小隊ハ第三十七條第一項及第二項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ第六十條第二項ニ定メタル位置ニ就キ側面縱隊トナル

第七十條　側面縱隊ニ在ル中隊左（右）向ヲ爲セバ各小隊ハ第三十七條第三項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ第六十一條ニ定メタル位置ニ就キ中隊橫隊トナリ各自右（左）ノ方ニ整頓ス

第七十一條　中隊縱隊ニ在ル中隊及中隊橫隊ニ在ル中隊後向ヲ爲セバ各小隊ハ第三十八條ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ小隊長ハ其ノ位置ニ在リテ後向ヲ爲ス

行進

第七十二條　中隊ノ行進ニ付テハ第三十九條乃至第四十六條ノ規定ニ從ヒ實施スルノ外後五條ノ規定ニ依ル

第七十三條　中隊縱隊ノ直行進ニ在リテハ後方小隊ノ嚮導ハ其ノ前方小隊ノ嚮導ノ進ミタル線ヲ踏ミ常　八步ノ距離ヲ保ツベシ

第七十四條　併立縱隊ノ行進ニ在リテハ中隊長ハ通常基準小隊ヲ示シ且必要アル場合ニ於テハ其ノ小隊ノ嚮導ノ行進目標ヲ示スベシ

第七十五條　行進間ノ右（左）向及後向ハ第六十七條乃至第七十一條ノ規定ニ從ヒ實施スベシ

第七十六條　中隊横隊ニ於ケル長距離行進ハ通常之ヲ行ハザルモノトス

第七十七條　併立縱隊又ハ側面縱隊ニ在リテ行進シツツアル中隊ヲ止メ直ニ側面ニ向ヒ中隊縱隊又ハ中隊横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左（右）向ケ――止レ

中隊ハ停止シ第六十八條又ハ第七十條ノ規定ニ從ヒ中隊縱隊又ハ中隊横隊トナリ行進セシ方ニ整頓ス

方向變換

第七十八條　中隊ノ方向ヲ換フルニハ既ニ掲グル諸制式ニ從ヒ實施スルノ外後三條ノ規定ニ依ル

第七十九條　中隊縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ニ方向ヲ換ヘ――進メ

停止間ニ在リテハ先頭小隊ハ第四十八條ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ後方小隊ハ各自己ノ占ムベキ位置ニ到リ右（左）ノ方ニ整頓ス

行進間ニ在リテハ先頭小隊ノ方向變換ヲ爲シタルト同所ニ到リ號令ナクシテ方向ヲ換ヘツツ先頭小隊ニ續行ス

第八十條　併立縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ニ方向ヲ換ヘ――進メ

停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ伍々右（左）ニ方向ヲ換ヘ小隊ノ深サダケ新方向ニ進ミテ停止シ他ノ小隊ハ逐次其ノ齊頭面ニ到リテ停止ス

行進間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ前ト同法ヲ以テ方向ヲ換ヘツツ行進シ其ノ他ノ小隊ハ逐次其ノ齊頭面ニ到リ續キテ行進ス

第八十一條　中隊横隊ノ方向變換ハ通常之ヲ行ハザルモノトス

隊形變換

第八十二條　中隊ノ隊形ヲ換フルニハ既ニ掲グル諸制式ニ從ヒ實施スルノ外後四條ノ規定ニ依ル

第八十三條　側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

中隊縱隊作レ――進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭ニ在ル分隊長ハ動カザルカ又ハ續キテ行進シ先頭小隊ノ列員ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ横隊ヲ作リ後方小隊ハ先頭小隊ニ準ジテ小隊毎ニ横隊ヲ作リ制規ノ距離ヲ取ル

第八十四條　側面縱隊ヨリ同方向ニ併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

併立縱隊作レ――進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動カザルカ又ハ續キテ行進シ中央（後尾）小隊ハ右（左）方ニ制規ノ間隔ヲ取ル如ク進出シ先頭小隊ト齊頭面ニ到ル

一側ニ併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ヘ併立縱隊作レ――進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動カザルカ又ハ續キテ行進シ後方小隊ハ右（左）方ニ制規ノ間隔ヲ取ル如ク進出シ先頭小隊ト齊頭面ニ到ル

第八十五條　中隊縱隊ヨリ同方向ニ中隊橫隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

中隊橫隊作レ――進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ其ノ位置ヲ動カズ中央（後尾）小隊ハ半右（左）向ヲ爲シ捷路ヲ經テ先頭小隊ノ右（左）方制規ノ位置ニ到リテ停止シ中央小隊ニ整頓ス

一側ニ中隊橫隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左（右）ヘ中隊橫隊作レ――進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ其ノ位置ヲ動カズ後方小隊ハ半左（右）向ヲ爲シ捷路ヲ經テ順次先頭小隊ノ左（右）方制規ノ位置ニ到リテ停止シ右（左）ノ方ニ整頓ス

行進間ニ於テハ本運動ハ通常之ヲ行ハザルモノトス

第八十六條　中隊橫隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

中隊縱隊作レ――進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ中央小隊ハ其ノ位置ヲ動カズ右（左）小隊ハ中央小隊ノ後方自己ノ占ムベキ位置ニ到リテ停止シ右ノ方ニ整頓ス

一側ニ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ヘ中隊縱隊作レ――進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ右（左）小隊ハ其ノ位置ヲ動カズ其ノ他ノ小隊ハ右（左）小隊ノ後方各自己ノ占ムベキ位置ニ到リテ停止シ右ノ方ニ整頓ス

行進間ニ於テハ本運動ハ通常之ヲ行ハサルモノトス

途　歩

第八十七條　中隊ノ途歩ハ側面縱隊ノ隊形ニ於テ之ヲ行ヒ第五十四條ノ規定ヲ適用ス

解散及集合

第八十八條　中隊ノ解散及集合ニハ第五十五條及第五十六條ノ規定ヲ準用ス

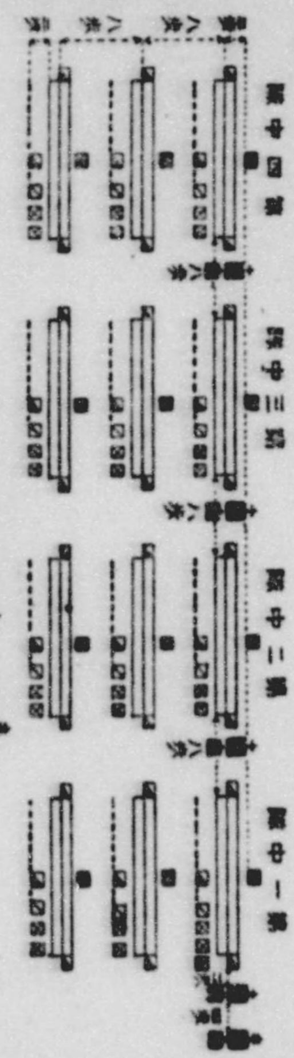
中隊ノ集合隊形ハ通常中隊縱隊トス

第三節　大隊教練

第八十九條　大隊ノ隊形ハ縱隊橫隊及大隊縱隊トス但シ大隊長ハ時宜ニ依リ別ニ隊形ヲ定ムルコトヲ得

第九十條　縱隊橫隊ハ中隊縱隊ヲ橫ニ併列シタルモノニシテ其ノ隊形第六圖ノ如シ

第六圖　縱隊橫隊ノ隊形

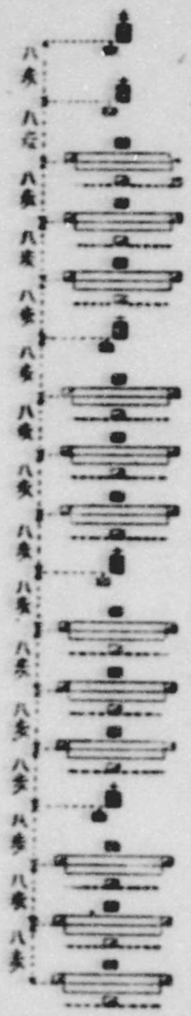


大隊縱隊ハ中隊縱隊ヲ縱ニ重疊シタルモノニシテ其ノ隊形第七圖ノ如シ

大隊縱隊ノ隊形

記號ハ第六圖凡例ニ依ル

第七圖



第九十一條 大隊教練ヲ行フニハ既ニ掲グル諸制式ニ從ヒ實施スベシ

大隊長ハ各中隊ヲシテ同時ニ同一ノ動作ヲ爲サシムルヲ要スル場合ニ於テハ號令ヲ用フベシ

大隊長ハ整頓、行進、方向變換及隊形變換等ヲ爲スニ方リ必要アル場合ニ於テハ基準中隊及中隊ノ關係位置等ヲ中隊長ニ示スベシ

各中隊間ノ距離間隔ハ各中隊警戒分隊長之ヲ保ツベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

消防組操典ハ之ヲ廢止ス

警防團禮式令（昭和十四年六月六日 内務省訓令第七號）

第一章 總則

第一條 本令ハ警防團員及其ノ部隊ノ禮式ヲ定ム

第二條 本令中禮式ト稱スルハ敬禮及觀閲式ヲ謂フ

第三條 禮式ノ目的ハ尊皇ノ大義ヲ闡明ニシ敬神崇祖ノ念ヲ涵養スルトトモニ禮節ヲ明カニシテ上下ノ別ヲ正シ信義ヲ敦クシテ和衷協同ノ實ヲ擧ゲ以テ鞏固ナル警防精神ヲ練成スルニ在リ

第四條 禮式ヲ行フニ當リテハ動作ノ熟達形式ノ整齊固ヨリ必要ナリト雖モ内ニ精神充溢セザレバ其ノ效ナシ故ニ至誠之ニ當リ苟モ等閑ニ流レ粗略ニ陷ルガ如キコトアルベカラズ

第五條 本令中警防團員ト稱スルハ警防團令第二條ニ依ル職員ニシテ制規ノ服裝ヲ着用セル者ヲ謂フ

第六條 本令中警防部隊ト稱スルハ指揮者アル警防團員ノ隊伍ヲ謂フ

第七條 本令中上級者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 上級ノ職ニ在ル警防團員

二 指揮監督ノ職權ヲ有スル官吏

三 指揮ノ任ニ在ル者

第二章 敬禮

第一節 通則

第八條 最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ取リ先ヅ正面ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ約四十五度前ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保チ之ヲ行フモノトス帽ヲ手ニスルトキハ右手ニ其ノ前庇ヲ摘ミ内部ヲ右股ニ對セシメテ之ヲ垂直ニ提ゲ左手ハ之ヲ垂下スベシ

第九條 室内ノ敬禮ハ體ノ上部ヲ約十五度前ニ傾ケ受禮者又ハ敬スベキ物ニ注目スルノ外前條ノ規定ニ同ジ

第十條 擧手注目ノ敬禮ハ受禮者又ハ敬スベキ物ニ面シテ姿勢ヲ正シ右手ヲ擧ゲ諸指ヲ接シテ伸バシ食指ト中指トヲ帽ノ前庇ノ右端ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略其ノ高サニ齊シクシ受禮者又ハ敬スベキ物ニ注目シ之ヲ行フモノトス

第十一條　警防部隊ノ敬禮ハ先ヅ隊列ヲ正シ指揮者ノ「頭―右(左)」又ハ「注目」ノ號令ニテ受禮者又ハ敬スベキ物ニ對シ指揮者ハ擧手注目ノ敬禮ヲ行ヒ隊員ハ注目シ「直レ」ノ號令ニテ舊ニ復スルモノトス

第十二條　警防團員及警防部隊ハ特ニ定アル場合ヲ除クノ外上級者ニ對シテハ敬禮ヲ行ヒ上級者ハ之ニ答禮シ同級者ハ互ニ敬禮ヲ交換スベシ

敬禮ヲ行フトキハ通常受禮者ノ答禮終ルヲ待チ舊ニ復スルモノトス

第十三條　二人以上ノ上級者ニ對スル敬禮ハ警防部隊ニ在リテハ最上級者ニ對シ之ヲ行ヒ警防團員ニ在リテハ先ヅ最上級者ニ對シ次ニ他ノ上級者一同ニ對シ之ヲ行フベシ

第十四條　皇族、王公族、御名代、勅使又ハ御眞影ニ對スル敬禮ハ特ニ定アル場合ヲ除クノ外天皇ニ行フ敬禮ニ準ジ之ヲ行フベシ

第十五條　外國ノ君主、大統領又ハ皇族ニ對シテハ公式ノ場合ニ限リ前條ニ準ズ

第十六條　大臣、大臣ノ禮遇ヲ受クル者又ハ公式ノ場合ニ於ケル外國使節ニ對スル敬禮ハ上級者ニ準ズ外國ノ君主、大統領又ハ皇族ニ對シ公式ノ場合ニ非ザルトキ亦同ジ

第十七條　賢所參拜、御眞影奉安所參拜、皇居遙拜其ノ他拜神ノトキハ拜禮ヲ行フベシ

拜禮ハ最敬禮ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ行フモノトス

玉串奉奠ノ際ハ先端ヲ右ニ廻シテ前方ニ向ケ左手ヲ右手ノ元ニ下シ玉串ノ中程ヲ裏ヨリ右手ニテ持チ本ヲ神前ニ向ケ左手ヲ副ヘテ案上ニ置キ拜禮ヲ行フモノトス

第十八條　勅語、詔書又ハ令旨ノ奉讀アルトキハ其ノ始終ニ於テ室內ニ在リテハ最敬禮、室外ニ在リテハ室外ノ敬禮ヲ行フベシ

第十九條　儀式、會同其ノ他廉アル場合ニ於テ　陛下ノ萬歲唱和又ハ「君が代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ其ノ間姿勢ヲ正スベシ

第二十條　軍旗ニ對シテハ敬禮ヲ行フベシ但シ上覆ヲ附シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

國旗ノ揭揚、降下ノ式ニ臨ムトキハ之ニ面シテ敬禮ヲ行フベシ

第二十一條　警防團旗ニ對シテハ敬禮ヲ行フベシ

第二十二條　式典ニ參與シ又ハ參列シタルトキハ其ノ式典ノ爲ニスル敬禮ノ外敬禮ヲ行ハザルモノトス

第二十三條　防空、水火消防其ノ他ノ警防、演習、點檢、教練、操車其ノ他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事スルトキハ通常敬禮ヲ行ハザルモノトス

第二十四條　職務上隨從スル者ハ通常敬禮ヲ行ハズ職務上隨從スル者ニ對シ亦同ジ

第二十五條　警防部隊ノ敬禮ハ室內又ハ夜間ニ在リテハ特ニ定アル場合ヲ除クノ外之

ヲ行ハザルモノトス

第二十六條　警防團員制規ノ服裝ヲ著セザルトキト雖モ上級者ニ對シテハ相當ノ敬禮ヲ行フヲ禮トス

第二十七條　警察官吏、消防官吏又ハ其ノ部隊ニ對シテハ相當ノ敬禮ヲ行フヲ禮トス

第二十八條　敬禮ヲ受ケタルトキハ何人ニ對シテモ答禮スベシ

第二十九條　旗ヲ把持スルトキハ其ノ下端ヲ右股ニ當テ右肘ヲ後ニシ其ノ拳ヲ肩ノ高サニシテ尖端ヲ儘ニ前方ニ傾クルモノトス

第三十條　旗ノ敬禮ハ其ノ下端ヲ右股ニ當テタル儘右手ヲ充分ニ前ニ伸バシ之ヲ行フモノトス

旗ヲ把持スル者ハ敬禮ヲ行ハザルモノトス

第三十一條　居室、事務室、休憩室等ハ室内トシ廊下、階段、車内、望樓、機械置場、甲板、短艇等ハ室外トス但シ宮中、行在所等ノ廊下、賢所正門内、神前及祭場ハ室内ト看做ス

第三十二條　室内ニ入ルトキハ室外ニ於テ帽ヲ脱スベシ

第三十三條　上級者ヲ稱呼スルトキハ其ノ官名又ハ職名ノ下ニ勅任官ニ對シテハ閣下其ノ他ノ者ニ對シテハ殿ノ敬稱ヲ附シ同級又ハ下級ノ者ニ對シテハ氏ノ下ニ其ノ職名ヲ附スベシ

第二節　天皇ニ行フ敬禮

第三十四條　天皇ニ行フ警防團員ノ室内ニ於ケル敬禮ハ先ヅ御室ノ外ニ於テ敬禮シタル後御室ニ入リ直ニ敬禮シ更ニ進ミテ玉座ヲ離ルルコト約六歩ノ所ニ於テ最敬禮ヲ爲シ終リテ退歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出デ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スベシ但シ特ニ定アル場合ハ之ニ從フ

第三十五條　天皇ニ行フ警防團員ノ室外ニ於ケル敬禮ハ鹵簿ノ通路ニ正面シテ不動ノ姿勢ヲ取リ車駕約八歩前ニ近ヅクトキ目迎シテ擧手注目ノ敬禮ヲ行ヒ約八歩ヲ過グル迄其ノ姿勢ヲ保チ目送スベシ

第三十六條　天皇ニ行フ警防部隊ノ敬禮ハ鹵簿ノ通路ニ正面シテ停止シ車駕隊列ノ約三十歩前ニ近ヅク時目迎シテ之ヲ始メ隊列ヨリ約十五歩過グル迄目送シテ之ヲ止ム

第三十七條　御召列車、御召艦艇等ニテ通御ノ際ハ前二條ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フベシ

第三十八條　天皇ニ行フ警防船舶ノ敬禮ハ船ノ進行ヲ止メ乘員ハ甲板上適宜ノ場所ニ整列シ第三十六條ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フベシ但シ敬禮ハ御召艦艇約三十米ニ近ヅクトキ之ヲ初メ約十五米過グルトキ之ヲ止ム

第三節　警防團員ノ敬禮

第一款　室內ノ敬禮

第三十九條　上級者ノ室ニ入ラントスルトキハ先ヅ戸ヲ敲キテ許諾ヲ得其ノ席ヲ離ルルコト約三歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フベシ其ノ室ヲ去ルトキ亦同ジ

前項ノ場合ニ於テ在室ノ上級者二人以上ニシテ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主タル者ニ敬禮スベシ

第四十條　上級者ヨリ書類其ノ他ノ物品ヲ受クルトキハ授與者ノ席ヲ離ルルコト約三歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒ適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ直ニ之ヲ左手ニ收メ帽ヲ右手ニ移シタル後原位ニ復シテ再ビ敬禮ヲ行ヒ退去スベシ

上級者ヨリ書類其ノ他ノ物品ヲ受ケ其ノ場ニ於テ披見ヲ要スルトキハ左手ヲ副ヘテ之ヲ行フベシ

位記、勳記、辭令書、表彰狀ノ類ヲ受クルトキハ其ノ場ニ於テ披見スルヲ禮トス

第四十一條　上級者ニ書類其ノ他ノ物品ヲ呈セントスルトキハ左手ヨリ右手ニ移シ之ヲ行フノ外前條第一項ノ規定ニ準ズ

書類其ノ他ノ物品ノ返戻アルトキハ其ノ間原位ニ復シテ之ヲ待ツモノトス

第四十二條　上級者ヨリ命令若ハ諭告ヲ承ケ又ハ上級者ニ陳述若ハ申告ヲ爲ストキハ上級者ノ席ヲ離ルルコト約三歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒタル後適宜ニ前進シ之ヲ承ケ又ハ陳述シ若ハ申告シ終リテ原位ニ復シ再ビ敬禮ヲ行ヒ退去スベシ

第四十三條　室內ニ於テ上級者ニ應答スルトキハ起立シ姿勢ヲ正スベシ但シ上級者許可スルトキハ著席ノ儘應答スルモ妨ゲナシ

第四十四條　上級者室內ニ來ルトキハ起立シテ敬禮ヲ行フベシ上級者室ヲ去ルトキ亦同ジ

第四十五條　訓授場又ハ教養場ニ訓授者又ハ教養者來ルトキハ在場者中ノ上級者又ハ豫メ定メラレタル者「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ訓授者又ハ教養者定位ニ著キタルトキ「敬禮」ノ號令ニテ一齊ニ敬禮ヲ行フモノトス

訓授者又ハ教養者其ノ場ヲ去ルトキ亦前項ニ準ズ

第四十六條　室內ニ於テ訓授、教養又ハ作業中上級者來ルトキハ訓授者又ハ教養者若ハ監督者ノミ敬禮ヲ行フモノトス上級者室ヲ去ルトキ亦同ジ

第四十七條　同級又ハ下級ノ者室內ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同級ナルトキハ起立シテ答禮シ下級ナルトキハ其ノ儘答禮スルヲ妨ゲズ

第二款　室外ノ敬禮

第四十八條　室外ニ於テハ特ニ定アル場合ヲ除クノ外擧手注目ノ敬禮ヲ行フベシ但シ右手ヲ擧グルコト能ハザルトキハ其ノ儘受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クベシ

前項ノ敬禮ハ受禮者ヲ離ルルコト約六歩ノ所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第四十九條　行進間ノ敬禮ハ歩調ヲ取ルコトナク速歩ニ於テ之ヲ行フモノトス

第五十條　上級者ノ許ニ到ルトキハ停止シテ敬禮ヲ行フベシ

第五十一條　船車内ノ敬禮ハ乘座ノ儘姿勢ヲ正シテ之ヲ行フヲ妨ゲズ但シ時宜ニ依リ注目シ體ノ上部ヲ少シク傾クルニ止ムルコトヲ得

船車内ニ於テハ上級者ニ其ノ席ヲ讓ルヲ禮トス

第五十二條　室外ニ於ケル書類其ノ他ノ物品授受ノ敬禮及上級者ヨリ命令若ハ諭告ヲ受ケ又ハ上級者ニ陳述若ハ申告ヲ爲ストキノ敬禮ハ第四十八條ノ規定ニ依ルノ外其ノ動作ハ概ネ第四十條乃至第四十二條ノ規定ニ準ジ之ヲ行フモノトス

第五十三條　上級者ト同行スルトキ單獨ナルトキハ左側又ハ後方ニ著キ二人以上ナルトキハ其ノ兩側又ハ後方ニ著キ上級者ノ歩調ニ合スヲ禮トス但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十四條　廊下階段又ハ隘狹ナル通路橋梁等ニ於テ上級者ニ出會シタルトキハ立止リ又ハ便宜立戻リテ其ノ通過ヲ待ツベシ

第五十五條　自動車ニ乘車スルトキハ上級者ヲ先ニシ其ノ左側ニ著席シ下車スルトキハ上級者ヲ後ニスルヲ禮トス

第五十六條　警防部隊ニ對スル敬禮又ハ答禮ハ其ノ指揮者ニ對シ之ヲ行フベシ

第五十七條　整列ニ對スル敬禮ハ柩ニ對シ之ヲ行フモノトス

第四節　警防部隊ノ敬禮

第五十八條　警防部隊ノ敬禮ハ受禮者隊列ノ約八歩前ニ近ヅクトキ之ヲ始メ隊列ヲ過ギタルトキ之ヲ止ム

第五十九條　行進間ニ於ケル警防部隊ノ敬禮ハ速歩ニ於テ之ヲ行フモノトス但シ時宜ニ依リ隊員ハ途歩ノ儘トシ指揮者ノミ第四十九條ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フヲ妨ゲズ

第六十條　警防團員ニ對スル警防部隊ノ敬禮ハ其ノ指揮者ヨリ上級ノ者ニ非ザレバ之ヲ行フコトナシ

第六十一條　警防部隊相互ノ敬禮ハ其ノ指揮者ノ階級下ナル者ヨリ先ヅ之ヲ行ヒ同級ナルトキ又ハ階級明ナラザルトキハ先後ヲ論ゼズ之ヲ行フモノトス

第六十二條　警防部隊ノ敬禮ハ獨立スル分隊、小隊又ハ中隊ニ在リテハ各隊毎ニ大隊ニ在リテハ中隊毎ニ之ヲ行フモノトス

第五節　警防船舶ノ敬禮

第六十三條　警防船舶ノ敬禮ハ第三十八條ノ場合ヲ除クノ外船舶ノ進行ヲ緩メ指揮者ノミ起立シテ第四十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ行フベシ

前項ノ敬禮ハ受禮者ノ乘リタル船舶ヲ離ルルコト約十米ノ所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第三章　觀閲式

第一節　通則

第六十四條　本令中觀閲式ト稱スルハ廉アル場合ニ於テ行フ檢閲式及分列式ヲ謂フ

第六十五條　觀閲式ヲ閲スル者ヲ觀閲者ト稱ス

第六十六條　觀閲式ノ指揮者ハ觀閲者廳府縣長官又ハ之ト同等以上ノ者ナルトキハ警察部長（警視廳ニ在リテハ警務部長）又ハ其ノ代理者其ノ他ノ者ナルトキハ適宜之ヲ定ム

第六十七條　觀閲式ノ整頓ハ常ニ右方ヲ基準トス

第六十八條　檢閲式ニ列シ分列式ニ列セザル部隊ハ指揮者ノ定ムル位置ニ整列スルモノトス

第二節　檢閲式

第六十九條　檢閲式ノ隊形ハ縱隊横隊ヲ一線ニ配列シタルモノトス但シ警防自動車其ノ他警防機具ハ部隊ノ後方ニ其ノ先端ヲ一線ニ配列ス

前項ノ隊形ハ附圖第一圖ノ如シ

指揮者土地ノ狀況ニ依リ第一項ノ隊形ニ據リ難シト認ムルトキハ適宜他ノ隊形ト爲スコトヲ得

第七十條　檢閲ヲ受クルトキハ警防團旗ノ位置ハ其ノ部隊ノ右翼トス

第七十一條　觀閲者臨場シタルトキハ指揮者ハ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ觀閲者定位置ニ著キタルトキハ第十一條ノ規定ニ依ル敬禮ヲ行フ次ニ指揮者ハ前進シテ人員ヲ報告シ次デ「休メ」ノ號令ヲ下シタル後觀閲者ヲ誘導ス

第七十二條　觀閲者各大隊ノ先頭約十歩前ニ近ヅキタルトキ當該大隊長ハ「氣ヲ著ケ」

ノ號令ヲ下シ擧手注目ノ敬禮ヲ行フベシ觀閲者各中隊ノ約八歩前ニ近ヅキタルトキ當該中隊長ハ「頭―右」ノ號令ヲ下シ小隊長以上ハ擧手注目ノ敬禮ヲ行ヒ隊員ハ觀閲者ヲ目迎目送スルモノトス

觀閲者當該中隊ヨリ約八歩過ギタルトキ中隊長ハ「直レ」ノ號令ヲ下ス

觀閲者當該大隊ヨリ約十歩過ギタルトキ大隊長ハ「休メ」ノ號令ヲ下ス

第七十三條　觀閲者退場ノトキハ臨場ノトキト同一ノ敬禮ヲ行フベシ

第三節　分列式

第七十四條　分列式ノ隊形ハ徒歩部隊ニ在リテハ大隊縱隊トシ警防自動車部隊ニ在リテハ一列縱隊トス

徒歩部隊ニ警防自動車部隊參加スルトキハ警防自動車部隊ハ徒歩部隊ノ後ニ續クモノトス

前各項ノ隊形ハ附圖第二圖ノ如シ

第七十五條　指揮者ハ敬禮始點及敬禮終點ニ標員ヲ置カシメタル後分列行進ヲ命ズ

前項標員ノ位置ハ附圖第三圖ノ如シ

前進ノ命令ニ依リ音樂隊又ハ喇叭隊ハ前進ヲ起シ吹奏ヲ始メ各大隊長ハ所定ノ距離ヲ保ルヲ待チ「分列ニ前ヘ――進メ」ノ號令ヲ下スベシ

自動車ノ速度ハ毎時十六粁トス

第七十六條　指揮者ハ敬禮始點ニ到リタルトキ擧手注目ノ敬禮ヲ行ヒ敬禮終點ヲ過ギタルトキ直ニ舊ニ復シ駈歩ヲ以テ右方ニ進出シ觀閲者ノ右側後ニ到リ擧手注目ノ敬禮ヲ行ヒタル後分列式終ル迄同所ニ位置スベシ

第七十七條　音樂隊又ハ喇叭隊ハ敬禮始點ヨリ約二十歩前ニ到リタルトキ左側面行進ヲ爲シ適當ノ距離ニ於テ右ニ方向ヲ換ヘ觀閲者ニ正面シテ止リ連續吹奏スルモノトス

第七十八條　各中隊長ハ敬禮始點ニ達シタルトキ左ノ號令ヲ下スベシ

「頭―右」

小隊長以上ハ擧手注目ノ敬禮ヲ行ヒツツ行進ス但シ徒歩部隊ノ分列式ニ在リテハ嚮導クル分隊長警防自動車部隊ノ分列式ニ在リテハ運轉者ハ始終正面ヲ直視スルモノトス

中隊後尾敬禮終點ヲ過ギタルトキ中隊長ハ左ノ號令ヲ下スベシ

「直レ」

小隊長以上ハ擧手注目ノ敬禮ヲ止メ隊員ハ頭ヲ舊ニ復シ引續キ行進スルモノトス

第七十九條　分列終リタル各隊ハ逐次指揮者ノ定ムル位置ニ到リ觀閲者退場ニ對スル敬禮ノ準備ヲ爲スベシ

第八十條　分列全ク終リタルトキハ指揮者ハ標員及音樂隊又ハ喇叭隊ヲ撤收シ駈歩ヲ以テ觀閲者ノ前面ニ到リ擧手注目ノ敬禮ヲ爲シ命ヲ俟ツベシ

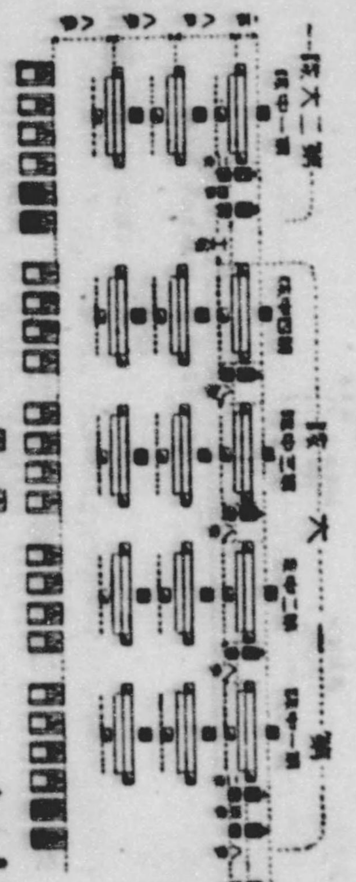
第八十一條　觀閲者臨場及退場ノトキニ於ケル敬禮ハ第七十一條及第七十三條ノ規定ニ準ズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

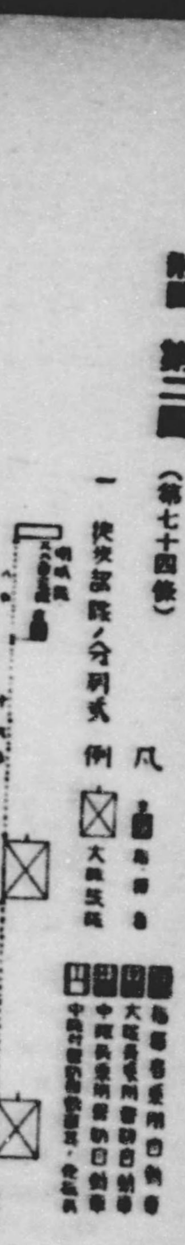
消防組禮式令ハ之ヲ廢止ス

附圖　第一圖（第六十九條）



附圖 第二圖（第七十四條）

一 火災部隊ノ分列式 例



二 警防自動車部隊ノ分列式

附圖 第三圖（第七十五條）

備考 一 本附圖ノ多數ハ適宜之ヲ伸縮スルコトヲ得
二 分列隊形及部隊ハ適宜ヲ選ブコトヲ得

警防團點檢規則（昭和十四年六月六日 内務省訓令第八號）

第一章 總則

第一條 點檢ハ警防團員ノ人員、姿勢、服裝、禮式、教練、物品（給與品及貸與品以下同ジ）及警防機械器具並ニ其ノ操法ヲ檢査スルモノトス

第二條 點檢ヲ分チテ通常點檢、特別點檢及現場點檢トス

第三條 點檢ハ警察署長又ハ其ノ代理者點檢官トナリ團長又ハ副團長指揮者トナリ之ヲ行フ但シ點檢官事故アルトキハ團長點檢者トナリ副團長指揮者トナル

點檢官又ハ指揮者事故アルトキハ順次其ノ次席者之ヲ代理ス

第四條 警察部長（警視廳ニ在リテハ警務部長）又ハ其ノ代理者點檢官タル際ハ警察署長指揮官トナル

第五條 點檢ヲ受クベキ人員又ハ點檢ノ場所ニ付特別ノ事由アルトキハ第二章以下ノ規定ヲ參酌シ適宜之ヲ行フコトヲ得

第二章　通常點檢

第六條　通常點檢ハ左ノ各號ノ事項ニ付檢査ヲ行フモノトス

一　人員、姿勢、服裝、禮式及教練

二　機械及器具

三　操法

第七條　通常點檢ハ演習其ノ他召集ノ際之ヲ施行スベシ但シ常備員ニ對シテハ毎日之ヲ施行スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ點檢全部ヲ行フ能ハザルトキハ適宜分割シテ之ヲ行フコトヲ得

第八條　通常點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲナシ手套アルトキハ之ヲ著用スベシ

第九條　第六條第一號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮者（指揮官以下同ジ）ハ部隊ヲ編成スベシ

部（班）長ハ衝導タル者ノ外押伍列ニ著ク但シ人員ノ都合ニ依リ之ヲ列員ニ加フルコトヲ得

部隊ニ加ハラザル副團長及分團長アルトキハ列外ニ位置ス

團旗ヲ把持セル者ハ他ニ特別ノ規定アル場合ノ外ハ列外ニ位置ス

前各項ノ準備終レバ指揮者ハ「休メ」ノ號令ヲ下シ點檢官（點檢者以下同ジ）ノ臨場ヲ待ツベシ

第十條　點檢官第六條第一號ノ點檢ヲ行フ爲臨場シタルトキハ指揮者ハ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ次ニ點檢官定位ニ著キタルトキハ「注目」ノ號令ヲ下シ點檢官ニ對シ擧手注目ノ敬禮ヲ行ヒ各隊長及隊員ハ注目スベシ點檢官ノ答禮アリタルトキハ指揮者ハ「直レ」ノ號令ヲ下シタル後前進シテ人員ノ報告ヲ爲シ終リテ定位置ニ著キテ順次左ノ號令ヲ下スベシ

一　番　號

二　衝導（何）歩前ヘ

三　右ヘ——準ヘ

四　直　レ

五　前列五歩前ヘ押伍列二歩後ヘ——進メ（押伍列後ヘノ號令ハ押伍列アルトキニ限リ附加スルモノトス後退ノ一歩ノ長サハ概ネ四十糎トス）

六　後列五歩押伍列六歩前ヘ——進メ（押伍列前ヘノ號令ハ押伍列アルトキニ限リ附加スルモノトス）

點檢官ハ前項第五號ノ號令ニ依ル動作終リタルトキハ第一列ノ右翼前面ヨリ左翼ヲ通過シ背後ニ回ハリ第二列及押伍列ニ及ボシ服裝、姿勢ヲ檢査シ終リテ定位ニ著クモノトス其ノ間指揮者ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

前項ノ點檢中點檢官ハ其ノ一部ニ對シ休憩ヲナサシムルコトヲ得

第十一條　點檢ヲ行フ禮式左ノ如シ

一　天皇ニ行フ警防團員ノ室外ノ敬禮

二　警防團員ノ室外ノ敬禮

三　天皇ニ行フ警防團員ノ室內ノ敬禮

四　警防團員ノ室內ノ敬禮

五　辭令書、物品等授受ノ敬禮

六　天皇ニ行フ警防部隊ノ敬禮

七　警防部隊ノ敬禮

第十二條　前條第一號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮者ハ列員ヲ一列トナシ成ルベク廣ク間隔ヲ取ラシムル爲ニ「(何)番基準(何)歩間隔一列横隊作レ——進メ」ノ號令ヲ下シ次ニ「休メ」ノ號令ヲ下ス列員ハ豫メ指示セラレタル敬禮目標ニ對シ規定ニ從ヒ不動ノ姿勢ヲ取リ敬禮ヲ行フベシ

點檢官ハ適宜ノ地點ニ位置シ又ハ列ノ右方ヨリ其ノ前面ヲ通過シ點檢ヲ行フベシ但シ指揮者ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

前條第二號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ列ノ右翼ニ出發點ヲ定メ點檢官及指揮者ハ適當ノ地點ニ位置シ指揮者ハ「休メ」ノ號令ヲ下シ次ニ「始メ」ノ號令ヲ下ス列員ハ右翼衝導ヨリ順次左翼衝導ニ至リ後列、押伍列ニ及ビ前進シ點檢官ニ對シテ敬禮ヲ行ヒ元ノ左翼衝導ノ位置ニ相對シテ停止ス（第二圖參照）列員ハ出發點ニ到リタルトキハ不動ノ姿勢ヲ取リ前者ノ敬禮終レバ指揮者ノ指揮ヲ待タズシテ出發スベシ

前條第三號乃至第五號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮者ハ「前列一歩前ヘ——進メ」ノ號令ヲ下シタル後列ノ中央前ニ出發點ヲ定メ點檢官及指揮者ハ適當ノ場所ニ位置シ指揮者ハ「休メ」ノ號令ヲ下シ次ニ「始メ」ノ號令ヲ下ス但シ第三號ノ點檢ニ在リテハ豫メ敬禮目標ヲ指示スルモノトス前列員ハ各其ノ位置ヨリ出發點ニ到リ點檢終レバ左翼衝導ノ背後ヨリ前後列員ノ中間ヲ通過シ舊位置ニ復シ後列員ハ各其ノ位置ヨリ右翼衝導ノ右端ヲ通過シテ出發點ニ到リ點檢終レバ左翼衝導ノ左端ヨリ後列ノ背後ヲ通過シテ舊位置ニ復スベシ押伍列員ハ後列員ノ例ニ倣フ點檢終レバ指揮者ハ「後列一歩前ヘ——進メ」ノ號令ヲ下スベシ（第三圖參照）出發及行進ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

前條第六號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮者ハ定位ニ著キ點檢官ハ列ノ右方ヨリ其ノ前面ヲ通過スベシ指揮者及列員ハ豫メ指示セラレタル敬禮目標ニ對シ規定ニ從ヒ敬禮ヲ行フベシ

前條第七號ノ點檢ノ方法ハ點檢官受禮者トナルノ外前項ニ準ズ

第十三條　禮式及教練ノ點檢ハ點檢官其ノ種目ヲ指定シテ之ヲ行フ

第十四條　中隊及大隊ニ在リテハ通常點檢ノ一部ヲ行ハザルコトヲ得

第十五條　第六條第二號ノ點檢ハ機械器具ノ保存手入ノ良否及應急準備ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第十六條　第六條第三號ノ點檢ハ點檢官其ノ種目ヲ指定シテ之ヲ行フ

第十七條　通常點檢終リテ點檢官退場スルトキハ第十條第一項ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フベシ

第三章　特別點檢

第十八條　特別點檢ハ左ノ各號ノ事項ニ付檢査ヲ行フモノトス

一　物品

二　機械及器具

第十九條　前條ノ點檢ハ毎年一回以上之ヲ行フモノトス

第二十條　第十八條第一號ノ點檢ハ被服、携帶品等ノ正否及使用保存ノ當否ヲ檢査スルモノトス其ノ不適當ト認ムルモノハ速ニ修繕セシムベシ

第二十一條　第十八條第二號ノ點檢ハ左ノ各號ノ事項ニ付檢査ヲ行フモノトス但シ時宜ニ依リ其ノ一部ヲ省略スルヲ妨ゲズ

一　機械

（イ）腕用ポンプハ分解內部檢査、眞空試驗及放水試驗

（ロ）蒸氣ポンプハ汽罐ノ水壓試驗、ポンプノ眞空試驗及放水試驗

（ハ）ガソリンポンプハ原動機ノ氣筩壓縮力壓試驗、ポンプノ眞空試驗及放水試驗

二　器具

（イ）吸管、水管ノ修理及保存ノ良否

（ロ）ポンプ附屬品ノ完否

（ハ）各豫備品及消耗品ノ整否

（ニ）救護救命器具、破壞器具竝工作器材及救急衞生材料ノ整否及其ノ保存手入

ノ良否

（ホ）防毒具、檢定器、消毒用器具及藥品ノ整否、性能ノ良否竝ニ保存方法ノ適否

第二十二條　指揮者ハ前條ノ點檢ニ先チ檢査ニ便ナル準備ヲ爲サシムベシ

當該機械ヲ擔當スル者ハ機械ノ後方ニ整列シ必要アルトキハ其ノ操作運用ニ從事スベシ

第二十三條　點檢官ハ第二十一條ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲シ必要ト認ムルトキハ修理又ハ補充ヲ命ズベシ

第四章　現場點檢

第二十四條　現場點檢ハ防空、水火消防、其ノ他ノ警防作業終リタルトキ現場ニ於テ左ノ各號ノ事項ニ付檢査ヲ行フモノトス

一　人員及服裝

二　機械及器具

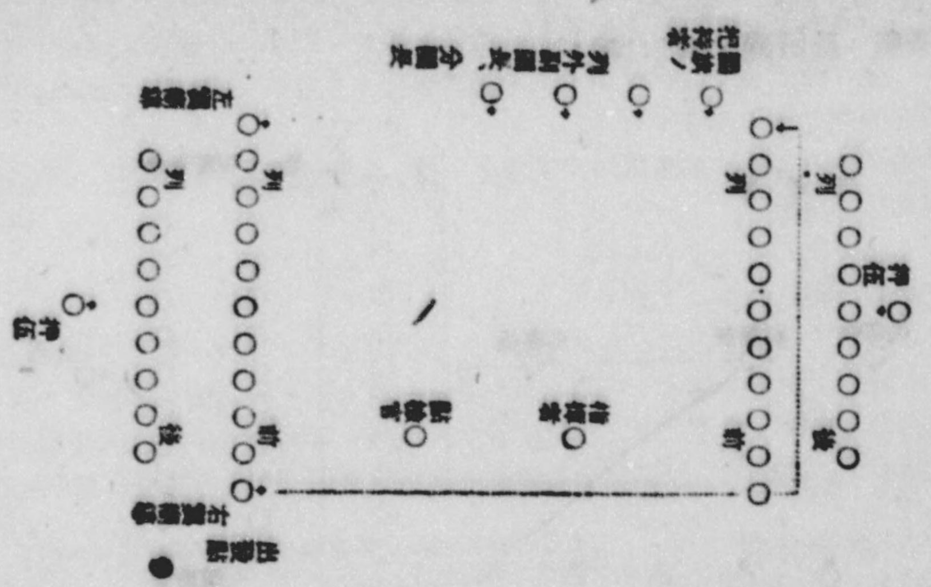
第二十五條　警防團員ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ物品若ハ機械器具ヲ毀損シ又ハ滅失シタルトキハ集合後指揮者ニ申告シ點檢官ノ檢査ヲ受クベシ

附　則

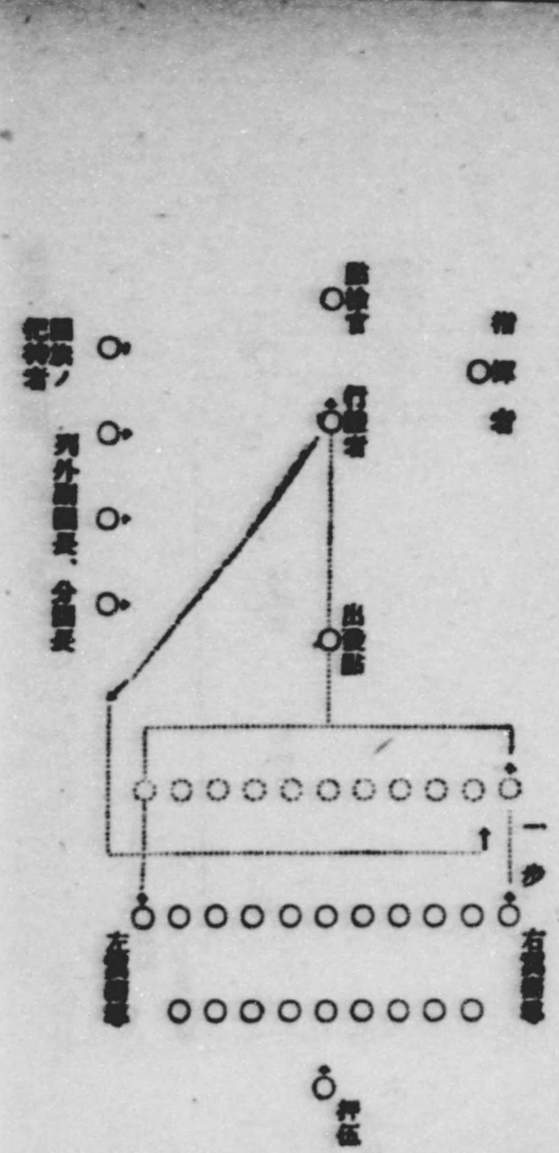
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

消防組點檢規則ハ之ヲ廢止ス

第二圖（第十二條）


地中
第一
第二
第三
第四
第五
第六
第七
第八
第九
第十
第十一
第十二
第十三
第十四
第十五
第十六
第十七
第十八
第十九
第二十
第二十一
第二十二
第二十三
第二十四
第二十五
第二十六
第二十七
第二十八
第二十九
第三十
第三十一
第三十二
第三十三
第三十四
第三十五
第三十六
第三十七
第三十八
第三十九
第四十
第四十一
第四十二
第四十三
第四十四
第四十五
第四十六
第四十七
第四十八
第四十九
第五十
第五十一
第五十二
第五十三
第五十四
第五十五
第五十六
第五十七
第五十八
第五十九
第六十
第六十一
第六十二
第六十三
第六十四
第六十五
第六十六
第六十七
第六十八
第六十九
第七十
第七十一
第七十二
第七十三
第七十四
第七十五
第七十六
第七十七
第七十八
第七十九
第八十
第八十一
第八十二
第八十三
第八十四
第八十五
第八十六
第八十七
第八十八
第八十九
第九十
第九十一
第九十二
第九十三
第九十四
第九十五
第九十六
第九十七
第九十八
第九十九
第百
第百一
第百二
第百三
第百四
第百五
第百六
第百七
第百八
第百九
第百十
第百十一
第百十二
第百十三
第百十四
第百十五
第百十六
第百十七
第百十八
第百十九
第百二十
第百二十一
第百二十二
第百二十三
第百二十四
第百二十五
第百二十六
第百二十七
第百二十八
第百二十九
第百三十
第百三十一
第百三十二
第百三十三
第百三十四
第百三十五
第百三十六
第百三十七
第百三十八
第百三十九
第百四十
第百四十一
第百四十二
第百四十三
第百四十四
第百四十五
第百四十六
第百四十七
第百四十八
第百四十九
第百五十
第百五十一
第百五十二
第百五十三
第百五十四
第百五十五
第百五十六
第百五十七
第百五十八
第百五十九
第百六十
第百六十一
第百六十二
第百六十三
第百六十四
第百六十五
第百六十六
第百六十七
第百六十八
第百六十九
第百七十
第百七十一
第百七十二
第百七十三
第百七十四
第百七十五
第百七十六
第百七十七
第百七十八
第百七十九
第百八十
第百八十一
第百八十二
第百八十三
第百八十四
第百八十五
第百八十六
第百八十七
第百八十八
第百八十九
第百九十
第百九十一
第百九十二
第百九十三
第百九十四
第百九十五
第百九十六
第百九十七
第百九十八
第百九十九
第二百
第二百一
第二百二
第二百三
第二百四
第二百五
第二百六
第二百七
第二百八
第二百九
第二百十
第二百十一
第二百十二
第二百十三
第二百十四
第二百十五
第二百十六
第二百十七
第二百十八
第二百十九
第二百二十
第二百二十一
第二百二十二
第二百二十三
第二百二十四
第二百二十五
第二百二十六
第二百二十七
第二百二十八
第二百二十九
第二百三十
第二百三十一
第二百三十二
第二百三十三
第二百三十四
第二百三十五
第二百三十六
第二百三十七
第二百三十八
第二百三十九
第二百四十
第二百四十一
第二百四十二
第二百四十三
第二百四十四
第二百四十五
第二百四十六
第二百四十七
第二百四十八
第二百四十九
第二百五十
第二百五十一
第二百五十二
第二百五十三
第二百五十四
第二百五十五
第二百五十六
第二百五十七
第二百五十八
第二百五十九
第二百六十
第二百六十一
第二百六十二
第二百六十三
第二百六十四
第二百六十五
第二百六十六
第二百六十七
第二百六十八
第二百六十九
第二百七十
第二百七十一
第二百七十二
第二百七十三
第二百七十四
第二百七十五
第二百七十六
第二百七十七
第二百七十八
第二百七十九
第二百八十
第二百八十一
第二百八十二
第二百八十三
第二百八十四
第二百八十五
第二百八十六
第二百八十七
第二百八十八
第二百八十九
第二百九十
第二百九十一
第二百九十二
第二百九十三
第二百九十四
第二百九十五
第二百九十六
第二百九十七
第二百九十八
第二百九十九
第三百
第三百一
第三百二
第三百三
第三百四
第三百五
第三百六
第三百七
第三百八
第三百九
第三百十
第三百十一
第三百十二
第三百十三
第三百十四
第三百十五
第三百十六
第三百十七
第三百十八
第三百十九
第三百二十
第三百二十一
第三百二十二
第三百二十三
第三百二十四
第三百二十五
第三百二十六
第三百二十七
第三百二十八
第三百二十九
第三百三十
第三百三十一
第三百三十二
第三百三十三
第三百三十四
第三百三十五
第三百三十六
第三百三十七
第三百三十八
第三百三十九
第三百四十
第三百四十一
第三百四十二
第三百四十三
第三百四十四
第三百四十五
第三百四十六
第三百四十七
第三百四十八
第三百四十九
第三百五十
第三百五十一
第三百五十二
第三百五十三
第三百五十四
第三百五十五
第三百五十六
第三百五十七
第三百五十八
第三百五十九
第三百六十
第三百六十一
第三百六十二
第三百六十三
第三百六十四
第三百六十五
第三百六十六
第三百六十七
第三百六十八
第三百六十九
第三百七十
第三百七十一
第三百七十二
第三百七十三
第三百七十四
第三百七十五
第三百七十六
第三百七十七
第三百七十八
第三百七十九
第三百八十
第三百八十一
第三百八十二
第三百八十三
第三百八十四
第三百八十五
第三百八十六
第三百八十七
第三百八十八
第三百八十九
第三百九十
第三百九十一
第三百九十二
第三百九十三
第三百九十四
第三百九十五
第三百九十六
第三百九十七
第三百九十八
第三百九十九
第四百
第四百一
第四百二
第四百三
第四百四
第四百五
第四百六
第四百七
第四百八
第四百九
第四百十
第四百十一
第四百十二
第四百十三
第四百十四
第四百十五
第四百十六
第四百十七
第四百十八
第四百十九
第四百二十
第四百二十一
第四百二十二
第四百二十三
第四百二十四
第四百二十五
第四百二十六
第四百二十七
第四百二十八
第四百二十九
第四百三十
第四百三十一
第四百三十二
第四百三十三
第四百三十四
第四百三十五
第四百三十六
第四百三十七
第四百三十八
第四百三十九
第四百四十
第四百四十一
第四百四十二
第四百四十三
第四百四十四
第四百四十五
第四百四十六
第四百四十七
第四百四十八
第四百四十九
第四百五十
第四百五十一
第四百五十二
第四百五十三
第四百五十四
第四百五十五
第四百五十六
第四百五十七
第四百五十八
第四百五十九
第四百六十
第四百六十一
第四百六十二
第四百六十三
第四百六十四
第四百六十五
第四百六十六
第四百六十七
第四百六十八
第四百六十九
第四百七十
第四百七十一
第四百七十二
第四百七十三
第四百七十四
第四百七十五
第四百七十六
第四百七十七
第四百七十八
第四百七十九
第四百八十
第四百八十一
第四百八十二
第四百八十三
第四百八十四
第四百八十五
第四百八十六
第四百八十七
第四百八十八
第四百八十九
第四百九十
第四百九十一
第四百九十二
第四百九十三
第四百九十四
第四百九十五
第四百九十六
第四百九十七
第四百九十八
第四百九十九
第五百
第五百一
第五百二
第五百三
第五百四
第五百五
第五百六
第五百七
第五百八
第五百九
第五百十
第五百十一
第五百十二
第五百十三
第五百十四
第五百十五
第五百十六
第五百十七
第五百十八
第五百十九
第五百二十
第五百二十一
第五百二十二
第五百二十三
第五百二十四
第五百二十五
第五百二十六
第五百二十七
第五百二十八
第五百二十九
第五百三十
第五百三十一
第五百三十二
第五百三十三
第五百三十四
第五百三十五
第五百三十六
第五百三十七
第五百三十八
第五百三十九
第五百四十
第五百四十一
第五百四十二
第五百四十三
第五百四十四
第五百四十五
第五百四十六
第五百四十七
第五百四十八
第五百四十九
第五百五十
第五百五十一
第五百五十二
第五百五十三
第五百五十四
第五百五十五
第五百五十六
第五百五十七
第五百五十八
第五百五十九
第五百六十
第五百六十一
第五百六十二
第五百六十三
第五百六十四
第五百六十五
第五百六十六
第五百六十七
第五百六十八
第五百六十九
第五百七十
第五百七十一
第五百七十二
第五百七十三
第五百七十四
第五百七十五
第五百七十六
第五百七十七
第五百七十八
第五百七十九
第五百八十
第五百八十一
第五百八十二
第五百八十三
第五百八十四
第五百八十五
第五百八十六
第五百八十七
第五百八十八
第五百八十九
第五百九十
第五百九十一
第五百九十二
第五百九十三
第五百九十四
第五百九十五
第五百九十六
第五百九十七
第五百九十八
第五百九十九
第六百
第六百一
第六百二
第六百三
第六百四
第六百五
第六百六
第六百七
第六百八
第六百九
第六百十
第六百十一
第六百十二
第六百十三
第六百十四
第六百十五
第六百十六
第六百十七
第六百十八
第六百十九
第六百二十
第六百二十一
第六百二十二
第六百二十三
第六百二十四
第六百二十五
第六百二十六
第六百二十七
第六百二十八
第六百二十九
第六百三十
第六百三十一
第六百三十二
第六百三十三
第六百三十四
第六百三十五
第六百三十六
第六百三十七
第六百三十八
第六百三十九
第六百四十
第六百四十一
第六百四十二
第六百四十三
第六百四十四
第六百四十五
第六百四十六
第六百四十七
第六百四十八
第六百四十九
第六百五十
第六百五十一
第六百五十二
第六百五十三
第六百五十四
第六百五十五
第六百五十六
第六百五十七
第六百五十八
第六百五十九
第六百六十
第六百六十一
第六百六十二
第六百六十三
第六百六十四
第六百六十五
第六百六十六
第六百六十七
第六百六十八
第六百六十九
第六百七十
第六百七十一
第六百七十二
第六百七十三
第六百七十四
第六百七十五
第六百七十六
第六百七十七
第六百七十八
第六百七十九
第六百八十
第六百八十一
第六百八十二
第六百八十三
第六百八十四
第六百八十五
第六百八十六
第六百八十七
第六百八十八
第六百八十九
第六百九十
第六百九十一
第六百九十二
第六百九十三
第六百九十四
第六百九十五
第六百九十六
第六百九十七
第六百九十八
第六百九十九
第七百
第七百一
第七百二
第七百三
第七百四
第七百五
第七百六
第七百七
第七百八
第七百九
第七百十
第七百十一
第七百十二
第七百十三
第七百十四
第七百十五
第七百十六
第七百十七
第七百十八
第七百十九
第七百二十
第七百二十一
第七百二十二
第七百二十三
第七百二十四
第七百二十五
第七百二十六
第七百二十七
第七百二十八
第七百二十九
第七百三十
第七百三十一
第七百三十二
第七百三十三
第七百三十四
第七百三十五
第七百三十六
第七百三十七
第七百三十八
第七百三十九
第七百四十
第七百四十一
第七百四十二
第七百四十三
第七百四十四
第七百四十五
第七百四十六
第七百四十七
第七百四十八
第七百四十九
第七百五十
第七百五十一
第七百五十二
第七百五十三
第七百五十四
第七百五十五
第七百五十六
第七百五十七
第七百五十八
第七百五十九
第七百六十
第七百六十一
第七百六十二
第七百六十三
第七百六十四
第七百六十五
第七百六十六
第七百六十七
第七百六十八
第七百六十九
第七百七十
第七百七十一
第七百七十二
第七百七十三
第七百七十四
第七百七十五
第七百七十六
第七百七十七
第七百七十八
第七百七十九
第七百八十
第七百八十一
第七百八十二
第七百八十三
第七百八十四
第七百八十五
第七百八十六
第七百八十七
第七百八十八
第七百八十九
第七百九十
第七百九十一
第七百九十二
第七百九十三
第七百九十四
第七百九十五
第七百九十六
第七百九十七
第七百九十八
第七百九十九
第八百
第八百一
第八百二
第八百三
第八百四
第八百五
第八百六
第八百七
第八百八
第八百九
第八百十
第八百十一
第八百十二
第八百十三
第八百十四
第八百十五
第八百十六
第八百十七
第八百十八
第八百十九
第八百二十
第八百二十一
第八百二十二
第八百二十三
第八百二十四
第八百二十五
第八百二十六
第八百二十七
第八百二十八
第八百二十九
第八百三十
第八百三十一
第八百三十二
第八百三十三
第八百三十四
第八百三十五
第八百三十六
第八百三十七
第八百三十八
第八百三十九
第八百四十
第八百四十一
第八百四十二
第八百四十三
第八百四十四
第八百四十五
第八百四十六
第八百四十七
第八百四十八
第八百四十九
第八百五十
第八百五十一
第八百五十二
第八百五十三
第八百五十四
第八百五十五
第八百五十六
第八百五十七
第八百五十八
第八百五十九
第八百六十
第八百六十一
第八百六十二
第八百六十三
第八百六十四
第八百六十五
第八百六十六
第八百六十七
第八百六十八
第八百六十九
第八百七十
第八百七十一
第八百七十二
第八百七十三
第八百七十四
第八百七十五
第八百七十六
第八百七十七
第八百七十八
第八百七十九
第八百八十
第八百八十一
第八百八十二
第八百八十三
第八百八十四
第八百八十五
第八百八十六
第八百八十七
第八百八十八
第八百八十九
第八百九十
第八百九十一
第八百九十二
第八百九十三
第八百九十四
第八百九十五
第八百九十六
第八百九十七
第八百九十八
第八百九十九
第九百
第九百一
第九百二
第九百三
第九百四
第九百五
第九百六
第九百七
第九百八
第九百九
第九百十
第九百十一
第九百十二
第九百十三
第九百十四
第九百十五
第九百十六
第九百十七
第九百十八
第九百十九
第九百二十
第九百二十一
第九百二十二
第九百二十三
第九百二十四
第九百二十五
第九百二十六
第九百二十七
第九百二十八
第九百二十九
第九百三十
第九百三十一
第九百三十二
第九百三十三
第九百三十四
第九百三十五
第九百三十六
第九百三十七
第九百三十八
第九百三十九
第九百四十
第九百四十一
第九百四十二
第九百四十三
第九百四十四
第九百四十五
第九百四十六
第九百四十七
第九百四十八
第九百四十九
第九百五十
第九百五十一
第九百五十二
第九百五十三
第九百五十四
第九百五十五
第九百五十六
第九百五十七
第九百五十八
第九百五十九
第九百六十
第九百六十一
第九百六十二
第九百六十三
第九百六十四
第九百六十五
第九百六十六
第九百六十七
第九百六十八
第九百六十九
第九百七十
第九百七十一
第九百七十二
第九百七十三
第九百七十四
第九百七十五
第九百七十六
第九百七十七
第九百七十八
第九百七十九
第九百八十
第九百八十一
第九百八十二
第九百八十三
第九百八十四
第九百八十五
第九百八十六
第九百八十七
第九百八十八
第九百八十九
第九百九十
第九百九十一
第九百九十二
第九百九十三
第九百九十四
第九百九十五
第九百九十六
第九百九十七
第九百九十八
第九百九十九
第一千
第一千一
第一千二
第一千三
第一千四
第一千五
第一千六
第一千七
第一千八
第一千九
第一千十
第一千十一
第一千十二
第一千十三
第一千十四
第一千十五
第一千十六
第一千十七
第一千十八
第一千十九
第一千二十
第一千二十一
第一千二十二
第一千二十三
第一千二十四
第一千二十五
第一千二十六
第一千二十七
第一千二十八
第一千二十九
第一千三十
第一千三十一
第一千三十二
第一千三十三
第一千三十四
第一千三十五
第一千三十六
第一千三十七
第一千三十八
第一千三十九
第一千四十
第一千四十一
第一千四十二
第一千四十三
第一千四十四
第一千四十五
第一千四十六
第一千四十七
第一千四十八
第一千四十九
第一千五十
第一千五十一
第一千五十二
第一千五十三
第一千五十四
第一千五十五
第一千五十六
第一千五十七
第一千五十八
第一千五十九
第一千六十
第一千六十一
第一千六十二
第一千六十三
第一千六十四
第一千六十五
第一千六十六
第一千六十七
第一千六十八
第一千六十九
第一千七十
第一千七十一
第一千七十二
第一千七十三
第一千七十四
第一千七十五
第一千七十六
第一千七十七
第一千七十八
第一千七十九
第一千八十
第一千八十一
第一千八十二
第一千八十三
第一千八十四
第一千八十五
第一千八十六
第一千八十七
第一千八十八
第一千八十九
第一千九十
第一千九十一
第一千九十二
第一千九十三
第一千九十四
第一千九十五
第一千九十六
第一千九十七
第一千九十八
第一千九十九
第二千
第二千一
第二千二
第二千三
第二千四
第二千五
第二千六
第二千七
第二千八
第二千九
第二千十
第二千十一
第二千十二
第二千十三
第二千十四
第二千十五
第二千十六
第二千十七
第二千十八
第二千十九
第二千二十
第二千二十一
第二千二十二
第二千二十三
第二千二十四
第二千二十五
第二千二十六
第二千二十七
第二千二十八
第二千二十九
第二千三十
第二千三十一
第二千三十二
第二千三十三
第二千三十四
第二千三十五
第二千三十六
第二千三十七
第二千三十八
第二千三十九
第二千四十
第二千四十一
第二千四十二
第二千四十三
第二千四十四
第二千四十五
第二千四十六
第二千四十七
第二千四十八
第二千四十九
第二千五十
第二千五十一
第二千五十二
第二千五十三
第二千五十四
第二千五十五
第二千五十六
第二千五十七
第二千五十八
第二千五十九
第二千六十
第二千六十一
第二千六十二
第二千六十三
第二千六十四
第二千六十五
第二千六十六
第二千六十七
第二千六十八
第二千六十九
第二千七十
第二千七十一
第二千七十二
第二千七十三
第二千七十四
第二千七十五
第二千七十六
第二千七十七
第二千七十八
第二千七十九
第二千八十
第二千八十一
第二千八十二
第二千八十三
第二千八十四
第二千八十五
第二千八十六
第二千八十七
第二千八十八
第二千八十九
第二千九十
第二千九十一
第二千九十二
第二千九十三
第二千九十四
第二千九十五
第二千九十六
第二千九十七
第二千九十八
第二千九十九
第三千
第三千一
第三千二
第三千三
第三千四
第三千五
第三千六
第三千七
第三千八
第三千九
第三千十
第三千十一
第三千十二
第三千十三
第三千十四
第三千十五
第三千十六
第三千十七
第三千十八
第三千十九
第三千二十
第三千二十一
第三千二十二
第三千二十三
第三千二十四
第三千二十五
第三千二十六
第三千二十七
第三千二十八
第三千二十九
第三千三十
第三千三十一
第三千三十二
第三千三十三
第三千三十四
第三千三十五
第三千三十六
第三千三十七
第三千三十八
第三千三十九
第三千四十
第三千四十一
第三千四十二
第三千四十三
第三千四十四
第三千四十五
第三千四十六
第三千四十七
第三千四十八
第三千四十九
第三千五十
第三千五十一
第三千五十二
第三千五十三
第三千五十四
第三千五十五
第三千五十六
第三千五十七
第三千五十八
第三千五十九
第三千六十
第三千六十一
第三千六十二
第三千六十三
第三千六十四
第三千六十五
第三千六十六
第三千六十七
第三千六十八
第三千六十九
第三千七十
第三千七十一
第三千七十二
第三千七十三
第三千七十四
第三千七十五
第三千七十六
第三千七十七
第三千七十八
第三千七十九
第三千八十
第三千八十一
第三千八十二
第三千八十三
第三千八十四
第三千八十五
第三千八十六
第三千八十七
第三千八十八
第三千八十九
第三千九十
第三千九十一
第三千九十二
第三千九十三
第三千九十四
第三千九十五
第三千九十六
第三千九十七
第三千九十八
第三千九十九
第四千
第四千一
第四千二
第四千三
第四千四
第四千五
第四千六
第四千七
第四千八
第四千九
第四千十
第四千十一
第四千十二
第四千十三
第四千十四
第四千十五
第四千十六
第四千十七
第四千十八
第四千十九
第四千二十
第四千二十一
第四千二十二
第四千二十三
第四千二十四
第四千二十五
第四千二十六
第四千二十七
第四千二十八
第四千二十九
第四千三十
第四千三十一
第四千三十二
第四千三十三
第四千三十四
第四千三十五
第四千三十六
第四千三十七
第四千三十八
第四千三十九
第四千四十
第四千四十一
第四千四十二
第四千四十三
第四千四十四
第四千四十五
第四千四十六
第四千四十七
第四千四十八
第四千四十九
第四千五十
第四千五十一
第四千五十二
第四千五十三
第四千五十四
第四千五十五
第四千五十六
第四千五十七
第四千五十八
第四千五十九
第四千六十
第四千六十一
第四千六十二
第四千六十三
第四千六十四
第四千六十五
第四千六十六
第四千六十七
第四千六十八
第四千六十九
第四千七十
第四千七十一
第四千七十二
第四千七十三
第四千七十四
第四千七十五
第四千七十六
第四千七十七
第四千七十八
第四千七十九
第四千八十
第四千八十一
第四千八十二
第四千八十三
第四千八十四
第四千八十五
第四千八十六
第四千八十七
第四千八十八
第四千八十九
第四千九十
第四千九十一
第四千九十二
第四千九十三
第四千九十四
第四千九十五
第四千九十六
第四千九十七
第四千九十八
第四千九十九
第五千
第五千一
第五千二
第五千三
第五千四
第五千五
第五千六
第五千七
第五千八
第五千九
第五千十
第五千十一
第五千十二
第五千十三
第五千十四
第五千十五
第五千十六
第五千十七
第五千十八
第五千十九
第五千二十
第五千二十一
第五千二十二
第五千二十三
第五千二十四
第五千二十五
第五千二十六
第五千二十七
第五千二十八
第五千二十九
第五千三十
第五千三十一
第五千三十二
第五千三十三
第五千三十四
第五千三十五
第五千三十六
第五千三十七
第五千三十八
第五千三十九
第五千四十
第五千四十一
第五千四十二
第五千四十三
第五千四十四
第五千四十五
第五千四十六
第五千四十七
第五千四十八
第五千四十九
第五千五十
第五千五十一
第五千五十二
第五千五十三
第五千五十四
第五千五十五
第五千五十六
第五千五十七
第五千五十八
第五千五十九
第五千六十
第五千六十一
第五千六十二
第五千六十三
第五千六十四
第五千六十五
第五千六十六
第五千六十七
第五千六十八
第五千六十九
第五千七十
第五千七十一
第五千七十二
第五千七十三
第五千七十四
第五千七十五
第五千七十六
第五千七十七
第五千七十八
第五千七十九
第五千八十
第五千八十一
第五千八十二
第五千八十三
第五千八十四
第五千八十五
第五千八十六
第五千八十七
第五千八十八
第五千八十九
第五千九十
第五千九十一
第五千九十二
第五千九十三
第五千九十四
第五千九十五
第五千九十六
第五千九十七
第五千九十八
第五千九十九
第六千
第六千一
第六千二
第六千三
第六千四
第六千五
第六千六
第六千七
第六千八
第六千九
第六千十
第六千十一
第六千十二
第六千十三
第六千十四
第六千十五
第六千十六
第六千十七
第六千十八
第六千十九
第六千二十
第六千二十一
第六千二十二
第六千二十三
第六千二十四
第六千二十五
第六千二十六
第六千二十七
第六千二十八
第六千二十九
第六千三十
第六千三十一
第六千三十二
第六千三十三
第六千三十四
第六千三十五
第六千三十六
第六千三十七
第六千三十八
第六千三十九
第六千四十
第六千四十一
第六千四十二
第六千四十三
第六千四十四
第六千四十五
第六千四十六
第六千四十七
第六千四十八
第六千四十九
第六千五十
第六千五十一
第六千五十二
第六千五十三
第六千五十四
第六千五十五
第六千五十六
第六千五十七
第六千五十八
第六千五十九
第六千六十
第六千六十一
第六千六十二
第六千六十三
第六千六十四
第六千六十五
第六千六十六
第六千六十七
第六千六十八
第六千六十九
第六千七十
第六千七十一
第六千七十二
第六千七十三
第六千七十四
第六千七十五
第六千七十六
第六千七十七
第六千七十八
第六千七十九
第六千八十
第六千八十一
第六千八十二
第六千八十三
第六千八十四
第六千八十五
第六千八十六
第六千八十七
第六千八十八
第六千八十九
第六千九十
第六千九十一
第六千九十二
第六千九十三
第六千九十四
第六千九十五
第六千九十六
第六千九十七
第六千九十八
第六千九十九
第七千
第七千一
第七千二
第七千三
第七千四
第七千五
第七千六
第七千七
第七千八
第七千九
第七千十
第七千十一
第七千十二
第七千十三
第七千十四
第七千十五
第七千十六
第七千十七
第七千十八
第七千十九
第七千二十
第七千二十一
第七千二十二
第七千二十三
第七千二十四
第七千二十五
第七千二十六
第七千二十七
第七千二十八
第七千二十九
第七千三十
第七千三十一
第七千三十二
第七千三十三
第七千三十四
第七千三十五
第七千三十六
第七千三十七
第七千三十八
第七千三十九
第七千四十
第七千四十一
第七千四十二
第七千四十三
第七千四十四
第七千四十五
第七千四十六
第七千四十七
第七千四十八
第七千四十九
第七千五十
第七千五十一
第七千五十二
第七千五十三
第七千五十四
第七千五十五
第七千五十六
第七千五十七
第七千五十八
第七千五十九
第七千六十
第七千六十一
第七千六十二
第七千六十三
第七千六十四
第七千六十五
第七千六十六
第七千六十七
第七千六十八
第七千六十九
第七千七十
第七千七十一
第七千七十二
第七千七十三
第七千七十四
第七千七十五
第七千七十六
第七千七十七
第七千七十八
第七千七十九
第七千八十
第七千八十一
第七千八十二
第七千八十三
第七千八十四
第七千八十五
第七千八十六
第七千八十七
第七千八十八
第七千八十九
第七千九十
第七千九十一
第七千九十二
第七千九十三
第七千九十四
第七千九十五
第七千九十六
第七千九十七
第七千九十八
第七千九十九
第八千
第八千一
第八千二
第八千三
第八千四
第八千五
第八千六
第八千七
第八千八
第八千九
第八千十
第八千十一
第八千十二
第八千十三
第八千十四
第八千十五
第八千十六
第八千十七
第八千十八
第八千十九
第八千二十
第八千二十一
第八千二十二
第八千二十三
第八千二十四
第八千二十五
第八千二十六
第八千二十七
第八千二十八
第八千二十九
第八千三十
第八千三十一
第八千三十二
第八千三十三
第八千三十四
第八千三十五
第八千三十六
第八千三十七
第八千三十八
第八千三十九
第八千四十
第八千四十一
第八千四十二
第八千四十三
第八千四十四
第八千四十五
第八千四十六
第八千四十七
第八千四十八
第八千四十九
第八千五十
第八千五十一
第八千五十二
第八千五十三
第八千五十四
第八千五十五
第八千五十六
第八千五十七
第八千五十八
第八千五十九
第八千六十
第八千六十一
第八千六十二
第八千六十三
第八千六十四
第八千六十五
第八千六十六
第八千六十七
第八千六十八
第八千六十九
第八千七十
第八千七十一
第八千七十二
第八千七十三
第八千七十四
第八千七十五
第八千七十六
第八千七十七
第八千七十八
第八千七十九
第八千八十
第八千八十一
第八千八十二
第八千八十三
第八千八十四
第八千八十五
第八千八十六
第八千八十七
第八千八十八
第八千八十九
第八千九十
第八千九十一
第八千九十二
第八千九十三
第八千九十四
第八千九十五
第八千九十六
第八千九十七
第八千九十八
第八千九十九
第九千
第九千一
第九千二
第九千三
第九千四
第九千五
第九千六
第九千七
第九千八
第九千九
第九千十
第九千十一
第九千十二
第九千十三
第九千十四
第九千十五
第九千十六
第九千十七
第九千十八
第九千十九
第九千二十
第九千二十一
第九千二十二
第九千二十三
第九千二十四
第九千二十五
第九千二十六
第九千二十七
第九千二十八
第九千二十九
第九千三十
第九千三十一
第九千三十二
第九千三十三
第九千三十四
第九千三十五
第九千三十六
第九千三十七
第九千三十八
第九千三十九
第九千四十
第九千四十一
第九千四十二
第九千四十三
第九千四十四
第九千四十五
第九千四十六
第九千四十七
第九千四十八
第九千四十九
第九千五十
第九千五十一
第九千五十二
第九千五十三
第九千五十四
第九千五十五
第九千五十六
第九千五十七
第九千五十八
第九千五十九
第九千六十
第九千六十一
第九千六十二
第九千六十三
第九千六十四
第九千六十五
第九千六十六
第九千六十七
第九千六十八
第九千六十九
第九千七十
第九千七十一
第九千七十二
第九千七十三
第九千七十四
第九千七十五
第九千七十六
第九千七十七
第九千七十八
第九千七十九
第九千八十
第九千八十一
第九千八十二
第九千八十三
第九千八十四
第九千八十五
第九千八十六
第九千八十七
第九千八十八
第九千八十九
第九千九十
第九千九十一
第九千九十二
第九千九十三
第九千九十四
第九千九十五
第九千九十六
第九千九十七
第九千九十八
第九千九十九
第十千
第十千一
第十千二
第十千三
第十千四
第十千五
第十千六
第十千七
第十千八
第十千九
第十千十
第十千十一
第十千十二
第十千十三
第十千十四
第十千十五
第十千十六
第十千十七
第十千十八
第十千十九
第十千二十
第十千二十一
第十千二十二
第十千二十三
第十千二十四
第十千二十五
第十千二十六
第十千二十七
第十千二十八
第十千二十九
第十千三十
第十千三十一
第十千三十二
第十千三十三
第十千三十四
第十千三十五
第十千三十六
第十千三十七
第十千三十八
第十千三十九
第十千四十
第十千四十一
第十千四十二
第十千四十三
第十千四十四
第十千四十五
第十千四十六
第十千四十七
第十千四十八
第十千四十九
第十千五十
第十千五十一
第十千五十二
第十千五十三
第十千五十四
第十千五十五
第十千五十六
第十千五十七
第十千五十八
第十千五十九
第十千六十
第十千六十一
第十千六十二
第十千六十三
第十千六十四
第十千六十五
第十千六十六
第十千六十七
第十千六十八
第十千六十九
第十千七十
第十千七十一
第十千七十二
第十千七十三
第十千七十四
第十千七十五
第十千七十六
第十千七十七
第十千七十八
第十千七十九
第十千八十
第十千八十一
第十千八十二
第十千八十三
第十千八十四
第十千八十五
第十千八十六
第十千八十七
第十千八十八
第十千八十九
第十千九十
第十千九十一
第十千九十二
第十千九十三
第十千九十四
第十千九十五
第十千九十六
第十千九十七
第十千九十八
第十千九十九
第十一千
第十一千一
第十一千二
第十一千三
第十一千四
第十一千五
第十一千六
第十一千七
第十一千八
第十一千九
第十一千十
第十一千十一
第十一千十二
第十一千十三
第十一千十四
第十一千十五
第十一千十六
第十一千十七
第十一千十八
第十一千十九
第十一千二十
第十一千二十一
第十一千二十二
第十一千二十三
第十一千二十四
第十一千二十五
第十一千二十六
第十一千二十七
第十一千二十八
第十一千二十九
第十一千三十
第十一千三十一
第十一千三十二
第十一千三十三
第十一千三十四
第十一千三十五
第十一千三十六
第十一千三十七
第十一千三十八
第十一千三十九
第十一千四十
第十一千四十一
第十一千四十二
第十一千四十三
第十一千四十四
第十一千四十五
第十一千四十六
第十一千四十七
第十一千四十八
第十一千四十九
第十一千五十
第十一千五十一
第十一千五十二
第十一千五十三
第十一千五十四
第十一千五十五
第十一千五十六
第十一千五十七
第十一千五十八
第十一千五十九
第十一千六十
第十一千六十一
第十一千六十二
第十一千六十三
第十一千六十四
第十一千六十五
第十一千六十六
第十一千六十七
第十一千六十八
第十一千六十九
第十一千七十
第十一千七十一
第十一千七十二
第十一千七十三
第十一千七十四
第十一千七十五
第十一千七十六
第十一千七十七
第十一千七十八
第十一千七十九
第十一千八十
第十一千八十一
第十一千八十二
第十一千八十三
第十一千八十四
第十一千八十五
第十一千八十六
第十一千八十七
第十一千八十八
第十一千八十九
第十一千九十
第十一千九十一
第十一千九十二
第十一千九十三
第十一千九十四
第十一千九十五
第十一千九十六
第十一千九十七
第十一千九十八
第十一千九十九
第十二千
第十二千一
第十二千二
第十二千三
第十二千四
第十二千五
第十二千六
第十二千七
第十二千八
第十二千九
第十二千十
第十二千十一
第十二千十二
第十二千十三
第十二千十四
第十二千十五
第十二千十六
第十二千十七
第十二千十八
第十二千十九
第十二千二十
第十二千二十一
第十二千二十二
第十二千二十三
第十二千二十四
第十二千二十五
第十二千二十六
第十二千二十七
第十二千二十八
第十二千二十九
第十二千三十
第十二千三十一
第十二千三十二
第十二千三十三
第十二千三十四
第十二千三十五
第十二千三十六
第十二千三十七
第十二千三十八
第十二千三十九
第十二千四十
第十二千四十一
第十二千四十二
第十二千四十三
第十二千四十四
第十二千四十五
第十二千四十六
第十二千四十七
第十二千四十八
第十二千四十九
第十二千五十
第十二千五十一
第十二千五十二
第十二千五十三
第十二千五十四
第十二千五十五
第十二千五十六
第十二千五十七
第十二千五十八
第十二千五十九
第十二千六十
第十二千六十一
第十二千六十二
第十二千六十三
第十二千六十四
第十二千六十五
第十二千六十六
第十二千六十七
第十二千六十八
第十二千六十九
第十二千七十
第十二千七十一
第十二千七十二
第十二千七十三
第十二千七十四
第十二千七十五
第十二千七十六
第十二千七十七
第十二千七十八
第十二千七十九
第十二千八十
第十二千八十一
第十二千八十二
第十二千八十三
第十二千八十四
第十二千八十五
第十二千八十六
第十二千八十七
第十二千八十八
第十二千八十九
第十二千九十
第十二千九十一
第十二千九十二
第十二千九十三
第十二千九十四
第十二千九十五
第十二千九十六
第十二千九十七
第十二千九十八
第十二千九十九
第十三千
第十三千一
第十三千二
第十三千三
第十三千四
第十三千五
第十三千六
第十三千七
第十三千八
第十三千九
第十三千十
第十三千十一
第十三千十二
第十三千十三
第十三千十四
第十三千十五
第十三千十六
第十三千十七
第十三千十八
第十三千十九
第十三千二十
第十三千二十一
第十三千二十二
第十三千二十三
第十三千二十四
第十三千二十五
第十三千二十六
第十三千二十七
第十三千二十八
第十三千二十九
第十三千三十
第十三千三十一
第十三千三十二
第十三千三十三
第十三千三十四
第十三千三十五
第十三千三十六
第十三千三十七
第十三千三十八
第十三千三十九
第十三千四十
第十三千四十一
第十三千四十二
第十三千四十三
第十三千四十四
第十三千四十五
第十三千四十六
第十三千四十七
第十三千四十八
第十三千四十九
第十三千五十
第十三千五十一
第十三千五十二
第十三千五十三
第十三千五十四
第十三千五十五
第十三千五十六
第十三千五十七
第十三千五十八
第十三千五十九
第十三千六十
第十三千六十一
第十三千六十二
第十三千六十三
第十三千六十四
第十三千六十五
第十三千六十六
第十三千六十七
第十三千六十八
第十三千六十九
第十三千七十
第十三千七十一
第十三千七十二
第十三千七十三
第十三千七十四
第十三千七十五
第十三千七十六
第十三千七十七
第十三千七十八
第十三千七十九
第十三千八十
第十三千八十一
第十三千八十二
第十三千八十三
第十三千八十四
第十三千八十五
第十三千八十六
第十三千八十七
第十三千八十八
第十三千八十九
第十三千九十
第十三千九十一
第十三千九十二
第十三千九十三
第十三千九十四
第十三千九十五
第十三千九十六
第十三千九十七
第十三千九十八
第十三千九十九
第十四千
第十四千一
第十四千二
第十四千三
第十四千四
第十四千五
第十四千六
第十四千七
第十四千八
第十四千九
第十四千十
第十四千十一
第十四千十二
第十四千十三
第十四千十四
第十四千十五
第十四千十六
第十四千十七
第十四千十八
第十四千十九
第十四千二十
第十四千二十一
第十四千二十二
第十四千二十三
第十四千二十四
第十四千二十五
第十四千二十六
第十四千二十七
第十四千二十八
第十四千二十九
第十四千三十
第十四千三十一
第十四千三十二
第十四千三十三
第十四千三十四
第十四千三十五
第十四千三十六
第十四千三十七
第十四千三十八
第十四千三十九
第十四千四十
第十四千四十一
第十四千四十二
第十四千四十三
第十四千四十四
第十四千四十五
第十四千四十六
第十四千四十七
第十四千四十八
第十四千四十九
第十四千五十
第十四千五十一
第十四千五十二
第十四千五十三
第十四千五十四
第十四千五十五
第十四千五十六
第十四千五十七
第十四千五十八
第十四千五十九
第十四千六十
第十四千六十一
第十四千六十二
第十四千六十三
第十四千六十四
第十四千六十五
第十四千六十六
第十四千六十七
第十四千六十八
第十四千六十九
第十四千七十
第十四千七十一
第十四千七十二
第十四千七十三
第十四千七十四
第十四千七十五
第十四千七十六
第十四千七十七
第十四千七十八
第十四千七十九
第十四千八十
第十四千八十一
第十四千八十二
第十四千八十三
第十四千八十四
第十四千八十五
第十四千八十六
第十四千八十七
第十四千八十八
第十四千八十九
第十四千九十
第十四千九十一
第十四千九十二
第十四千

附圖　第三圖（第十二條）



◎警防團操典、同禮式令及同點檢規則制定ニ關スル件

依命通牒

（昭和十四年六月六日內務省發警第四九號
內務省警保局長、計畫局長ヨリ各廳府縣長官宛）

今般警防團操典、同禮式令及同點檢規則制定訓令相成候處右ハ警防團ノ職任ニ鑑ミ警防精神ヲ練成シテ尊王敬神ノ大義ト義勇奉公ノ至誠ヲ昂揚スルト共ニ規律嚴正ナル訓練ヲ施シテ渾然一體タル統制ト活動ノ敏活適正ヲ期シ以テ警防諸般ノ實務ニ應ヘシメムトスルノ趣旨ニ有之仍テ之ガ實施ニ當リテハ之ガ制定ノ趣旨ニ則ルト共ニ左記事項ニ留意シ遺憾ナキヲ期セラレ度

記

警防團操典

一、警察官吏ニ非ザル者指揮者タル場合ニ於テモ指揮旗又ハ之ニ類スル指揮用標識ハ之ヲ用ヒシメザルコト

一、大（中）隊教練ニ在リテ部下ノ注意ヲ喚起スル爲中（小）隊長ガ其ノ中（小）隊ノ爲スベキ動作ヲ小聲ニテ豫告スル場合ハ號令ト區別シ尙豫告ノ方法トシテ信號等ヲ用フル場合ハ各隊不齊一ニ陷ラザルヤウ注意スルコト

警防團操典同禮式令及同點檢規則制定ニ關スル件依命通牒

一、整頓、隊形變換等ニ於ケル動作ノ監視ハ適宜其ノ位置ニ於テ右（左）向又ハ後向トナリ隊員ニ面シテ之ヲ爲スモノトス

一、背面向運動ハ努メテ之ヲ避クルコト

警防團禮式令

一、禮式ヲ行フ目的ハ特ニ規定ヲ俟ツコトナク素ヨリ明カナル所ナルニモ拘ラズ特ニ第三條ヲ設ケ其ノ目的ヲ明定シタル所以ハ從來動モスレバ禮式形式ニ墮シ徒ニ形式ノ齊一ニ急ニシテ其ノ目的ヲ沒却スルノ傾向寡シトセザルニ鑑ミタルニ基クモノナルヲ以テ之ガ訓練、點檢等ノ際ニ於テハ常ニ禮式ノ目的及精神ヲ說明シ其ノ心得ベキ要點ヲ會得セシメ警防精神ノ練成ニ努メラレタキコト

一、禮式ハ團體ノ秩序維持ノ基礎トシテ緊要缺クベカラザルモノナルヲ以テ之ガ實施ニ當リテハ苟モ等閑ニ流レ粗略ニ陷ルガ如キハ嚴ニ戒メ非違ハ毫末ト雖モ之ヲ看過スルコトナキト共ニ監督者自ラ實踐ヲ以テ之ガ範ヲ示スコト

一、第七條第一號ノ上級ノ職ニ在ル警防團員ニハ他ノ警防團ニ屬スル者モ含ムモノトス

一、最敬禮ハ指揮者ノ指示ニ依リ齊一ニ行フ場合ノ外上體ヲ約四十五度前ニ傾ケ略一呼吸ノ後舊ニ復スル程度トスルコト

敬禮ノ注目ハ受禮者ノ目トス以下之ニ同ジ

一、上級者ノ答禮ト雖モ之ヲ等閑ニ附スルコトナク嚴格ニ行フベク其ノ方法ニ付テハ上級者、下級者ノ區別ナキモノトス

一、玉串奉奠ニ際シテハ先ヅ齋壇下ニテ神官ヨリ玉串ノ上部ヲ左手ニテ下ヨリ、下部ヲ右手ニテ之ヲ支ヘル如ク之ヲ受ケ左高ニ捧持シテ神前ニ進ミ玉串ノ先端ヲ右ニ廻シテ前方ニ向ケ左手ヲ右手ノ元ニ下シ左手ニテ更ニ先端ヲ右ニ廻シツツ右手ヲ以テ玉串ノ中程ヲ裏ヨリ執リ左手ヲ右手ニ添ヘ本ヲ神前ニ向ケテ案上ニ置キ拜禮スルコト

一、勅語、詔書又ハ令旨奉讀ノトキハ奉讀者ハ其ノ前後ニ於テ之ヲ奉戴シ敬禮ハコノトキ同時ニ行フモノトス

一、從來ノ消防組等ニ於テ受領セル表彰旗、幟ノ類ニ對シテモ相當ノ敬禮ヲ行フヲ禮トス

一、室內ニ在リテハ通常部隊トシテノ敬禮ヲ行ハズ隊員各自第九條ノ敬禮ヲ行フベキモノナルモナルベク指揮者ニ於テ命令信號等ヲ用ヒ齊一ヲ期スルコト

一、室外ニ於ケル訓授又ハ教養ニ際スル敬禮ハ第四十五條及第四十六條ニ準ジ之ヲ行フモノトス

一、檢閱式ニ於ケル警防團旗ノ位置ハ中隊長ト先頭（右翼）小隊長トノ中間トス

一、觀閱式ニ關スル規定ハ御觀閱、御檢閱ニ於テモ特ニ支障ナキ限リ之ニ準據シテ行フベキコト

警防團點檢規則

一、警察部長又ハ其ノ代理者點檢官トナルハ警防團聯合訓練等ノ場合トス

一、每日點檢ヲ施行スベキ常備團員トハ消防部（班）員等ニシテ平常ノ火災其ノ他ニ從事スル爲常置セラレタル者ヲ謂フモノトス

一、手套ヲ用ヒシムル場合ハ白色又ハ鼠色トシ全員齊一ヲ期スルコト

一、指揮者前進シテ點檢官ニ人員ノ報告ヲ爲ストキハ位置ハ點檢官ノ前面約六歩ヲ適當トス

一、第十條第五號「前列五歩前へ」ノ號令アリタルトキハ中隊ノ場合ニ於テハ小隊長大隊ノ場合ニ於テハ中隊長モ同樣ノ行動ヲ爲スコト

一、特別點檢ニ於ケル機械器具ノ檢査ハ成ルベク技術員ヲ同行シ之ヲ爲サシムルコト

● 警防團員服制左ノ通定ム

昭和十四年七月十九日　內務省制令第十二號

警防團員服制

敬正（昭和十六年五月三日內務省令第十七號）

甲號

品種	區分	團長	副團長	分團長	部長	班長	警防員	形狀
帽	地質	黑色羅	同上	同上	同上	同上	同上	
	徽章	銅製又ハ金色金屬製二〇粍ノ警防團徽章	同上	同上	同上	同上	同上	圓ノ如シ
	帽紐	黑色羅	同上	同上	同上	同上	同上	圓ノ如シ
	帽章	幅一〇粍ノ黑革又ハ黑色羅トシ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑一〇粍ノ金色警防團徽章各一個ヲ以テ留ム	同上	同上	同上	同上	同上	圓ノ如シ
	製式	徹製トス兩側ニ通氣孔各三箇ヲ附ス	同上	同上	同上	同上	同上	圓ノ如シ

衣			
地質	製式	袖章	帽章
淺茶褐色ノ絨トス	襟立折帽ホック二ツ止メ 前面御紋章二〇粍ノ金色警防團徽章一列五個トス 一物入左右胸ヲ襟部ニ各一個ヲ胸ハ徽章外物入ニテ何物入ニテモ可レモ徽章附トシ胸部ニハ金色金屬徽章一四粍ノ徽章ヲ附ス	左右袖ハ長サ四〇粍幅二五粍ノ黒色絨ニ平織下部ニ幅四粍ノ金色線ヲ上部ニ幅二粍ノ金色線ヲ巡シ徽章ハ警防團徽章三個ヲ附ス	袖口ヨリ略一〇粍上方ニ幅一五粍淺茶褐色ノ線ヲ巡シ中央ニ幅三粍ノ金色ノ線ヲ巡シ徽章ハ警防團徽章五個ヲ附ス
同上	同上	金色警防團徽章二個ヲ附ス 餘ハ同上	幅一五粍ノ線ヲ巡シ徽章ハ警防團徽章二個ヲ附ス 餘ハ同上
同上	同上	幅一五粍ノ線ヲ巡シ徽章ハ警防團徽章二個ヲ附ス 餘ハ同上	百粍ノ線ヲ巡シ徽章ハ警防團徽章二個ヲ附ス 餘ハ同上
同上	同上	黒色平織下部ニ幅四粍ノ金色線ヲ巡シ徽章ハ警防團徽章一個ヲ附ス 餘ハ同上	幅一五粍ノ線ヲ巡シ徽章ハ警防團徽章一個ヲ附ス 餘ハ同上
同上	同上	銀色平織下部ニ幅四粍ノ金色線ヲ巡シ徽章ハ警防團徽章一個ヲ附ス 餘ハ同上	幅一五粍ノ線ヲ巡シ徽章ハ警防團徽章一個ヲ附ス 餘ハ同上
圖ノ如シ	圖ノ如シ	圖ノ如シ	

帽						
地質	製式	地質	製式	地質	製式	帽章
淺茶褐絨	長袴ノ式トシ側線部ニ物入各一個ヲ附ス	黒色絨又ハ黒紗織組	普通ノモノ	黒革	短袴	鐵又ハ黒絨ヲ以テ之ヲ被ヲ被セルモノ 幅五五粍トス 前面ハ金色金屬製五粍中央ニ警防團徽章ヲ附ス
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
				圖ノ如シ		圖ノ如シ

備考

一、本表中絨ヲ用フルモノニ付テハ同色ノ絨「スフ」其ノ他代用類似品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

二、本表中金(銀)色金屬又ハ革ヲ用フルモノニ付テハ同色ノ類似品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

三、警防團名ヲ左袖章ノ左、分團名標文字番ハ分團名アラビヤ數字ヲ右袖章ノ右ニ約十二粍ガ一粍ノ金色線章ヲ以テ表示スルコト

乙號

品種	帽			
區分	地質	製式	徽章
團長	甲種ニ同シ	甲種ニ同シ	甲種ニ同シ
副團長	同上	同上	同上
分團長	同上	同上	同上
部長	同上	同上	同上
班長	同上	同上	同上
警防員	同上	同上	同上
形狀		圖ノ如シ	圖ノ如シ

袋		
地質	製式	
表黑又ハ紺或ハ黑羽織花色木綿	單衣トシ寸法ハ概ネ左記ニ依リ 丈行袖袖前後羽織幅幅幅口丈 上端頭ヲ幅幅幅平ス部中心 肩跨ノ端平下ノ端三赤三四五シ 前後ヲ五毛白毛色線方赤ニキ 腰ヲ二色ヘ色線頭ヲ 約平ノ線線幅平ス青心 三ス裏線白ノヲ二線ル ○白白ノノ色兩後四一幅縫ト約約約約約約約約約 毛色色周間平邊ニ毛線約ロシ　二二二三三六八 ト平平周線ハ染ノヲ八リ前六○七九六九○五 ス線線ニ約ヲ線出赤更四兩後○○三○○○○○ ノ二約一存チ色ニ毛袖ニ毛毛毛毛毛毛毛毛毛	
同上	同上	
同上	肩ト跨端端幅ノ一下二色ニ色邊毛平毛間毛餘 上シキヨニ約赤條方條赤約ニヨキシ上 ヲ前頭ノ線八邊ノ頭前ヲ 中後部兩ス四平更幅ノヲスノテ白存線一 心ニ青袖ル毛線ニ約ニ線赤後赤兩三色シ五ノ	
同上	同上	
同上	同上	
同上	肩ト跨端端幅ノ一ス一ノ幅端端跨ト肩 上シキヨニ約赤邊赤約ニヨキシ上 ヲ前頭ヲ頭前ヲ 中後部兩ス四平染平染ハ白存線幅兩赤邊赤約ニヨキシ上 心ニ青袖ル毛線出線出線毛ル袖青ニ心	
	圖ノ如シ	

帽		帽	帽	帽	帽	帽	帽
地質	型式	地質	型式	地質	徽章	帽章	帽章
黒色羅紗又ハ黒色皮帽	普通トス	鍔引ニ同シ	背部トシ上部ニ赤ヲ附スル側面中央部ニ約一〇糎ノ赤色線一條ヲ横ニ約三糎ノ白色線ヲ存ス	黒羅紗又ハ紺色羅花色木綿	左帽章ニ警防團名右帽章ニ職名ヲ帽章ニテ白字ヲ以テ染出ス	直徑約三〇糎幅一五糎ノ白色圓形地ヲ染出シ其ノ中央ニ帽章ニテ警防團名ヲ白字ヲ以テ染出ス	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	鍔ノ如シ		鍔ノ如シ		鍔ノ如シ	鍔ノ如シ	

帽章

帽

20

帽

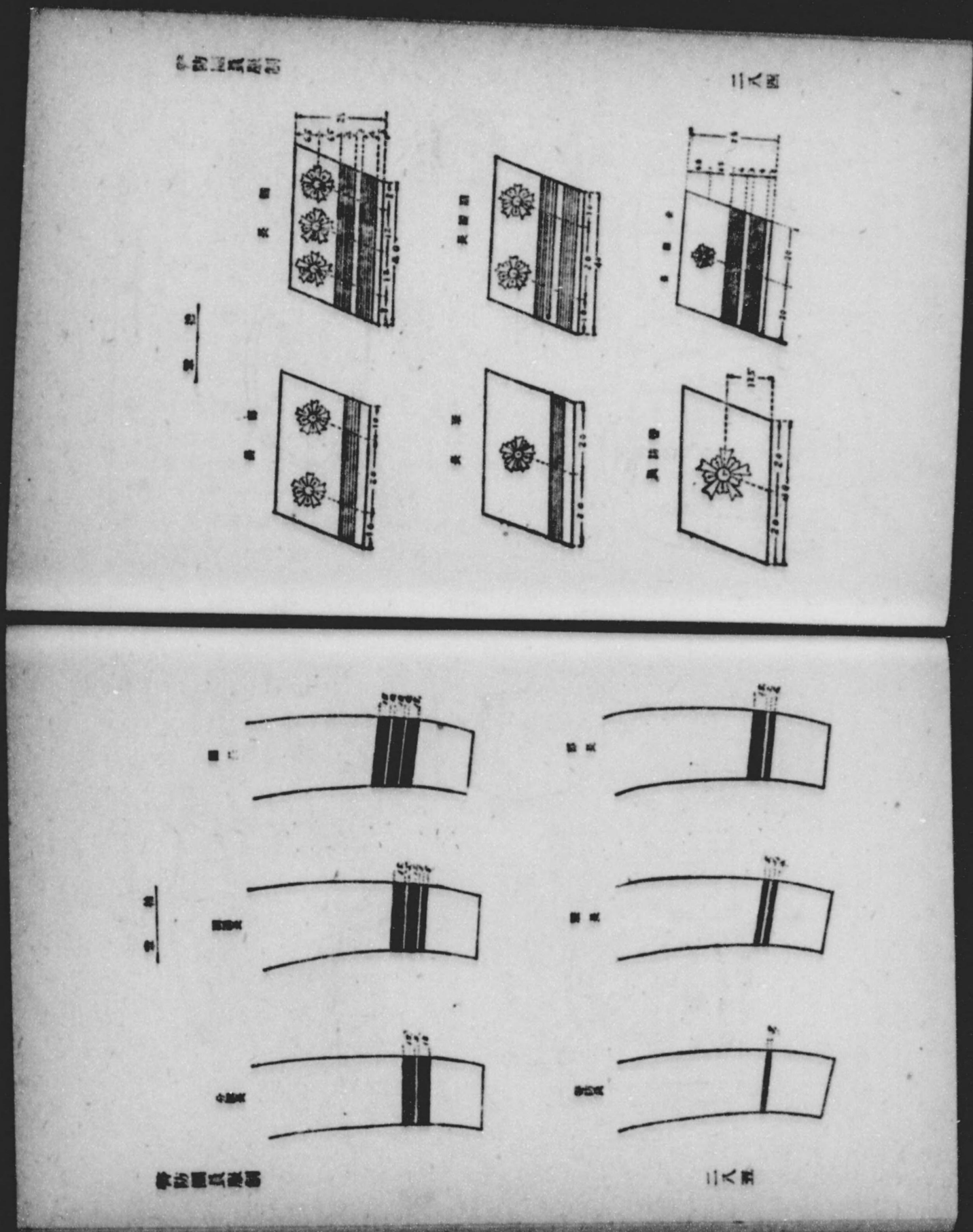
20

冬上衣

夏上衣

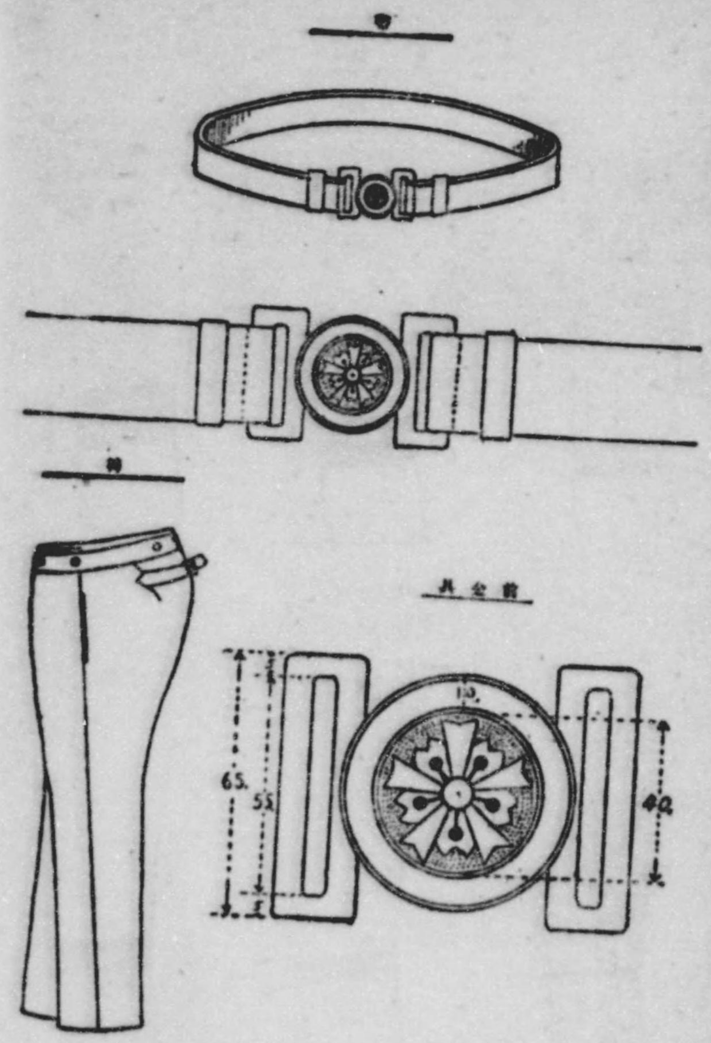
背面

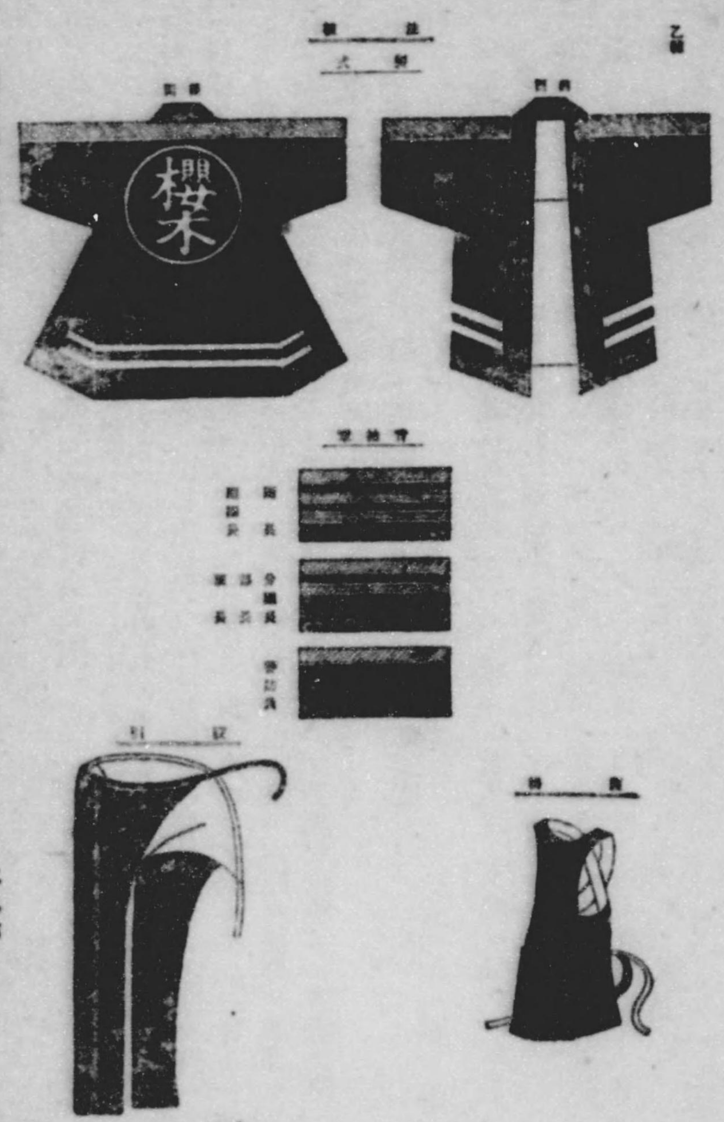
前面



三八圖

三八圖


帶
褲
帶金具
65
55
40
10


乙種
甲種
帶
襟章
足袋
前掛

◎警防團員服制ニ關スル件依命通牒

（昭和十四年七月十九日内務省警發第五七號
内務省警保局長計畫局長ヨリ各廳府縣長官宛）

今般内務省訓令第十二號ヲ以テ警防團員服制訓令相成候處右ハ警防團員ノ服裝ヲ齊一ニシ規律ノ嚴正ト活動ノ敏活ヲ期セントスルノ趣旨ニ依リタルモノナルモ之ガ實施ニ際シテハ現下ノ時局ニ鑑ミ早急ニ調製シテ俄ニ物資ヲ費消シ且ハ市町村經費ヲ增昂セシムルガ如キハ極力之ヲ避ケ已ムヲ得ズ新調ヲ要スルモノヨリ順次齊整スル方途ヲ講ゼラレ度尙左記各項ニ御留意相成樣致度右申進候

追而本服制中濃茶褐色ハ概ネ別添服色見本ニ依ラルル樣致度

記

一、從來ノ消防組員制服又ハ防護團員服其ノ他之ニ類スル服ヲ有スル向ニ付テハ本年三月三十日付警保局警發甲第五二號通牒ノ趣旨ニ依リ之ヲ使用セシムルコト

二、服裝ヲ分チテ甲乙二種トシタルハ地方ノ實狀、團員ノ勤務狀況、市町村財政ノ狀態其ノ他ニ稽ヘ適宜之ヲ撰擇セシメムトスルノ趣旨ニ依ルモノナルヲ以テ其ノ兩種ヲ併セテ給與セザルハ勿論故ラニ甲種ヲ用ヒシムルガ如キコト無キ樣注意セラレタキコト

三、同一警防團ノ團員ニシテ甲種、乙種ヲ混用スルハ規律統制上望マシカラザルモ差當リ可成班又ハ部等比較的小單位ヲ基準トシテ服裝ヲ統一シ順次其ノ齊整ヲ期スベキコト但シ分團長以上ハ甲種ヲ用ヒ部（班）長以下ハ乙種ヲ用フル等ハ妨ゲナキコト

四、甲種ノ者裝ヲ爲シ儀式ニ參列シ又ハ特ニ指定スル場合ハ卷脚絆ヲ用ヒザルコトヲ得但シ團體行動ヲ爲ス場合ニハ之ガ著脫ノ齊一ヲ期スルコト

五、卷脚絆及短靴ニ代ヘ黑色長靴ヲ、卷脚絆ニ代ヘ皮製ゲートルヲ用ヒ又ハ短靴ニ代ヘ黑色地下足袋ヲ用フルモ妨ゲナキコト

六、長靴又ハ卷脚絆ヲ用フルトキハ短袴ヲ使用スルモ妨ゲナキコト

七、業務上必要アル場合ニ於テハ短靴又ハ地下足袋ニ代ヘ鞋ヲ用フルモ妨ゲナキコト

八、乙種制服ノ法被ヲ刺子トスルモ差支ナキコト

九、分團長以下ノ乙種制服左襟ノ所屬表示ハ團名（必要アル場合ハ分團名）ニ止メ、部、班名ハ表示セザルコト

一〇、佩刀ニ類スルモノハ一切之ヲ帶用セシメザルコト

一一、頭問ノ服裝ハ團長ニ準ジ之ヲ定ムルコト但シ襟章ハ徑一〇

頭問襟章

耗ノ金色警防團徽章三箇ニ代フルコト（別圖參照）

一二、地方ノ狀況ニ依リ特ニ外套ヲ用ヒシムル必要アル場合ハ別記外套例ニ依リ其ノ制式ヲ定メラルルコト

一三、疏開又ハ勤務別ヲ表示スル腕章ハ適宜其ノ必要ニ應ジ色若ハ文字ヲ以テ統一制定スルコト

一四、分團長以上ハ左上膊部ニ外套例中腕章ト同一制式ノ腕章ヲ附スルコト

一五、警防團關係官公吏ハ職務ノ服裝ニ準スル服裝ヲ爲シ得ルモ其ノ他一般人ニ對シテハ警防團服制類似ノ服裝ヲ禁ズルコト

警防團員外套例

地質　濃茶褐絨又ハ濃茶褐布

裏　立折襟　襟幅約六〇耗

式　黒綿織線トシ他ハ上衣袖章ニ同ジクシ階級ヲ表示ス

袖章

物入　左右腰部ニ各一箇ヲ附ス

胸部　二重、徑一〇耗ノ金色釦八個　宛二行

帶　襞部ニ帶緒ヲ設ケ其ノ側部ニ徑二〇耗ノ金色釦各一箇及牧紐ニ同釦二箇ヲ附ス

後襞　背面中心線腰部以下ヲ襞キ茶褐色釦四箇ヲ附ス

頭巾　釦五箇ヲ以テ留ム　頭巾ニ鼻覆一箇及茶褐釦三箇ヲ附ス

長サ　膝下約九〇耗但シ體格ニ應ジ適宜伸縮スルコト

袖長　腕關節ヨリ長キコト約四五耗

腕章　徑七四耗ノ白絨臺徑七〇耗ノ警防團徽章ヲ左上膊部ニ附ス　徽章線ハ幅三耗ノ黒色トス

形狀　圖ノ如シ（圖ヲ省略ス―編輯者）

◉服制ニ就テノ注意（内務省警保局警務課）

服制ニ就テハ兼ニ訓令並通牒セラレタルトコロナルモ其後各府縣ヨリノ質問照會モアル故更ニ細カキ點ニ關シ意見ヲ記載スルコトヽセリ

一、副分團長、副部長等ハ其レ〳〵分團長、部長ノ服制ニ依ルコトヽシ別ニ加作セザルコト、但シ三、（ハ）ノ項ニ依ルコト

二、甲種襟部ニハ分團名等規定以外ノ徽章等ハ一切之ヲ附加セザルコト

三、業務別、地域別等服制中何處ニモ規定セラレザルモノヲ表示スル爲ニハ腕章ヲ用ヒテ可ナルモ（服制中ニ規定セルモノ（職名）等ハ更ニ腕章ヲ用ヒ又ハ之ニ表示スルコトヲ禁ズ）極力簡潔ニスルコト

（イ）腕全體ニ卷キツケル腕章ヨリモ（型）（型ノ布片ヲ縫付クル方ヲ可トス

（ロ）諸種ノ文字ヲ以テ表示スルヨリ速方ヨリモ見分ケ易キ色別ヲ以テスルヲ可トス

例、業務別

（ハ）副分團長、副部長等ハ型ヲ小クスルカ左ニ依ルコト

副分團長

副部長

四、特ニ乙種服制ノ腕章ハ三、（イ）ニ依ルコト

五、消防部員等活動上水ヲ被ル部員ノ服ニハスフナル場合ハ防水塗料ヲ塗布スル等考慮スルコト

六、功勞章其他警防關係ノ正式ノ授章ニ限リ右胸ポケット下線ノ下ニ竝列スルコト、致度キコト

七、團間ノ服裝ハ一應通牒セシ處ナルモ其數一團ニ數人以上トカ又ハ直接活動ニ關係ナキ者等ニハ可及的通常服裝ニ腕章位ニテ其ノ表示トシ餘リ此種服裝ヲ作製セシメザル樣致サレ度キコト

八、通牒中警防團關係官公吏トハ職務上直接警防團ニ關係スル者ノ謂ニシテ府縣知事、市町村長等ニシテナルベク各係等迄擴大セザルコト

九、常備消防部長其ノ他警防團本部附部長等ニハ地方ノ實情又ハ業務ノ特異性等ヲ考慮シ適宜副團長又ハ分團長等ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ルコト、シタルヲ以テ斯カル場合ハ其ノ服制ハ副團長、分團長ノ服制ニ依ルコトヲ得

●燈火管制實施標準時間表（東京附近）

期間		開始時	中止時
自一月一日至一月十五日		午後四時四〇分	午前六時五〇分
自一月十六日至一月三十一日		同四・五〇	同六・五〇
自二月一日至二月十五日		同五・一〇	同六・四〇
自二月十六日至二月末日		同五・二〇	同六・二〇
自三月一日至三月十五日		同五・四〇	同六・〇〇
自三月十六日至三月三十一日		同五・五〇	同五・四〇
自四月一日至四月十五日		同六・〇〇	同五・二〇

自四月十六日至四月三十日	午後六・二〇	午前五・〇〇
自五月一日至五月十五日	同六・三〇	同四・五〇
自五月十六日至五月三十一日	同六・四〇	同四・三〇
自六月一日至六月十五日	同六・五〇	同四・二〇
自六月十六日至六月三十日	同七・〇〇	同四・二〇
自七月一日至七月十五日	同七時〇〇分	同四時三〇分
自七月十六日至七月三十一日	同六・五〇	同四・四〇
自八月一日至八月十五日	同六・四〇	同四・五〇
自八月十六日至八月三十一日	同六・二〇	同五・〇〇

自九月一日至九月十五日	同六・〇〇	同五・一〇
自九月十六日至九月三十日	同五・四〇	同五・二〇
自十月一日至十月十五日	同五・二〇	同五・四〇
自十月十六日至十月三十一日	同五・〇〇	同五・五〇
自十一月一日至十一月十五日	同四・四〇	同六・〇〇
自十一月十六日至十一月三十日	同四・三〇	同六・二〇
自十二月一日至十二月十五日	同四・三〇	同六・三〇
自十二月十六日至十二月三十一日	同四・三〇	同六・四〇

◉燈火管制ノ種類並ニ管制指導要領

一、燈火管制ニハ準備管制（燈火管制規則第四條ニ基ク管制ト稱スルヲ正トスルモ通常之ヲ準備管制ト稱ス）警戒管制、空襲管制ノ三種アルコトヲ知悉シ實施ニ當リテハ之ヲ混同スルコトナキ樣指導スルコト

(一) 準備管制――戰時又ハ事變等ノ初メナドニ幾何カ空襲ノ虞ガアル場合迅速ニ管制スルコトガ困難デアリ又平常左程大切デナイ左ノ屋外ノ燈火ヲ管制スルモノデアル

イ、廣告燈、看板燈、裝飾燈其ノ他之ニ類スル燈火

ロ、門燈軒燈其ノ他之ニ類スル燈火

ハ、公園燈、庭園燈、社寺屋外燈、廣場照明燈、各種運動競技興樂場屋外照明燈其ノ他他ノ種類ニ屬セザル屋外燈火

以上ノ中警視總監又ハ地方長官ノ指定セルモノヲ定メラレタル期間ダケ警戒管制ノ程度ニ依リ管制スルモノデアル

(二) 警戒管制――敵ノ航空機ガ空襲シテ來ル虞ンガアルトキ敵機ノ空襲ヲ困難ニスル爲空襲管制ノ前提トシテ光ヲ一定ノ限度ニ制限スルモノデアル

イ、警戒管制ハ一旦命ゼラレタ場合相當永ク續クモノデアル一ケ月續クカ二ケ月續クカ判ラヌモノデアルカラ規則ニ許サレタ範圍ニ燈火ヲ管制シテ室内ノ照明ニ留意シ生活作業ニ支障ナキ樣研究工夫スベキデアル

ロ、普通屋内燈ノ管制方法（減光且遮光）

乙程度ヲ適用スル地域

a室ノ廣サ三平方米（約一坪）ニ付十燭光以内

b一燈五十燭光以内

c光源ヨリノ直射光ヲ出入口窓等カラ外部ニ出サヌコト

ヲ一般ニ理解徹底セシムルコトヲ要ス

ハ、街路燈類ノ管制方法

街路燈橋梁燈其ノ他之ニ類スル燈火ハ警戒管制乙程度ヲ適用スル場合ハ街

路面百平方米ニ付　一、五燭光以内ノ割合ニテ一燈十六燭光以下ニ減光シ光源ノ下端カラ遮光具ノ下端ニ引イタ線ガ光源ノ下向ニ向ヒ水平面ト二十度以上ノ角ヲ爲ス樣光ヲ遮ルコトデアル

ニ、其ノ他各種燈火ノ管制方法ハ燈火管制規則ニ規定シアルヲ以テ平素研究理解シ置クヲ要ス

(三)

空襲管制――敵ノ航空機ガ空襲シテ來ル危險ガアル場合ニ行フモノデアル標識燈ヤ信號燈ノ如キ特別ノモノノ外普通ノ光ハ一切消燈スルカ或ハ完全ニ隱サネバナラヌ空襲管制ノ場合外部カラ光ガ見ユル樣ニシテ置イテモ宜ロシイノハ主トシテ公益上ノ見地カラ己ムヲ得ナイモノデ標識燈、信號燈、鐵道船舶等ノ特殊ノ燈火デアルガ極メテ嚴格ナ制限ヲ爲シテ上空カラ敵機ニ發見サレナイ樣ニサレテアル

二、燈火管制中一般家庭ハ左記事項ニ留意スル樣指導スベキデアル

(一)

警戒管制中ニ於ケル家庭ノ心得

屋内ノ燈火管制

イ、警戒管制ハ長ク續クモノデアルカラ燈火管制ノ方法ヲ工夫シテ平常通リ生業ヲ續ケルコト

ロ、火災ヲ起サヌ樣管制用具ノ取扱ニ注意スルコト

ハ、警戒管制ノ期間中ハ燈火管制ノ用具ヲ取外サヌ樣注意スルコト

ニ、警戒管制ヲ行フトキハ何時空襲警報ガ發セラレナイトモ限ラヌカラ家ヲ留守ニスル時ヤ就寢ノ時ハ空襲管制ノ用意ヲスルコト

(二)

空襲管制中ニ於ケル家庭ノ心得

イ、屋内ノ光ハ消スカ外ニ光ノ出ナイ樣ニ遮蔽スルコト

ロ、不意ニ空襲ヲ受ケタル場合等ニハ統一管制ト稱シ變電所デ電源ヲ斷ツコトアリ　此ノ場合ハ停電等ト思ヒ違ヒシテ懷中電燈（ローソク）等ヲ使用セヌ樣注意スルコト

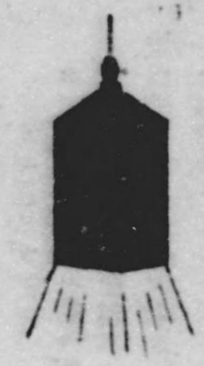
ハ、窓ヤ隙間及出入口カラ光ガ漏レヌ樣遮蔽スルコト

ニ、外ニ光ノ漏レル所デハ少シノ光ヲ使用スルコトモ禁ゼラレ「マツチ」煙草ノ光モ用ヒザルコト

ホ、空襲管制中ハ時々家ノ周リヲ調ベ屋内ノ光ガ少シモ外ニ漏レヌ樣「我ガ家ハ我ガ手」デ管制スルコト

三、燈火管制用具ト其ノ材料

(一)　遮光具ハ



甲式ハ暗過ギテ不便デアル

乙式ノ如ク窓ヤ出入口ノ方ノミニ使フ様ニシ天井トカ壁ノ方ハ遮光具ヲ用ヒズ可成直射光ヲ出サヌ様ニ使フヲ得策トス

(二)　遮光具ハ内面ヲ白紙類等ヲ貼リ光線ヲ反射セシムルト室内ヲ有効ニ照明スルコトガ出來ル、工場等デハ金属製又ハ琺瑯引ノ反射笠等ヲ利用スルガ便利デアル

(三)　遮光具ノ材料

遮光具ハ光ヲ遮レバヨイノデ其ノ材料ハ両面刷新聞紙五枚重ネタ程度以上ナラバ理想的デアルガ已ムヲ得ナケレバ三枚重ネタ程度デモ宜ロシイ

各所デ販賣サレテ居ル遮光具ハ

イ、黒布製　黒ラシヤ紙製　ボール紙製

ロ、管制電球

ハ、金属製笠　ニューム製反射笠　琺瑯引反射笠

(四)　隠蔽材料ハ光ヲ透サヌモノナレバ何デモ宜シイ

其ノ例ヲ挙ゲルト

イ、両面印刷セル新聞紙ナラ五枚ヲ重ネタモノ

ロ、両面ヲ黒ク塗ツタ新聞紙ナラ二枚ヲ重ネタモノ

ハ、黒ノ洋繻子ヤ両面ヲ「ゴム」引ニシタ黒布ナラ一枚

ニ、黒ガス毛繻子ナラ二枚重ネタモノ

ホ、黒新モスヤ黒天竺木綿ナラ四枚ヲ重ネタモノ

ヘ、馬糞紙木板金属板黒ラシヤ紙建築材料ナル「フエルト」「ルーフエング」等一枚デヨイ

四、自動車前照燈ノ燈火管制方法

自動車ノ「ヘツドライト」ハ光ノ強サニ強弱アリテ五、〇〇〇燭光乃至三〇、〇〇

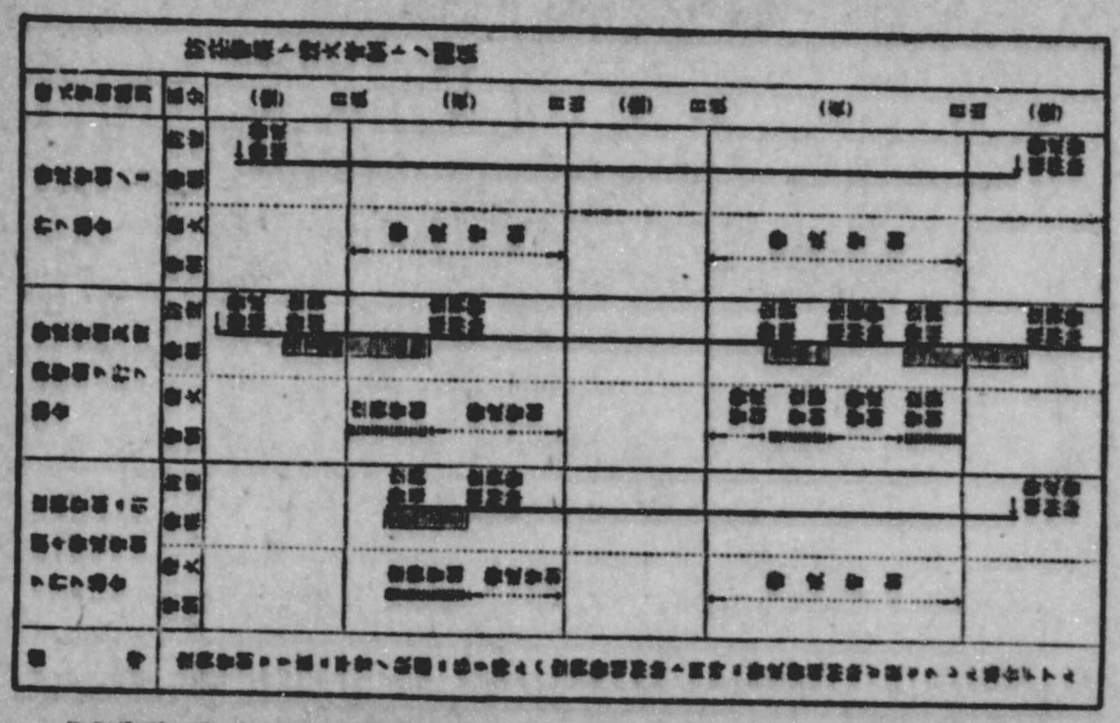
○燭光ノ度イ範圍ニ及フ

規則ハ乙程度テハ一〇米先ノ垂直面ニ於テ照度三「ルクス」以下甲程度テハ一〇米先ノ垂直面ニ於テ照度〇、七「ルクス」以下トシ射光ガ十五度以上ノ上空ニ向ハヌヨト定メラル

次ニ警戒管制乙程度ニ於ケル自動車前照燈減光布標準ヲ示ス

前照燈ノ燭光	之ニ類スル自動車ノ種類	減光布
第一種 五、〇〇〇燭光以上	貨物、乗用、新型自動車、高速度ノ他ノ自動車	黒人絹（銀箔、アルミニウム、クロム、シルク）透過率〇、〇二以下タルコト
第二種 五、〇〇〇燭光未満	小型乗用自動車、貨物自動車（商用）、他ノ自動車	黒人絹（一〇〇番）一重透過率〇、〇三以下タルコト

警戒管制時自動車前照燈ノ照度ヲ檢スルニハ二燈アル場合ハ一燈ヲ消燈シ一燈ノミニツキ照度ヲ計ルモノトス



燈火管制ノ種類ト効果

平常時
- 1、都市ノ燈光ハ遠距離カラ見エテ敵機ノ良イ目標トナル。
- 2、點々タル村落ノ燈火モ敵機ノ進路ヲ定メルニ好都合デアル。

準備管制
- 1、警戒管制ニハ至ラヌガ情勢稍緊迫シタ時期ニ行フ。
- 2、廣告燈、看板燈等ノ如キ目立ツモノ丈ヲ消燈スル。

警戒管制
- 1、警戒警報（又ハ空襲警報解除）ガ發セラレタ時ニ行フ。
- 2、全體ニ光ヲ暗クスルカ又ハ暗シテ全光ヲ消シ又國土ノ全貌ヲ判ラナクスル。

空襲管制
- 1、空襲警報ガ發セラレタ時ニ行フ。
- 2、燈ヲ光ヲ消スカ全タ外ニ漏レナイ樣ニ暗シテ完全ニ暗黑ニスル。

室ノ廣サト減光ノ程度

室ノ廣サ	警戒管制(乙)	警戒管制(甲)
二畳	一〇燭光	〇、五燭光
四畳半	二二、五燭光	一燭光
六畳	三〇燭光	一、五燭光
八畳	四〇燭光	二燭光

大キイ室ノ場合一燈五〇燭光（甲ノ場合ハ二燭光）マデ用ヒルコトガ出來ルガ合計燭光數ハ室ノ廣サ三平方米（約一坪）ニ付一〇燭光（甲ノ場合ハ〇・五燭光）以内トセネバナラヌ。

焼夷ノ応急ノ処置方法

一般ノ屋内物ノ応急方法

制法備充	甲制法式器	乙制法式器
消火器	消火器 水ノ補給口 ホース ノズル ポンプ	消火器 ホース ノズル ポンプ 水ノ補給口
防毒面	防毒面	防毒面 防毒面ノ使用法

焼夷弾ノ応急ノ処置方法

制法備充	甲制法式器	乙制法式器	防毒面	防毒面ノ使用法	防毒面ノ使用ニ適シタル服装	防毒面ノ使用ニ適シタル服装
消火器	消火器 水ノ補給口 ホース ノズル ポンプ	消火器 ホース ノズル ポンプ 水ノ補給口	防毒面 防毒面ノ使用法	防毒面ノ使用ニ適シタル服装	防毒面 防毒面ノ使用法	防毒面 防毒面ノ使用法

屋内燈ノ燈火管制（間違ツタヤリ方　正シイヤリ方）

間違ツタヤリ方	正しいやり方
寝室 (乙)100燭光 (甲) 10燭光 10畳	寝室 (乙)50燭光 (甲) 2燭光 10畳
寝室	寝室
風呂場	風呂場
廊下ヲ通ル	廊下ヲ通ル

燈火管制上注意スベキ事項

一　責任者ヲ明カニシテ殘ル光ノナイヤウニ。
二　天窓、欄間ニ注意。
三　風呂場、便所ガ忘レ勝。
四　一寸ノ用事ニウツカリ點ケルナ。
五　懐中電燈手許ニ置イテ。
六　燈火管制ノ時モ平常通リ作業。
七　隠蔽スル時換氣ニ注意。
八　處置ハ迅速ニ。
九　設備ハ各自ニ工夫セヨ。
一〇　街ヲ歩ク時ハ細心ノ注意。
一一　漏レタ一燈敵機ヲ招ク。
一二　留守ニスル時寢ル時ハ燈ヲ消シテカラ。
一三　道路ノ横斷、踏切ニ用心。
一四　夜間外出ハ成ルベク避ケル。

遮光條件圖例

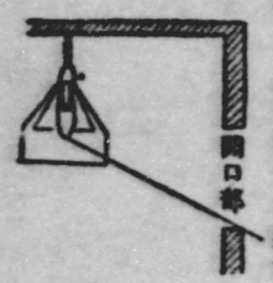
(一)光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面トニ〇度以上ノ角ヲナスコト

(イ)

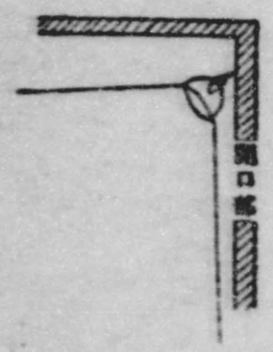
(ロ)

(二)光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト

(イ)

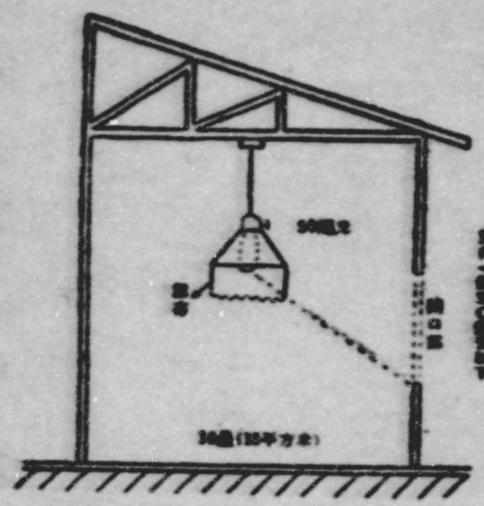


(ロ)

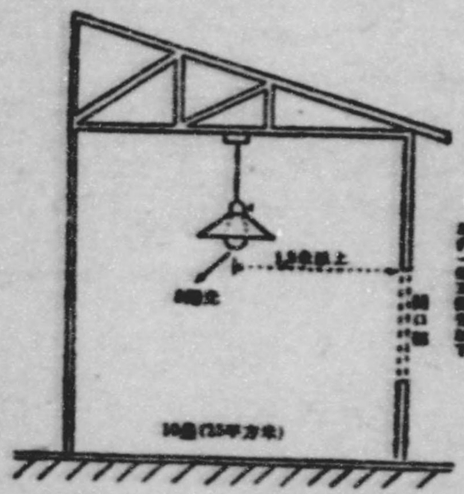


遮光條件圖例

乙ノ(イ)



乙ノ(ロ)



遮蔽材料ノ光ノ透過率ト重ネ枚數

空襲火管制ノ際、窓出入口其ノ他ノ遮蔽ヲ完全ニ行フニハ其ノ材料ガ光ヲ透ス制令ヤ管制程度ニ應ジテ表ニ示ス如ク重ネテ用ヒナケレバナラヌ。

遮蔽材料		必要ナ重ネ枚數	
名稱	一枚ノ透過率	ノ内マ部ノ燈火ヲ通常トスレバ	嚴戒管制ノ時程度ニ暗クシタ
黒全紙・黒洋紙・障子紙・厚木綿紙板	〇	一枚	一枚
新聞紙（兩面共黒塗）	〇・〇〇〇一	二枚	一枚
黒ガス毛織子	〇・〇〇一	二枚	一枚
兩面黒塗ハトロン子紙	〇・〇一	三枚	二枚
黒新キス・黒天竺木綿	〇・〇五	四枚	二枚
黒毛新流（フライング）	〇・一二	五枚	三枚
新聞紙（兩面刷）	〇・一四	五枚	三枚

遮蔽ヘ水蒸氣ヲ（ヤカン）ヤ水ヘ浸漬

名稱	（ヤカン）ヤ水ヘ浸漬	名稱	（浸漬）時間
黒全紙	〇・〇一	黒全紙	〇一
黒洋紙	〇・〇一	黒洋紙	一分
障子紙	〇・一二	障子紙	一〇
厚木綿	〇・一二	厚木綿	二〇
黒ガス毛織	〇・一四	黒ガス毛織	二四
黒ハトロン紙	〇・一四	黒ハトロン紙	二四
黒キス	〇・一四	黒キス	二四
黒天竺木綿	〇・一四	黒天竺木綿	二四
黒毛新流	〇・一四	黒毛新流	二四
黒ハトロン紙	〇・一四	黒ハトロン紙	二四
黒キス	〇・一四	黒キス	二四
黒天竺木綿	〇・一四	黒天竺木綿	二四

ヤカンヘ水ヲ〇・〇〇一瓩ヤ入ル程度ノ「ヤカン」ニ四時間浸漬ス　注意

最大照度ヲ與フル電燈ノ高サ

最大照度ヲ與フル電燈ノ高サ

電燈ノ光度 / 最大照度(ルクス)	五燭光	八燭光	一〇燭光	一六燭光
〇・一五	五・八米	七・三米	八・二米	一〇・三米
〇・二	五・〇米	六・三米	七・〇米	八・九米
〇・三	四・〇米	五・一米	五・八米	七・三米

物體恢員ト被覆物ノ間隔トノ關係

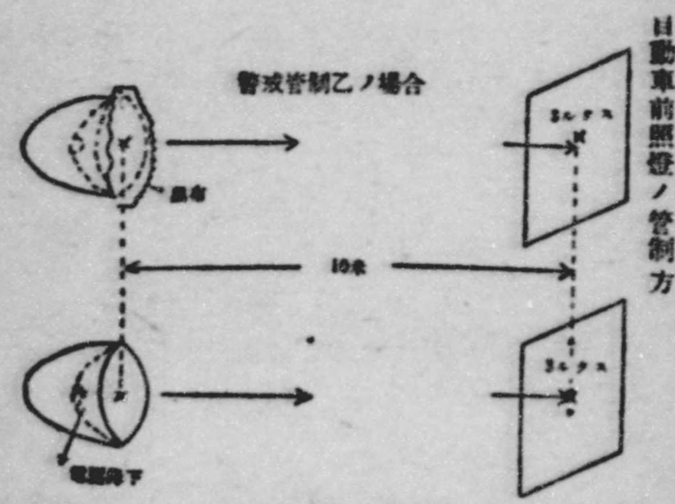
間隔米(A)	三燭光	八燭光	一六燭光
〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇
〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
〇・二	〇・二	〇・二	〇・二
〇・三	〇・三	〇・三	〇・三
〇・四	〇・四	〇・四	〇・四
〇・五	〇・五	〇・五	〇・五
〇・六	〇・六	〇・六	〇・六
〇・七	〇・七	〇・七	〇・七
〇・八	〇・八	〇・八	〇・八
〇・九	〇・九	〇・九	〇・九
一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
一・一	一・一	一・一	一・一
一・二	一・二	一・二	一・二
一・三	一・三	一・三	一・三
一・四	一・四	一・四	一・四
一・五	一・五	一・五	一・五
一・六	一・六	一・六	一・六
一・七	一・七	一・七	一・七
一・八	一・八	一・八	一・八
一・九	一・九	一・九	一・九
二・〇	二・〇	二・〇	二・〇
二・一	二・一	二・一	二・一
二・二	二・二	二・二	二・二
二・三	二・三	二・三	二・三
二・四	二・四	二・四	二・四
二・五	二・五	二・五	二・五
二・六	二・六	二・六	二・六
二・七	二・七	二・七	二・七
二・八	二・八	二・八	二・八
二・九	二・九	二・九	二・九
三・〇	三・〇	三・〇	三・〇
三・一	三・一	三・一	三・一
三・二	三・二	三・二	三・二
三・三	三・三	三・三	三・三
三・四	三・四	三・四	三・四
三・五	三・五	三・五	三・五
三・六	三・六	三・六	三・六
三・七	三・七	三・七	三・七
三・八	三・八	三・八	三・八
三・九	三・九	三・九	三・九
四・〇	四・〇	四・〇	四・〇
四・一	四・一	四・一	四・一
四・二	四・二	四・二	四・二
四・三	四・三	四・三	四・三
四・四	四・四	四・四	四・四
四・五	四・五	四・五	四・五
四・六	四・六	四・六	四・六
四・七	四・七	四・七	四・七
四・八	四・八	四・八	四・八
四・九	四・九	四・九	四・九
五・〇	五・〇	五・〇	五・〇

標識燈ノ種類及記號

種類	記號	種類	記號	種類	記號
火災報知機燈	火	警察官署標識燈	警	救護所標識燈	赤色
非常報知機燈	非	消防官署標識燈	消	避難所標識燈	ヒ
消火栓標識燈	消火栓	障害物標識燈	赤色	救護所標識燈	十

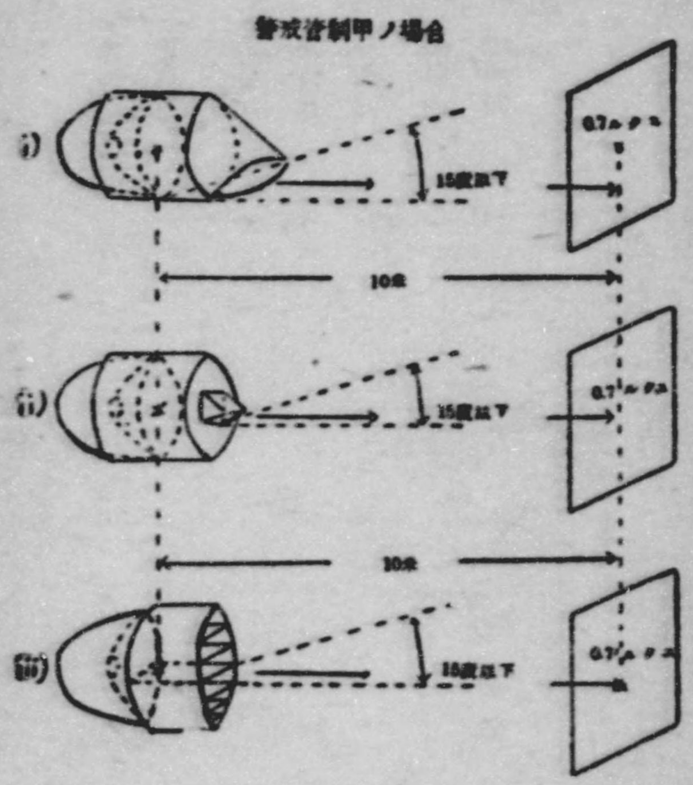
自動車前照燈ノ記號

㊀官公署
㊁警察
㊂消防
㊃救急
㊄郵便



自動車前照燈ノ管制方

燈器ヨリ10米ノ地點光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ガ3[ルクス]以下ニナル様黒布等ニテ覆フカ或ハ電壓ヲ降下セシム

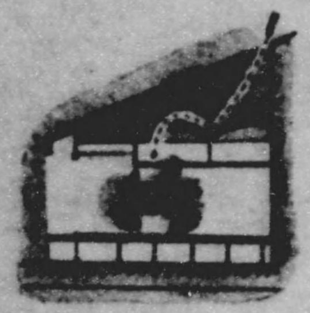


燈器ヨリ 10 米ノ地點光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ガ 0.7 [ルクス]以下ニナリ且燈器ヨリ直接發スル射光ガ15度以上ノ上空ニ向ハザル様遮光具ヲ使用ス

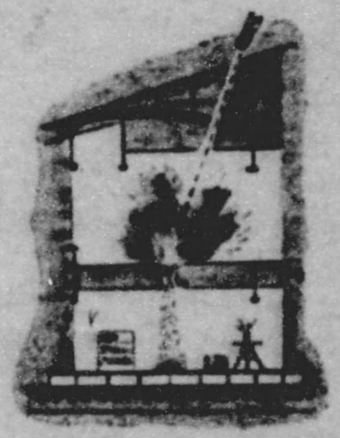
備考　遮光具ハ二三ノ事例ヲ示シタルニ過ギズ

焼夷弾ノ侵徹作用（輕焼夷弾）

1 平家ノ場合ハ通常屋根及天井板ヲ貫通シ一階床上ニ落下シテ燃焼スル



2 屋根ヲ貫通シタ後梁ニ當ツタモノハ天井板上ニ轉ガリ直ニ之ヲ突貫イテ床上ニ落下スル



3 二階家ノ場合ハ屋根及天井ヲ貫通シテ二階床上デ燃焼スル

焼夷弾ノ燃焼効力

一 「焼夷弾ソノモノノ燃焼ヨリモ延焼ガ恐ロシイ」

一 一瓩焼夷弾ヲ疊ノ上デ燃ヤスト二分後ニ穴ガ開ク。

一 五瓩焼夷弾ヲ疊ノ上デ燃ヤスト一分後ニ穴ガ開ク。

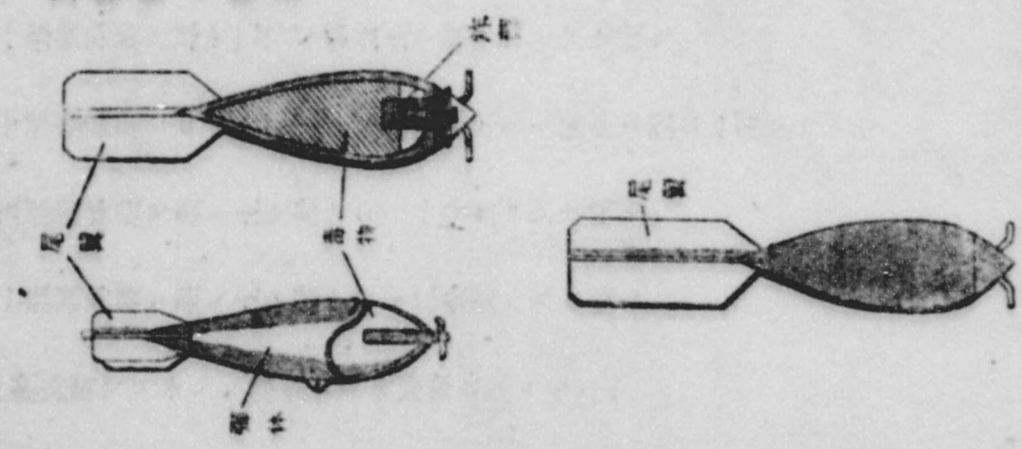
一 十瓩焼夷弾ヲコンクリートノ上デ燃ヤスト表面ガ僅カニ脆クナル。

一 一瓩焼夷弾ヲ厚サ二粍ノ鐵板上デ燃ヤスト穴ガ開ク。

一 十瓩焼夷弾ヲ厚サ一糎ノ鐵板上デ燃ヤスト穴ガ開カナイ。

一 十瓩焼夷弾ヲ厚サ五糎ノ木板上デ燃ヤスト一糎ノ深サマデ焼ケル。

瓦斯機ノ構造



瓦斯機ノ性狀

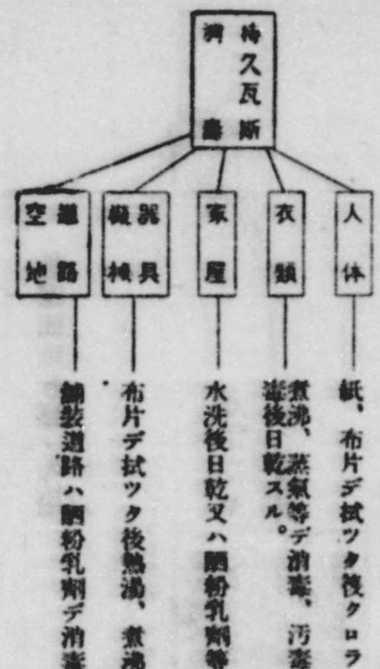
區分	名稱	位置ノ變化	瓦斯ノ狀態	外人ノ性狀	作用	瓦斯機ノ方式	方式ノ性狀
吸氣瓦斯	空氣	無變	無變	性質一	空氣ハ瓦斯ノ燃焼ニ必要ナル酸素ヲ供給シ、瓦斯ノ冷却ヲ助ケ、爆發ノ力ヲ強クシ、又ハ爆發ノ力ヲ弱クシ、一般ニ機力ヲ增ス	爆發瓦斯下校	面積
吸氣瓦斯	瓦斯	瓦斯ノ變化ニシテ空氣ノ變化ニ從フ	瓦斯ノ變化ニシテ空氣ノ變化ニ從フ				
		瓦斯ノ變化ニシテ空氣ノ變化ニ從フ	瓦斯ノ變化ニシテ空氣ノ變化ニ從フ				
爆發瓦斯	水蒸氣	瓦斯ノ變化ニシテ空氣ノ變化ニ從フ	瓦斯ノ變化ニシテ空氣ノ變化ニ從フ		水蒸氣ハ「爆」ノ力ヲ強クシ、「ピストン」ヲ推出スル力ヲ增ス		
	炭酸瓦斯	瓦斯ノ變化ニシテ空氣ノ變化ニ從フ	瓦斯ノ變化ニシテ空氣ノ變化ニ從フ				
	空氣	空氣ノ變化ニシテ瓦斯ノ變化ニ從フ	空氣ノ變化ニシテ瓦斯ノ變化ニ從フ		空氣ハ瓦斯ノ燃焼ニ必要ナル酸素ヲ供給シ、瓦斯ノ冷却ヲ助ケ、爆發ノ力ヲ強クシ、又ハ爆發ノ力ヲ弱クシ、一般ニ機力ヲ增ス		
排氣瓦斯（爆發瓦斯ノ殘滓）		空氣ノ變化ニシテ瓦斯ノ變化ニ從フ	空氣ノ變化ニシテ瓦斯ノ變化ニ從フ				

空氣瓦斯ノ性狀

毒瓦斯 救急處置法

區分		救急處置	注意
窒息瓦斯	塩素 ホスゲン ヂホスゲン	1. 絶對安靜保溫 2. 酸素吸入 3. 「コーヒー」又ハ「コニヤック」服用 4. 鎮痛、鎮心劑注射	人口呼吸ハ極ナ危險
強涙瓦斯	臭化ビタリン 臭化アセトフエノン 臭化ベンヂル	洗眼（二%重曹水又ハ二%硼酸水）	發厚ナル「臭化ビタリン」ハ窒息瓦斯ト同樣ノ處置ヲ必要
クシヤミ瓦斯	アダムサイト ヂフエニール塩化砒素 ヂフエニール青化砒素	1. 含嗽及吸入（二%重曹水） 2. 皮膚ニ觸レタレバ二%重曹「ソーダ」水ニテ洗滌	
糜爛瓦斯	芥子瓦斯	1. 人工呼吸法 2. 酸素吸入 3. 安靜保溫	
	イペリット ルイサイト	1. 拭取（布片紙等） 2. 洗滌（石油） 3. 殺菌（泥狀晒粉又ハ過マンガン酸カリ「マグネシヤ」泥狀晒粉等） 4. 洗眼、含嗽（五千倍過マンガン酸カリ水）	

持久性瓦斯ニ依ル汚毒物ノ消毒法



人体 — 紙、布片デ拭ツタ後クロラミン液デ洗滌スル。

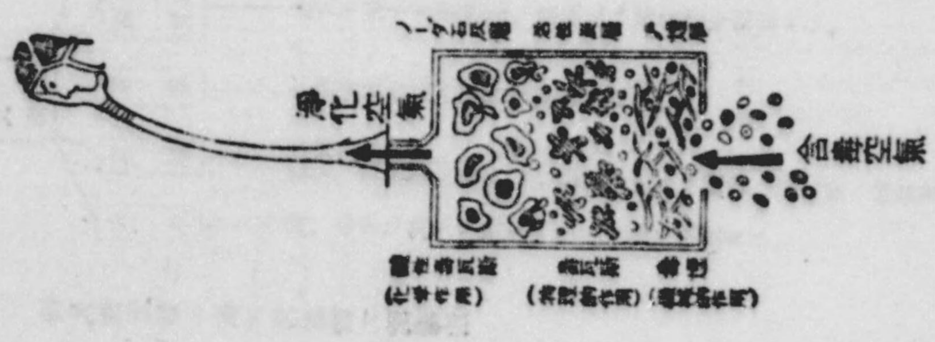
衣類 — 煮沸、蒸氣等デ消毒、汚毒甚シクレバ焼却、防毒服ハ晒粉乳劑デ煮毒後日乾スル。

家屋 — 水洗後日乾又ハ晒粉乳劑等デ消毒。

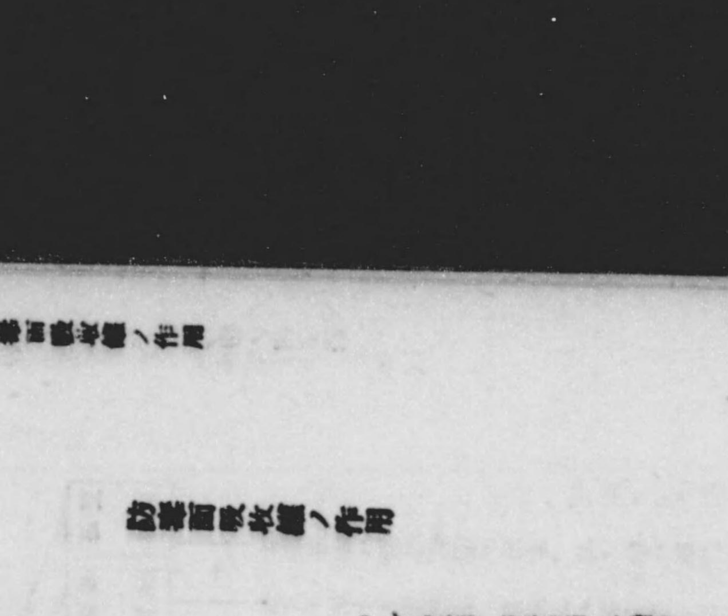
器具機械 — 布片デ拭ツタ後熱湯、煮沸又ハ蒸氣等デ消毒スル。

道路空地 — 鋪装道路ハ晒粉乳劑デ消毒、其ノ他ハ晒粉ヲ撒布シ土ト混和スル。

防毒面及其機ノ作用



現勤機ノ高度ト防空機關銃力トノ比較



防毒室、防毒蚊帳の棲息可能時間の例

防毒室			防毒蚊帳		
廣さ	收容人員	棲息可能時間	種類	收容人員	棲息可能時間
十疊間	十人	約七時間	十疊吊	十人	約三時間半
八疊間	八人		八疊吊	八人	
六疊間	六人		六疊吊	六人	
四疊半	四人		四半吊	四人	

●止血法

指壓ニ依ル止血法

指先ヨリ出血ノ場合

手又ハ前膊ヨリ出血ノ場合

上膊或ハ腋窩ヨリ出血ノ場合

下腿又ハ大腿ヨリ出血ノ場合

一、指先ヨリ出血ノ場合
ソノ指ノ根ノ兩側ニ拇指ト人サシ指トノ腹ヲ當テ、强ク壓迫スル。

一、手又ハ前膊ヨリ出血ノ場合
止血法

上膊ノ力コブノ内側ニアル浅イ溝ノ脈處ニ拇指ヲ當テ、掌ヲ力コブニ密着シテ上膊ヲ握リ、拇指ノ腹デ強ク骨ニ向ツテ壓迫スル。

一、上膊又ハ腋窩ヨリ出血ノ場合

出血スル側ノ鎖骨ノ上ノ窪ノ内側ニアル脈處ニ拇指ヲ當テ他ノ四指ハ肩ニ副ヒテ後ニ廻シ掻揩ノ腹デ深ク内下方第一肋骨ニ向ヒ、拇指ノ頭ヲ鎖骨ノ下ニ押シコムヤウニ壓迫スル。

此ノ際、患者ノ右側ヲ止血ショウトスレバ、處置スル人ハ左手ヲ以テ、又患者ノ左側ナラバ右手ヲ以テ止血法ヲ行ハネバナラヌ。

一、下腿又ハ大腿ヨリ出血ノ場合

モモノツケネノ中央ニアル脈處ニ兩手ノ拇指ヲ重ネテ當テ、骨ニ向ヒ強ク壓迫スル。

止血帶ノ使用法

上肢ノ止血帶（繃帶法）

下肢ノ止血帶（繃帶法）

上肢又ハ下肢ノ出血甚シイトキ、或ハヤヤ長時間ニワタリ止血ノ必要アルトキハ、キズヨリ上デ上肢ナラバ上膊、下肢ナラバ大腿ヲ疊ンダ三角巾、手拭ノ類デユルク卷キ、末端ヲ結ビ、コレニ棒ノ類ヲサシ、引キ上ゲツヽマワシテ強ク緊メ出血ガ止ンダラ挿ンダ棒ノ端ヲ留メテ置ク。

此ノ緊メルトキ皮膚ヲ挾ミツケナイヤウニ注意シナケレバナラヌ。

緊メテカラ二時間以上持續スルノハ禁物デアルカラ、概ネ二時間ニナルトキハ、キズヨリモ心臟ニ近イ脈處ヲ壓シ、緊メタモノヲユルメ、ナホ出血スルトキハガーゼヲ當テ、キズヲ壓迫シ、暫クシテ再ビ前ノヤウニ緊メクヽルノデアル。

●三角巾ノ使用法

三角巾ノ大キサハ概ネ左圖ノ如ク底邊ノ長サ約一米五〇糎、高サハ底邊ノ半分ノ約七十五糎デアル。

地質ヤ色合ハ何デモ差支ヘナイガ、通常白色ノ木綿ガヨイ、尤モ風呂敷等ヲ適當ニ切ツテ利用スルコトモ出來ル。

全巾ヲ、眞半分ニ折リ又ハ切ツタモノヲ半巾ト云ヒ、頂ヲ底邊ノ中央ニ向ツテ折リ、再三之ヲ折リ返シタモノヲ疊三角巾ト云フ。

三角巾上部ノ尖ヲ頂ト云フ。

使用ノ目的、場所等ニ從ツテ、全巾、半巾又ハ疊三角巾等適當ノ廣サニシテ使用スルノデアル。

全巾、半巾、疊三角巾ノ各種卷キ方ニ就テ

一、頭ノキズヲ卷クニハ約三、四センチ底邊ヲ折リ上ゲタ全巾ノ下緣ヲ眉ノ上ニ當テ、巾ノ中央ヲ頭ノ頂ニオキ、耳ノ上ニテ左右同時ニ指ニテ絞リ、ヒダヲ作リツヽ、キユツト頭ヲ包ミ、兩端ヲ後ニ廻シ、ウナジノ窪ニテ巾ヲ交ヘ、額ニ卷キ戻シ結ンデ留メ、後ニ垂レタ三角巾ノ頂ヲ折リ返シテ頭ノ頂ニイタリ、額ニ結ンダ巾ノ一端ト結ビ合ハスノデアル。

一、額、眼、耳、等小サイキズヲ卷クトキハ疊三角巾ヲ用ヒルノデアル。

一、右胸ニケガシタ時ノ卷キ方　全巾ノ下緣ヲ約十五糎外方ニ折リ上ゲ、頂ヲキズノアル側ノ肩ノ附近ニオキ、キズニ當テタガーゼヲ固定シツヽ、下緣ノ兩端ヲ左右ノ脇カラ背ニ廻シテ、脊柱溝上ニテ結ビ、餘ツテキル長キ一端ト頂トヲキズノアル側ノ鎖骨ノ上ノ窪デ結ブ、此ノ結ビヲ背面ニシナイヨウニ氣ヲ付ケネバナラヌ。

一、臀部ノキズヲ卷クニハ全巾ノ頂ヲ上ニ向ケ、折リ上ゲタ上緣デモモヲ卷イテ結ビ、頂ヲ腰ニ卷イタ他ノ紐ノ類ニ通シ、折リ返シテ巾ノ一端ト結ビ合ハセバヨロシイ。

●患者ノ運搬法

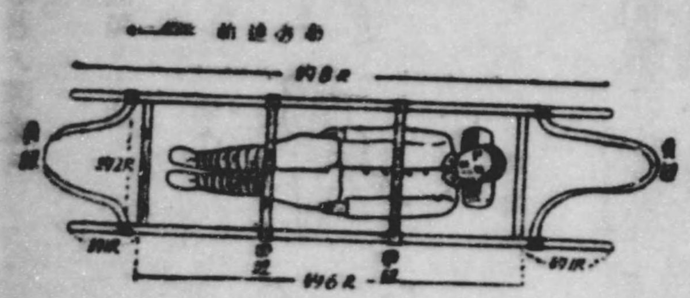
一、手運ビノ種類及方法

負ヒ方　抱キ方　片手組　論持チ　片手組ニヨリ患者ヲ載セ終ツタトコロ

馬乘リ　腰抱キ　肩ヒ抱キ　横抱キ

一、擔架ニ依ル運搬法

正式擔架ノ圖



擔架ニノセル要領

イ、擔架ハ必ズシモ正式ノモノデナクテモヨイ戸板ヲ利用シ又ハ蓆等デ造ツタ擔架デモ結構デアル

ロ、二人デノセル場合ハ前圖ノ要領デ、オロス時モ此ノ要領デヨイ、又手運ビノ横抱キデモヨロシイ場合モアル

ハ、寒イ時ニハ外套ナリ毛布等デ覆フコトガ必要デアル

ニ、前ノ方ノ者ハ一番デ、後ノ方ノ者ガ二番デアツテ、夫々任務ガ違ツテオリ、總テ一番ノ號令ニ依テ動作ヲセネバナラヌ

ホ、出發ノ時ハ負ヒ紐右、或ハ左ト警告ヲシテカラ「擧ゲ用意」ノ警令デ二人共右膝ヲ地ニツケ、負ヒ紐ヲ肩ニカケル準備ガ完了スルト二番ハ「ヨシ」ノ合圖ヲスル、ソコデ一番ハ「擧ゲ」ノ動令ヲ發スト同時ニ一番、二番共一齊ニ立ツ。次ニ「前ヘ」ノ號令ニテ一番ハ左足カラ二番ハ右足カラ行進ヲハジメル。ヘ、止マル時ハ一番ノ「止レ」ノ號令ニテ停止シ「置ケ」ノ號令ニテ二人共徐々ニ右膝ヲ地ニ著ケテ下スノデアル。

●戰時災害保護法（昭和十七年二月二十四日法律第七十一號）

第一章　總　則

第一條　戰時災害ニ因リ危害ヲ受ケタル者並ニ其ノ家族及遺族ニシテ帝國臣民タルモノハ本法ニ依リ之ヲ保護ス

第二條　本法ニ於テ戰時災害ト稱スルハ戰爭ノ際ニ於ケル戰鬪行爲ニ因ル災害及之ニ起因シテ生ズル災害ヲ謂フ

第三條　保護ハ救助、扶助及給與金ノ支給ノ三種トス

第四條　保護ハ保護ヲ受クベキ者ノ住所地（救助ニ付テハ現在地）ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ

第二章　救助

第五條　救助ハ戰時災害ニ罹リ現ニ應急救助ヲ必要トスル者ニ對シ之ヲ爲ス

第六條　救助ノ種類左ノ如シ

一　收容施設ノ供與

二　焚出其ノ他ニ依ル食品ノ給與

三　被服、寢具其ノ他ノ生活必需品ノ給與及貸與

四　醫療及助產

五　學用品ノ給與

六　埋葬

七　前各號ニ揭グルモノノ外地方長官ニ於テ必要ト認ムルモノ

2 救助ハ地方長官ニ於テ必要アリト認メタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ要救助者（埋葬ニ付テハ埋葬ヲ行フ者）ニ對シ金錢ヲ給シテ之ヲ爲スコトヲ得

3 救助ノ程度、方法及期間ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　地方長官ハ勅令ヲ以テ定ムル者ヲシテ救助ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第八條　地方長官ハ要救助者ヲシテ救助ノ實施ニ協力セシムルコト得

第九條　救助ヲ行フ爲特ニ必要アリト認ムルトキハ地方長官ハ一時勅令ヲ以テ定ムル施設ヲ管理シ、土地、家屋若ハ物資ヲ使用シ勅令ヲ以テ定ムル者ヲシテ物資ヲ保管セシメ又ハ物資ヲ收用スルコトヲ得

第十條　前條ノ規定ニ依リ管理、使用若ハ收用シ又ハ保管セシムル準備ノ爲メ必要アルトキハ地方長官ハ當該官吏ヲシテ施設、土地、家屋、物資ノ所在スル場所又ハ物資ヲ保管セシムル場所ニ立入リ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

2 地方長官ハ前條ノ規定ニ依リ物資ヲ保管セシメタル者ヨリ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ當該物資ノ所在スル場所ニ立入リ檢査セシムルコトヲ得

3 前二項ノ規定ニ依リ立入ル場合ニ於テハ其ノ旨豫メ其ノ施設、土地、家屋又ハ場所ノ管理者ニ通知スベシ

4 當該官吏第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ立入ル場合ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯スベシ

5 第十四條第一項ノ規定ニ依リ市町村長又ハ之ニ準ズルモノ第一項及第二項ニ規定スル職權ノ委任ヲ受ケルトキハ第一項、第二項及前項中當該官吏トアルハ當該官吏トス

第十一條　第七條ノ規定ニ依リ救助ノ實施ニ從事セシムル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ辨償ス

第十二條　第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ救助ノ實施ニ從事又ハ協力スル者之ガ爲傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ扶助金ヲ給ス

第十三條　第九條ノ規定ニ依リ施設ヲ管理シ土地、家屋若ハ物資ヲ使用シ、物資ヲ保管セシメ又ハ物資ヲ收用スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ損失ヲ補償ス

2 前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補償ノ額ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條　地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ定ムル救助ニ關スル職權ノ一部ヲ市町村長又ハ之ニ準ズルモノニ委任スルコトヲ得

2 行政執行法第五條及第六條ノ規定竝ニ之ニ基キテ發スル命令ハ前項ノ規定ニ依リ地方長官ガ市町村長又ハ之ニ準ズルモノニ委任シタル第七條乃至第十條ノ規定ニ依ル職權ニ基キテ爲ス處分ニ依リテ負フ義務ノ履行ヲ市町村長又ハ之ニ準ズルモノガ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　地方長官ハ救助ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ道府縣、市町村又ハ之ニ準ズルモノヲシテ救助ニ要スル費用ヲ一時繰替支辨セシムルコトヲ得

第三章　扶助

第十六條　扶助ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ當該ノ傷痍、疾病、身體障害又ハ死亡ノ爲生活スルコト困難ト爲リタルモノニ對シ之ヲ爲ス但シ傷痍、疾病又ハ死亡ガ其ノ者又ハ扶助ヲ受クベキ者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因レルモノナルトキハ扶助ヲ爲サザルコトヲ得

一　戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者

二　戰時災害ニ因ル傷痍又ハ性病ノ治療シタル場合ニ於テ仍身體ニ著シキ障害ヲ存スル者

三　前二項ニ掲グル者ノ配偶者（屆出ヲ爲サザルモ事實上婚姻ト同樣ノ關係ニ在ル者ヲ含ム以下同ジ）若ハ直系卑屬ニシテ前二號ニ掲グル者ト同一ノ家若ハ世帶ニ在ルモノ又ハ前二號ニ掲グル者ノ直系尊屬ニシテ前二號ニ掲グル者ガ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ引續キ同一ノ家若ハ世帶ニ在ルモノ

四　戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ配偶者若ハ直系卑屬ニシテ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ死亡ノ時之ト同一ノ家若ハ世帶ニ在リ且引續キ其ノ家若ハ世帶ニ在ルモノ又ハ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ直系尊屬ニシテ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ戰時災害ニ罹リタルトキ同一ノ家若ハ世帶ニ在リ且引續キ其ノ家若ハ世帶ニ在ルモノ

2　前項ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ受クベキ者本法ニ依リ救助ヲ受クルトキハ救助ヲ受クルノ間其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ扶助ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十七條　扶助ノ種類左ノ如シ

一　生活扶助
二　療養扶助
三　出產扶助
四　生業扶助

第十八條　扶助ハ戰時災害ニ因リ危害ヲ受ケタル時ヨリ勅令ヲ以テ定ムル期間ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ

2　扶助ノ程度及方法ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ埋葬ヲ行ヒ又ハ埋葬費ヲ給スルコトヲ得

第二十條　扶助ヲ受クル者六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同ジ

第二十一條　扶助ヲ受ケ又ハ受クベキ者左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルトキハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サザルコトヲ得

一　正當ノ理由ナクシテ扶助ニ關シ地方長官ノ爲ス指示ニ從ハザルトキ
二　正當ノ理由ナクシテ扶助ニ關スル檢診又ハ調査ヲ拒ミタルトキ
三　素行著シク不良ナルトキ又ハ著シク怠惰ナルトキ

第四章　給與金ノ支給

第二十二條　戰時災害ニ因リ死亡シタル者アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ遺

族ニ對シ給與金ヲ給ス戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲身體ニ著シキ障害ヲ存スル者アルトキ其ノ者ニ對シ亦同ジ

第二十三條　戰時災害ニ因リ住宅（水上生活者ノ居住ノ用ニ供スル船ヲ含ム）又ハ家財ノ滅失又ハ毀損アリタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所有者ニ對シ給與金ヲ給ス

第二十四條　業務ノ性質上戰時災害ニ因ル危害ヲ顧ミルコト能ハズシテ業務ニ從事スルコトヲ要スル者當該業務ニ從事中戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ニ對シ給與金ヲ給ス此ノ場合ニ於テハ第二十二條ノ給與金ハ之ヲ給セズ

2 前項ノ業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條　正當ノ理由ナクシテ給與金ノ支給ニ關スル檢診又ハ調査ヲ拒ミタルトキハ其ノ者ニ對シ給與金ヲ給セザルコトヲ得

第五章　雜則（省略）

第六章　罰則（省略）

●戰時災害保護法施行令（抄）（昭和十七年四月二十七日勅令第四百五十五號）

第六條　法第十二條ノ扶助金ハ療養扶助金、障害扶助金、打切扶助金、遺族扶助金及葬祭扶助金ノ五種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表第一ニ依リ之ヲ給ス

一　療養扶助金ハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官公費ノ治療ヲ受ケザルモノニ之ヲ給ス

二　障害扶助金ハ傷痍又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ著シキ障害ヲ存スル者ニ之ヲ給ス

三　打切扶助金ハ療養ノ期間一年ヲ經過スルモ傷痍又ハ疾病ノ治癒セザル者ヲ之ヲ給ス

四　遺族扶助金ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

五　葬祭扶助金ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ之ヲ給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ給スルコトヲ得

2 打切扶助金ヲ給スベキトキハ以後前項ノ規定ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ給セズ

3 救助ノ實施ニ從事又ハ協力スル者重大ナル過失ニ因リ傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ障害扶助金又ハ遺族扶助金ハ之ヲ給セザルコトヲ得

第九條　法第二十二條ノ給與金ハ障害給與金及遺族給與金ノ二種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表第二ニ依リ之ヲ給ス但シ傷痍疾病又ハ死亡ガ其ノ者ノ故意又ハ重大ナル過

失ニ因レルモノナルトキハ之ヲ給セザルコトヲ得

一　障害給與金ハ戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル日ヨリ一年以內ニ其ノ傷痍又ハ疾病ノ治癒シタル場合又ハ治癒セザルモ一年ヲ經過シタル場合ニ於テ仍身體著シキ障害ヲ存スル者ニ之ヲ給ス

二　遺族給與金ハ戰時災害ニ因リ死亡シタル者又ハ戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル日ヨリ一年以內ニ之ガ爲メ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

2 命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ前項ノ給與金ノ全部又ハ一部ハ之ヲ給セズ

第十條　法第二十三條ノ給與金ハ住宅（水上生活者ノ居住ノ用ニ供スル舟ヲ含ム以下同ジ）ニ付テハ千五百圓以內、家財ニ付テハ五百圓以內ニ於テ厚生大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ所有者ニ之ヲ給ス但シ所有者ニ於テ住宅又ハ家財ノ滅失又ハ毀損ニ付之ガ豫防又ハ防止ヲ怠リタル場合ハ之ヲ給セザルコトヲ得

2 前項ノ給與金ヲ受クベキ所有者死亡シタルトキハ給與金ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

3 命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ第一項ノ給與金ノ全部又ハ一部ハ之ヲ給セズ

第十一條　法第二十四條ノ給與金ハ療養給與金、障害給與金、打切給與金、遺族給與金及葬祭給與金ノ五種トシ第六條第一項第一號乃至第五號ニ定ムル各種扶助金支給ノ區別ニ從ヒ別表第三ニ依リ之ヲ給ス

2 第六條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ給與金ノ支給ニ之ヲ準用ス

3 命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ第一項ノ給與金ノ全部又ハ一部ハ之ヲ給セズ

（別表第一）

種別		金額
療養扶助金		實費
傷害扶助金	終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルモノ	一、五〇〇圓
	終身業務ニ服スルコト能ハザルモノ	一、〇〇〇圓
	其ノ他身體ニ著シキ傷害ヲ存スルモノ又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ	七〇〇圓
打切扶助金		一、五〇〇圓
遺族扶助金		一、〇〇〇圓
葬祭扶助金		一〇〇圓

（別表第二）

種別	金額
傷害扶助金	
遺族給與金	
終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルモノ	七〇〇圓
終身業務ニ服スルコト能ハザルモノ其ノ他身體ニ著シキ傷害ヲ存スルモノ又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痍ヲ殘シタルモノ	五〇〇圓
遺族給與金	三五〇圓
遺族給與金	五〇〇圓

（別表第三）

種別	金額
療養給與金	實費
終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルモノ	一、〇〇〇圓
傷害給與金	
終身業務ニ服スルコト能ハザルモノ	七〇〇圓
其ノ他身體ニ著シキ傷害ヲ存スルモノ又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痍ヲ殘シタルモノ	五〇〇圓
打切給與金	一、〇〇〇圓
遺族給與金	七〇〇圓
葬祭給與金	七〇圓

昭和十九年八月一日初版印刷
昭和十九年八月五日初版發行

七、〇〇〇部　定價　金八十五錢
特別行爲稅相當額拾錢
合計金九錢五錢

編纂兼發行者　東京都麹町區麹町六丁目七番地　大日本國民教育會
右代表者　山口彌一
印刷者　東京都麹町區有楽町二丁目九番地　三芳宗重郎
印刷所　東京都麹町區有楽町二丁目九番地　三勇舍印刷所（資第一〇）

東京都麹町區麹町六丁目七番地
發行所　大日本國民教育會
會員番號一一六一三〇番
電話九段（八〇）四五一五番
郵替東京五五一四番

配給元　東京都神田區淡路町二ノ九　日本出版配給株式會社

承認
協文
出
イ240497

複製不許

KI6B-86